

平成30年度 第2回新潟市水道事業経営審議会
次 第

日 時 平成30年9月28日(金) 午前9時30分から
場 所 新潟市水道局 水質管理センター2階

1 開 会

2 委員委嘱

3 議 事

- (1) 平成29年度水道事業会計決算報告について
- (2) 新・マスタープラン平成29年度事業取組の評価について
- (3) 新・マスタープラン前期実施計画終了時の達成度評価について

平成30年度 第2回経営審議会

配布資料一覧

1 平成29年度水道事業会計決算報告について

- (1) 平成29年度水道事業決算概況…………… 決算資料1
- (2) 平成29年度水道事業会計決算説明…………… 決算資料2
- (3) 平成29年度水道事業会計決算概要…………… 参考資料1
- (4) 平成29年度決算審査意見（抜粋）…………… 参考資料2

2 新・マスタープラン平成29年度事業取組の評価について

- (1) 新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～
前期実施計画（平成29年度）の取り組み状況…………… H29資料1
- (2) 新・マスタープラン事業評価管理シート
平成29年度評価結果…………… H29資料2
- (3) 新・マスタープラン平成29年度評価に関する
事前質問・回答…………… H29別紙1
- (4) 新・マスタープラン平成29年度評価に関する
経営審議会評価会長（案）…………… H29別紙2

3 新・マスタープラン前期実施計画終了時の達成度評価について

- (1) 前期実施計画重点目標の達成状況…………… 前期資料1
- (2) 前期実施計画重点目標の達成状況に関する
事前質問・回答…………… 前期別紙1
- (3) 前期実施計画重点目標の達成状況に関する
経営審議会評価会長（案）…………… 前期別紙2

新潟市水道事業経営審議会委員名簿

(任期：平成 29 年 10 月 1 日～31 年 9 月 30 日)

※ 50 音順，敬称略

氏 名	肩 書
いけだ のりよし 池田 文美	池田公認会計士事務所 公認会計士
うだ たかゆき 宇田 隆幸	新潟国際情報大学 情報文化学部 情報システム学科教授
おおぬき みねお 大貫 三子男	公益社団法人 日本水道協会 総務部長
おだ としひろ 小田 敏博	一般財団法人 新潟経済社会リサーチセンター 理事 事務局長
かとう せつこ 加藤 節子	公募委員
きしなみ くみこ 岸波 久美子	公募委員
きむら ゆみ 木村 由美	新潟商工会議所 女性会 理事
こうろ かずひろ 紅露 一寛	新潟大学 工学部教授
たかはし かつお 高橋 嘉津夫	北陸ガス株式会社 取締役企画部長
ほんま ひでこ 本間 秀子	新潟市消費者協会新潟支部 理事

※ 高橋委員の任期は平成 30 年 6 月 28 日～平成 31 年 2 月 28 日

1. 概 況

(1) 総括事項

本市水道事業の中長期的な事業運営の方針に基づき、具体的な事業・取り組みを定めた「新・新潟市水道事業中長期経営計画（新・マスタープラン）前期実施計画」の最終年度にあたる本年度も、諸施策の実現に向け、関係する事務事業を進めました。

新・マスタープランにおける三つの方向性の一つである「安全でおいしい水道水の供給」では、これまで同様、国の水質基準よりも厳しい独自の管理目標値を設定して管理するとともに、水質検査機器の整備を進めるなど、水道水の水質管理の充実・強化に努めました。

「強靱な施設・体制による給水の確保」では、引き続き、老朽化設備の更新や耐震化を図る、阿賀野川浄水場の施設整備を進めるとともに、各配水場の電気設備等の更新を着実に行いました。また、管路施設では、基幹管路及び配水支管の計画的更新に取り組み、事故・災害対策の観点から、巻浄水場系一戸頭浄水場系間の相互連絡管の整備を継続促進したほか、重要施設として位置付けている医療機関向けの配水管の耐震化を進めました。

「環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続」では、本年度より経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、水道料金等収納業務の民間委託を開始したほか、「水道モニター制度」や「水道に関するアンケート」並びに「水道事業経営審議会」を通じて、お客さまや有識者等からの意見や助言を把握し、事業運営への反映に努めました。

1 月には記録的な寒波の影響により、水道管の凍結、破裂が多数発生したことや、凍結防止策による水道使用量の増加により、配水量が合併後の最大を記録し、一部の浄水場では、供給能力を超過する非常事態となり、特に巻浄水場の配水区域では、断水が避けられない状況に至りましたが、お客さまに対する節水等の協力要請や県内外からの給水車派遣応援、緊急的に他の配水区域から仮設連絡管を布設するなど、断水の影響を最小限に抑えるよう対応を図りました。

また、3 月には、新・マスタープランの効果的・効率的な推進に向けて、前期実施計画の進捗状況や新たな課題を整理し、平成 30 年度から 3 年間で計画期間とする中期実施計画を策定しました。

配水量及び有収水量の状況

1 月からの寒波による水道管の凍結、破裂の発生や凍結防止策による水道使用量が著しく増加したことが影響し、配水量は、102,866,565 m³（前年度比 1,202,083 m³, 1.18%増）となりました。また、有収水量は 95,962,680 m³（前年度比 20,208 m³, 0.02%減）となり、有収率は、次年度に繰り越される給水量が、寒波により増大したために、平成 28 年度の 94.41%から 1.12 ポイント低下し、93.29%となりました。

主な建設改良事業の執行状況

主な建設改良事業の執行状況は、以下のとおりです。

1. 基幹管路更新事業	布設延長	5,092m	2,159,805,198 円
2. 基幹管路整備事業	布設延長	1,079m	413,549,581 円
3. 配水支管更新事業	布設延長	17,089m	2,367,326,911 円
4. 阿賀野川浄水場施設整備事業			2,220,512,320 円
5. 配水場施設整備事業			333,773,280 円

決算の状況

事業収益 162 億 5,020 万 5 千円余（消費税込み 174 億 2,731 万 7 千円余）に対し、事業費は 139 億 8,092 万円余（消費税込み 145 億 7,620 万 7 千円余）となり、当年度純利益 22 億 6,928 万 4 千円余を計上しました。

また、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、65 億 6,109 万 1 千円余となり、これを積立金などの内部留保資金で補てんしました。

以上が平成 29 年度決算の概況ですが、引き続き、健全経営の維持に努め、新・マスタープランの基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を念頭に置き、諸施策を積極的に推進していきます。

平成29年度

水道事業会計決算説明資料

新潟市水道局

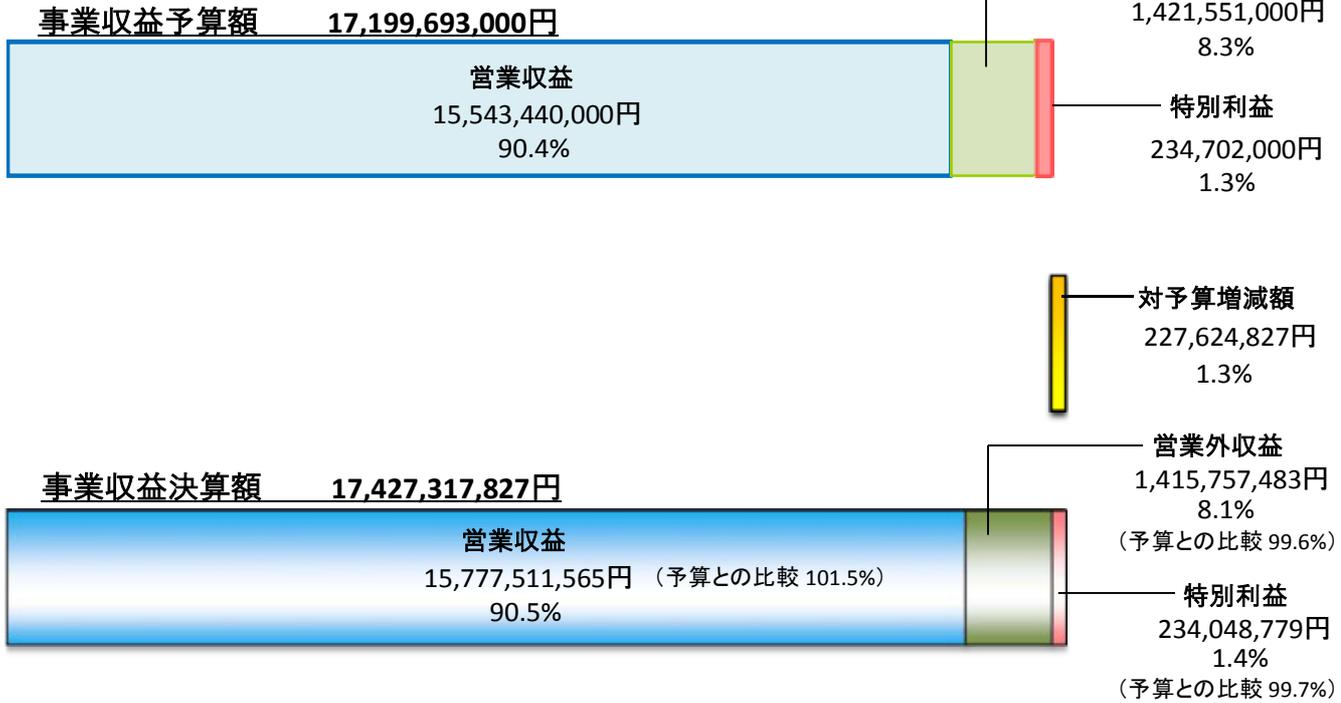
目 次

1 決算報告書の説明	
(1) 収益的収入	1
(2) 収益的支出	2
(3) 資本的収入	3
(4) 資本的支出	4
2 財務諸表の説明	
(1) 損益計算書	5
(2) 剰余金計算書及び剰余金処分計算書	6
(3) 貸借対照表	7
3 附属書類の説明	
(1) キャッシュ・フロー計算書	8
(2) 企業債現有高の状況	9
4 事業報告書の説明	
(1) 業務	10
5 その他	
(1) 経営分析指標	11

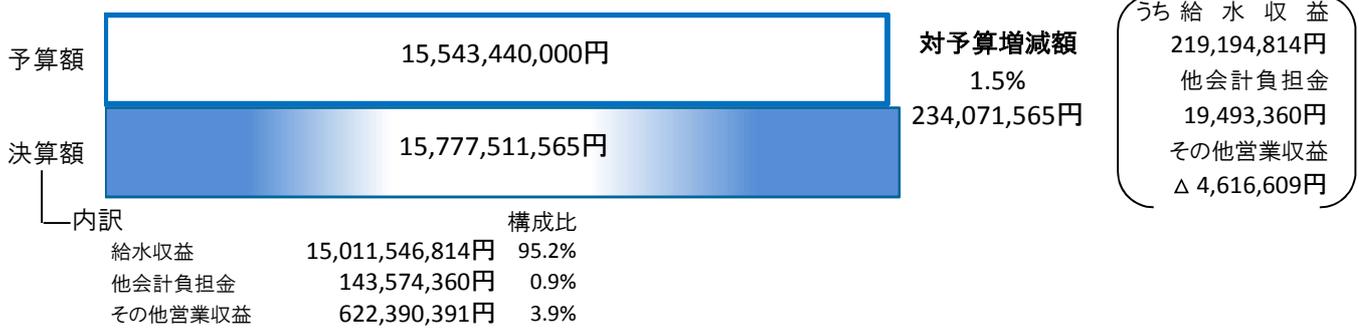
1. 決算報告書

(決算書P2・3参照)

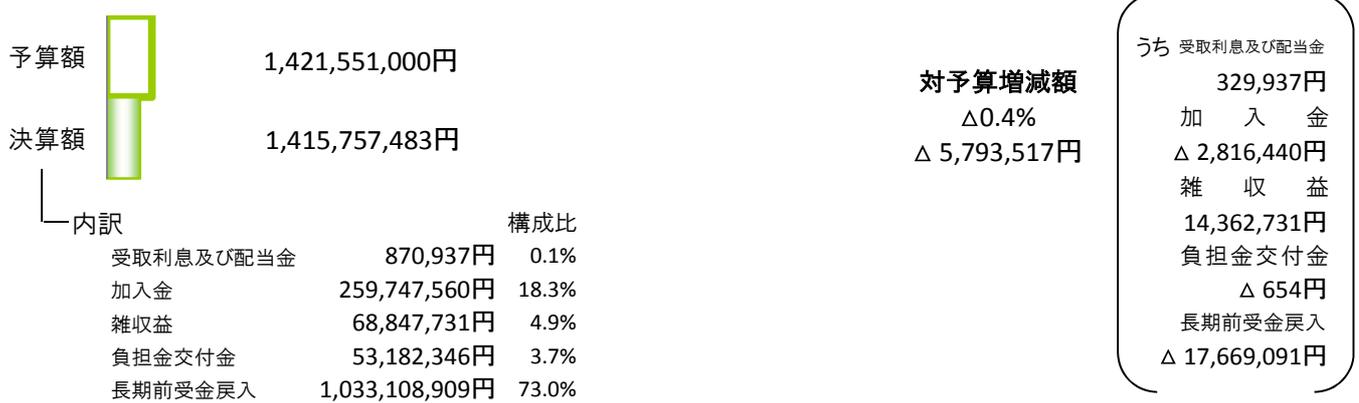
(1) 収益的収入



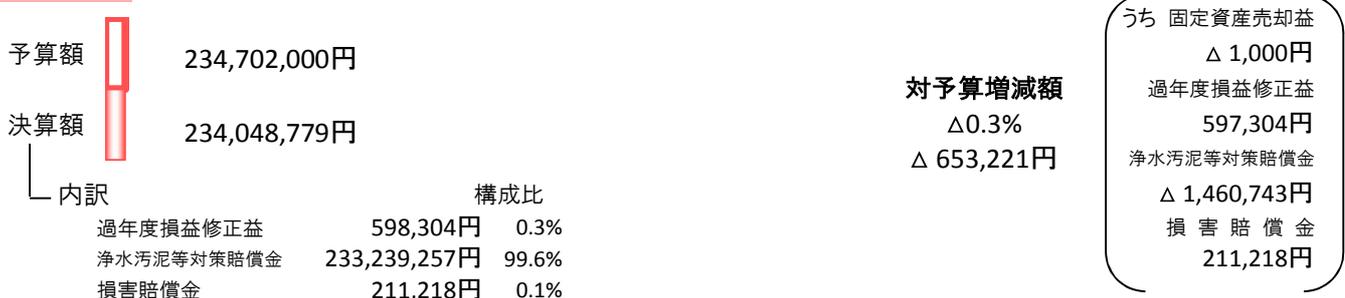
営業収益



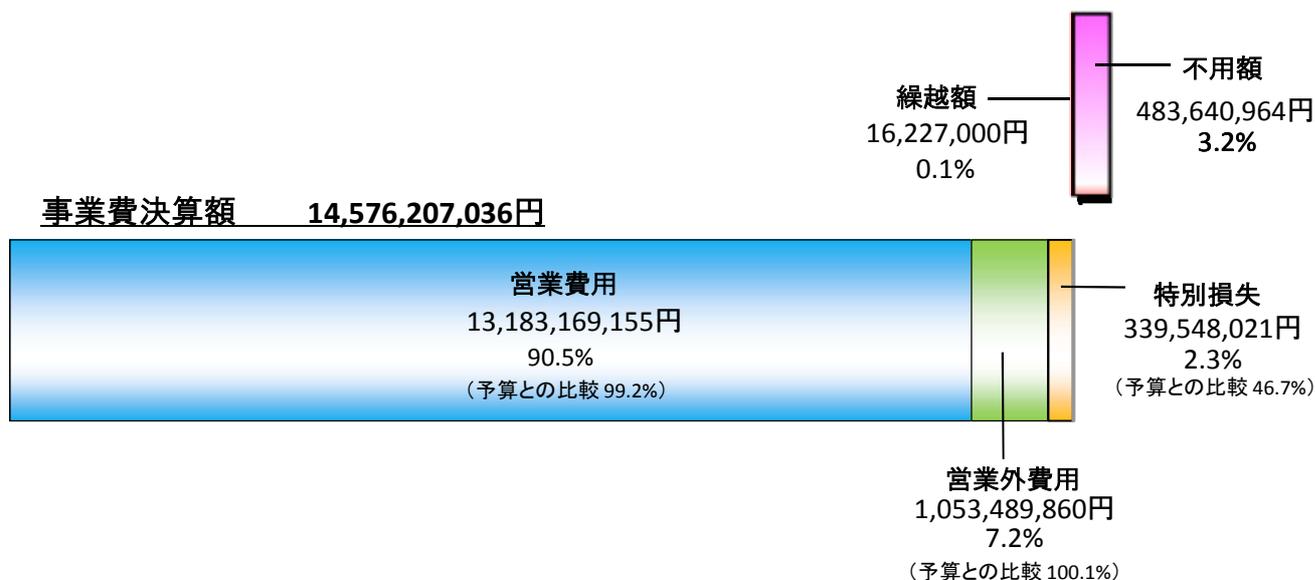
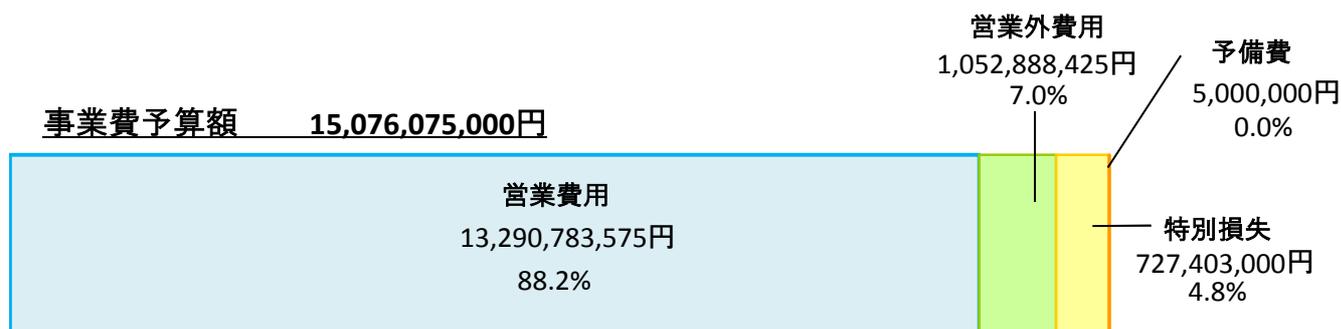
営業外収益



特別利益



(2) 収益的支出

**営業費用 13,183,169,155円**

項目	金額(円)	構成比
1. 職員給与費	2,349,434,009	17.8%
2. 委託料	1,990,601,384	15.1%
3. 修繕費	1,479,631,668	11.2%
4. 動力費	647,505,296	4.9%
5. 受水費	460,716,267	3.5%
6. 減価償却費	5,238,853,601	39.8%
7. 資産減耗費	208,436,732	1.6%
8. その他	807,990,198	6.1%

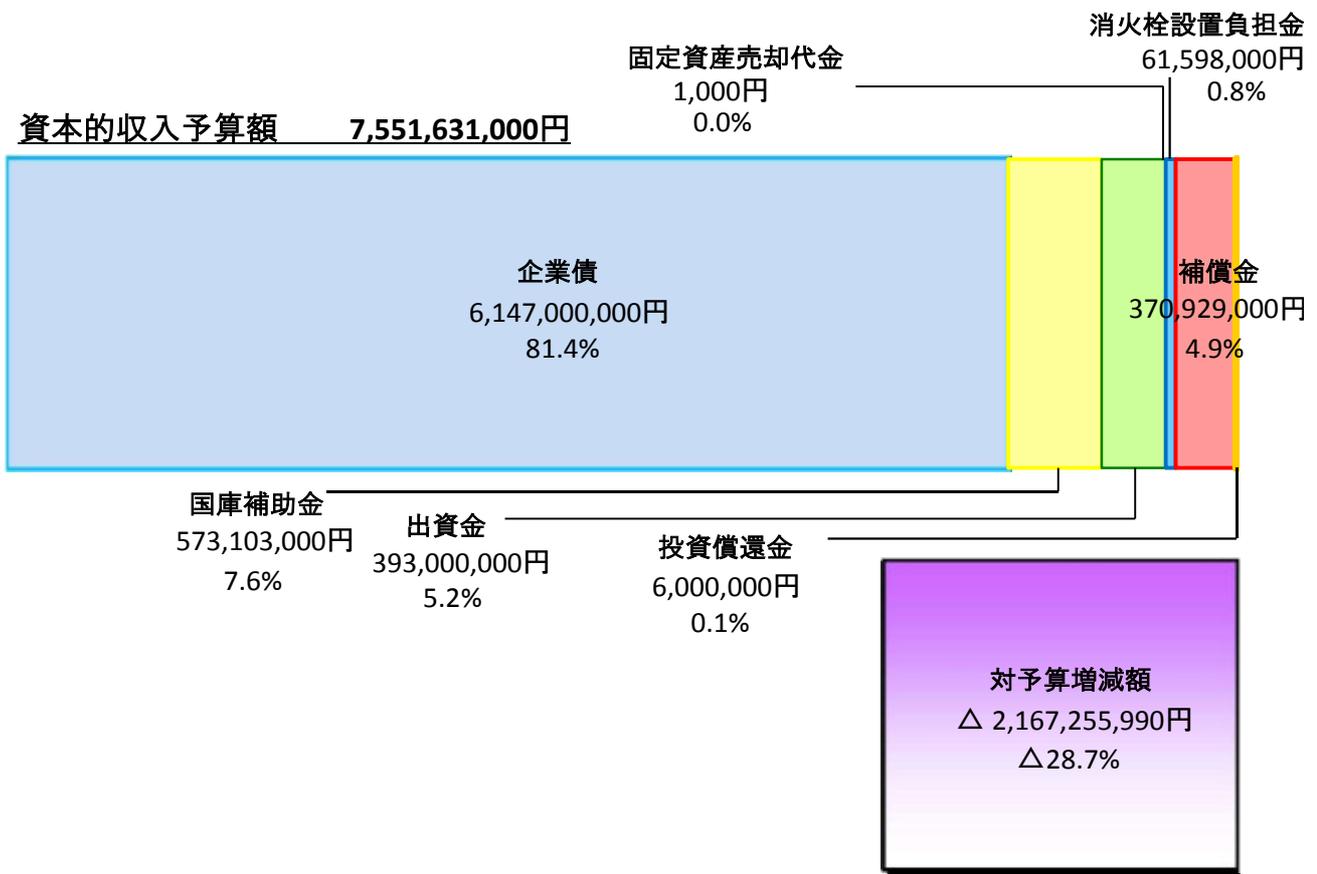
営業外費用 1,053,489,860円

項目	金額(円)	構成比
1. 支払利息	824,397,042	78.3%
2. 消費税及び地方消費税	203,559,600	19.3%
3. その他	25,533,218	2.4%

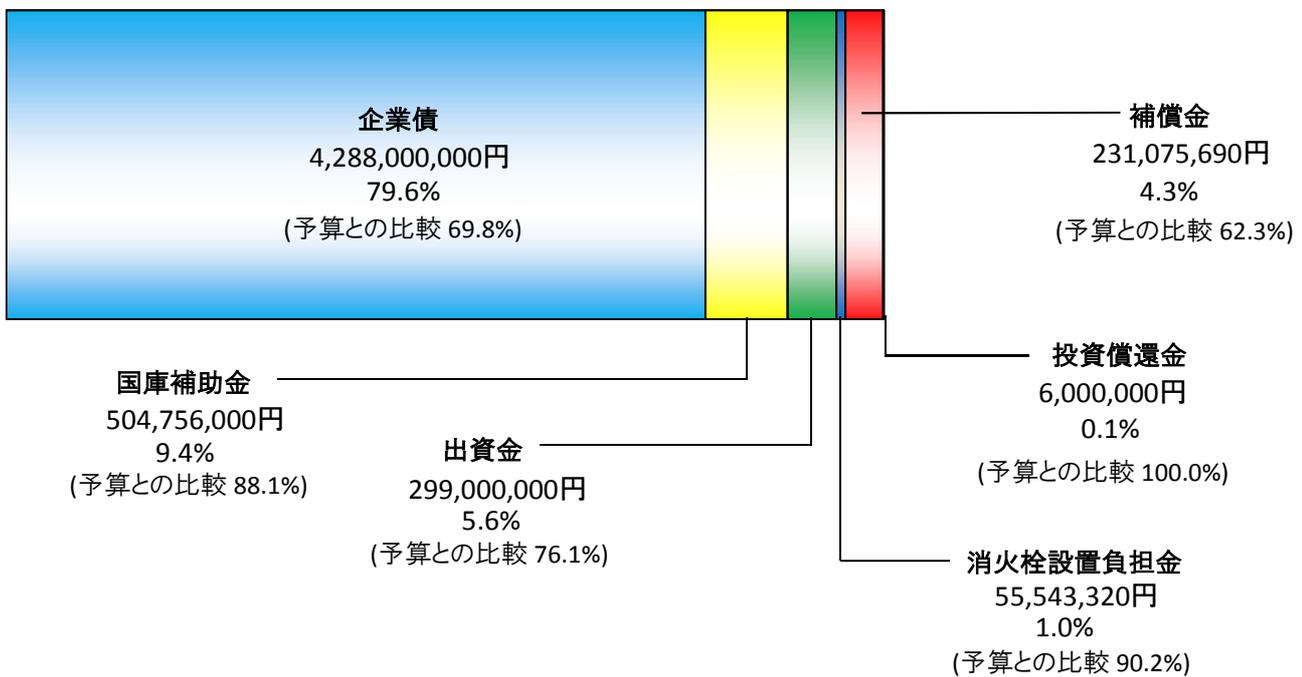
特別損失 339,548,021円

項目	金額(円)	構成比
1. 過年度損益修正損	6,254,060	1.8%
2. 減損損失	11,301	0.0%
3. 浄水汚泥等対策費	333,282,660	98.2%

(3) 資本的収入

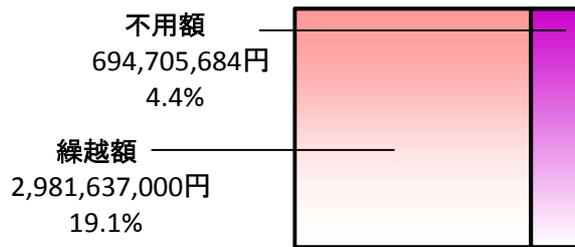


資本的収入決算額 5,384,375,010円



(4) 資本的支出

資本的支出予算額 15,621,809,600円



資本的支出決算額 11,945,466,916円

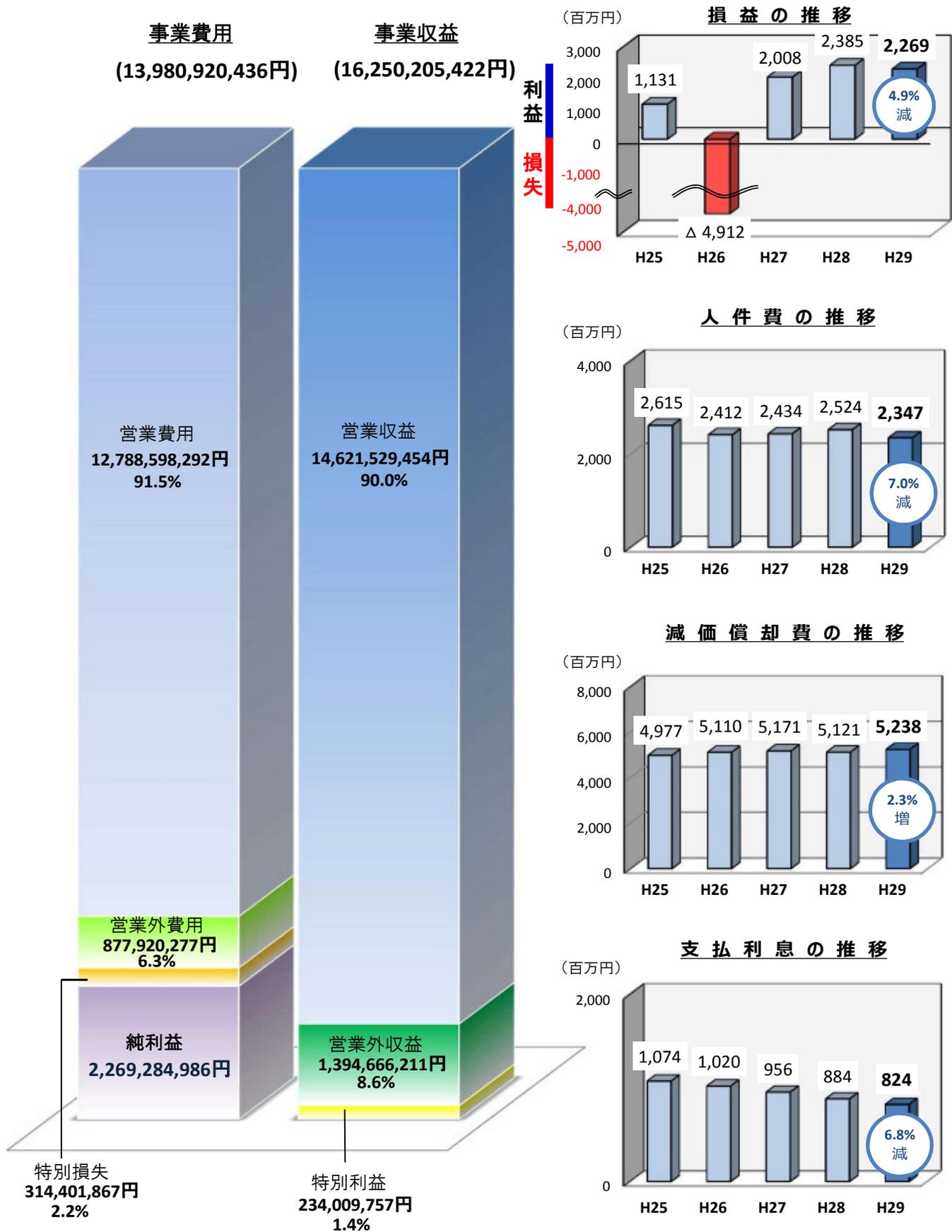


建設改良費の内訳 9,034,950,311円

	金額(円)	構成比(%)
1 原水施設費	62,758,000円	0.7%
2 浄水施設費	223,644,934円	2.5%
3 配水施設費	36,850,000円	0.4%
4 営業設備費	223,086,453円	2.5%
5 基幹管路更新費	2,000,109,925円	22.1%
6 基幹管路整備費	382,916,280円	4.2%
7 配水支管更新費	2,191,969,368円	24.3%
8 配水支管整備費	925,115,161円	10.2%
9 阿賀野川浄水場施設整備費	2,056,029,926円	22.8%
10 配水場施設整備費	309,049,334円	3.4%
11 仮払消費税及び地方消費税	623,420,930円	6.9%

2. 財務諸表

(1) 損益計算書

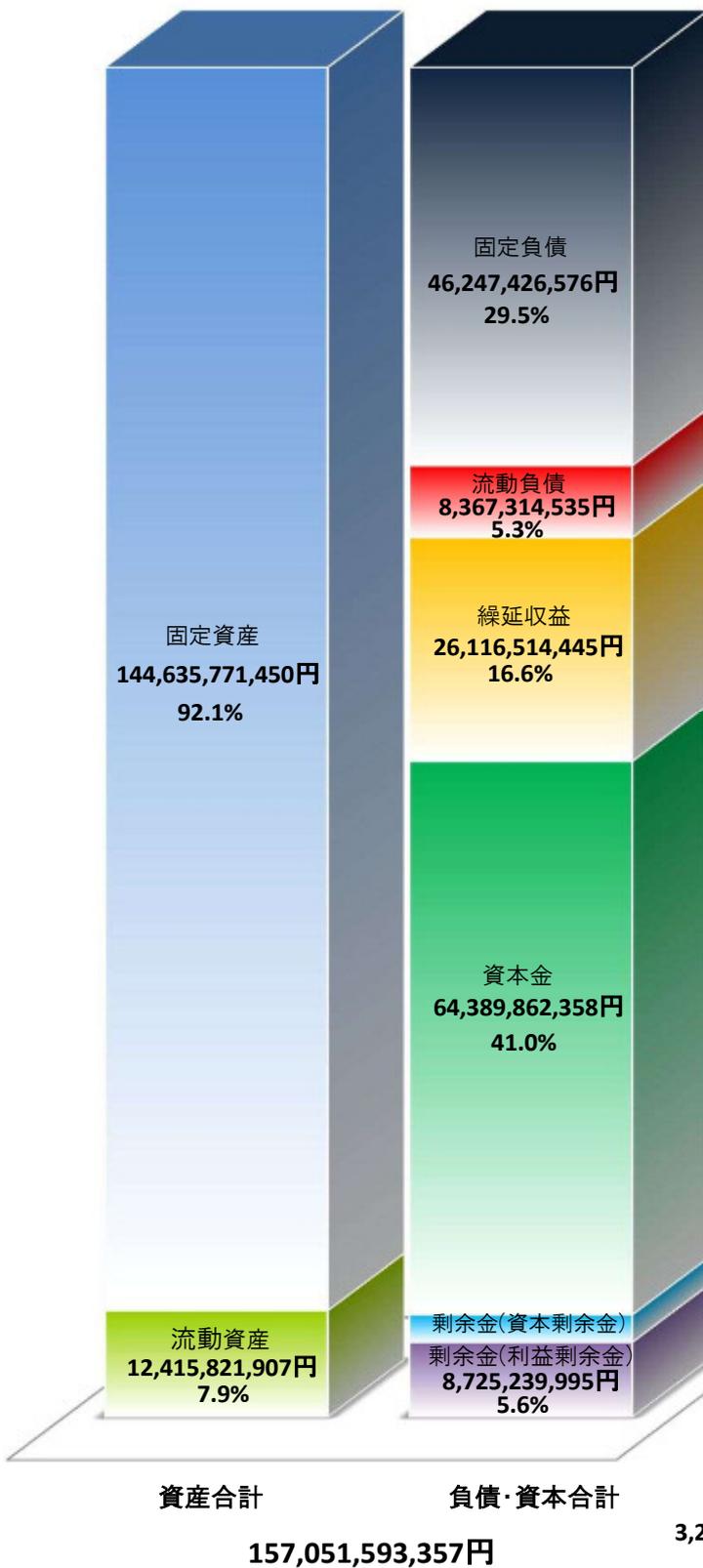


(2) 剰余金計算書及び剰余金処分計算書

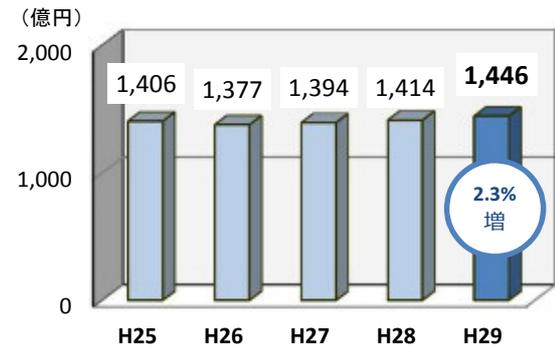
(単位円)

年度		平成28年度	平成29年度
項目			
A 年度末残高	建設改良積立金	6,179,412,562	6,455,955,009
	未処分利益剰余金(繰越分)	0	0
	純利益(未処分)	2,385,137,117	2,269,284,986
	計	8,564,549,679	8,725,239,995
B 当年度充当(処分)額	建設改良積立金	2,108,594,670	1,716,370,029
	繰越利益剰余金	0	0
	純利益	0	0
	計	2,108,594,670	1,716,370,029
年度末利益剰余金残高	建設改良積立金	4,070,817,892	4,739,584,980
	未処分利益剰余金		
	1)繰越分	0	0
	2)その他未処分利益剰余金変動額 <建設改良積立金充当振替額>	2,108,594,670	1,716,370,029
	3)純利益(未処分)	2,385,137,117	2,269,284,986
計	8,564,549,679	8,725,239,995	
◎ 利益剰余金年度末残高		8,564,549,679円	8,725,239,995円
◎ うち未処分利益剰余金年度末残高 (ア+イ)		4,493,731,787円	3,985,655,015円
		議決処分	議決処分
		建設改良積立金へ積立 (2,385,137,117円) 資本金へ組入 (2,108,594,670円)	建設改良積立金へ積立 (2,269,284,986円) 資本金へ組入 (1,716,370,029円)

(3) 貸借対照表

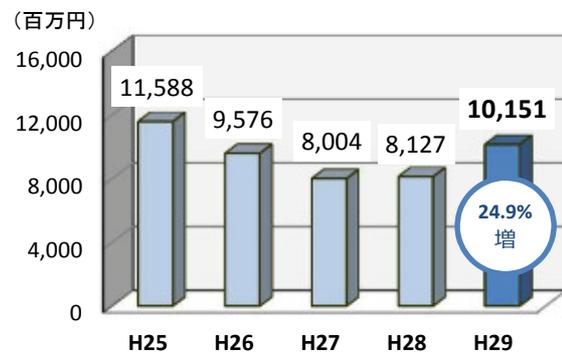


1. 固定資産

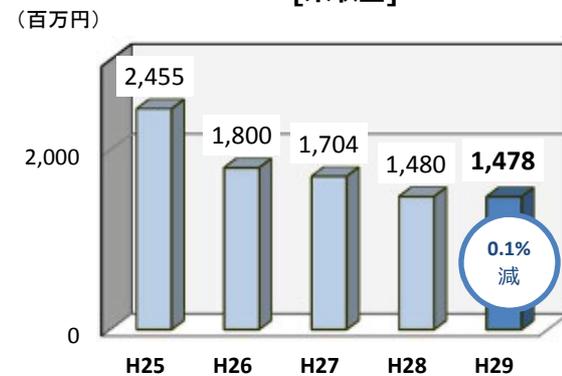


2. 流動資産

[現金・預金]

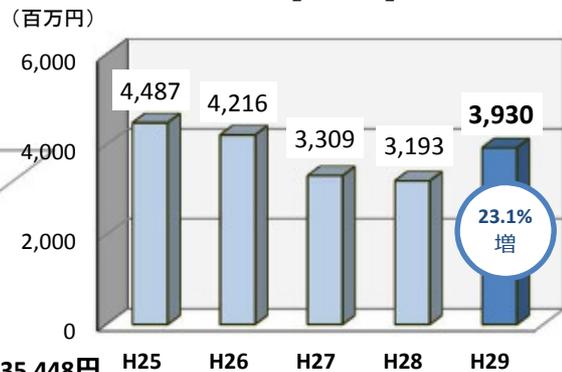


[未収金]



3. 流動負債

[未払金]



3,205,235,448円
2.0%

3. 附属書類

(決算書P16参照)

(1) キャッシュ・フロー計算書 [間接法による]

(単位 千円)

項目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	6,384,313	6,402,300	5,798,008
1 当年度純利益	2,269,285	2,385,137	2,008,375
2 減価償却費(+)	5,238,854	5,121,016	5,171,385
3 資産減耗費(+)	186,990	226,054	234,432
4 減損損失(+)	11	0	0
5 引当金の増加(+), 減少(▲)	▲ 125,611	▲ 109,287	▲ 217,148
6 長期前受金戻入額(▲)	▲ 1,033,109	▲ 1,038,480	▲ 1,101,825
7 受取利息及び受取配当金	▲ 871	▲ 1,542	▲ 2,716
8 支払利息及び企業債取扱諸費	824,397	884,882	956,250
9 固定資産売却益(▲), 損(+)	0	▲ 166	0
10 未収金の増加(▲), 減少(+)	▲ 75,816	▲ 19,184	▲ 35,662
11 未払金の増加(+), 減少(▲)	11,990	▲ 114,283	86,897
12 貯蔵品の増加(▲), 減少(+)	824	▲ 17,933	1,029
13 その他流動資産の増加(▲), 減少(+)	▲ 91,712	▲ 21	▲ 380,351
14 その他流動負債の増加(+), 減少(▲)	56,149	3,302	30,876
15 その他	▲ 53,542	▲ 33,855	0
小計	7,207,839	7,285,640	6,751,542
16 利息及び配当金の受取額	871	1,542	2,716
17 利息の支払額	▲ 824,397	▲ 884,882	▲ 956,250
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5,917,799	▲ 6,604,613	▲ 6,806,319
1 有形及び無形固定資産の取得による支出(▲)	▲ 6,851,577	▲ 7,326,658	▲ 7,682,257
2 有形及び無形固定資産の売却による収入(+)	0	166	0
3 国庫補助金等による収入(+)	927,778	751,879	875,938
4 他会計への短期貸付金支出(▲)	0	▲ 300,000	▲ 1,500,000
5 他会計からの短期貸付金償還金収入(+)	0	300,000	1,500,000
6 他団体への長期貸付金支出(▲)	0	▲ 30,000	0
7 他団体からの長期貸付金償還金収入(+)	6,000	0	0
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,557,239	325,430	▲ 564,207
1 建設改良等の財源に充てるための企業債による収入(+)	4,288,000	2,976,000	2,099,000
2 建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出(▲)	▲ 2,910,517	▲ 2,852,431	▲ 2,979,601
3 他会計からの出資による収入(+)	241,000	254,000	360,000
4 リース債務の返済による支出(▲)	▲ 61,244	▲ 52,139	▲ 43,606
IV 資金増加額 (又は減少額)	2,023,753	123,117	▲ 1,572,518
V 資金期首残高	8,127,349	8,004,232	9,576,750
VI 資金期末残高	10,151,102	8,127,349	8,004,232

(2) 企業債現有高の状況

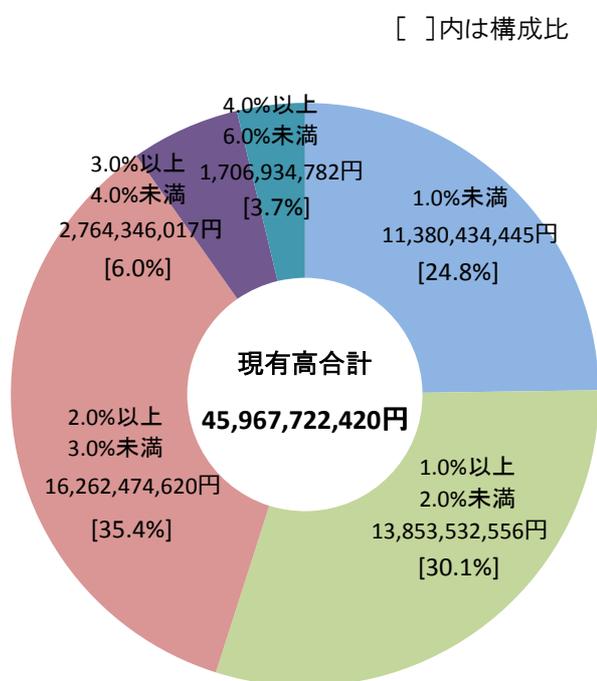
(ア)借入事業別一覧

事業名	(単位 円)	
	現有高	構成比
第5回拡張事業	279,711,556	0.61%
浄水場用地取得事業	1,143,890,005	2.49%
配水管整備事業	1,963,783,719	4.27%
青山浄水場施設改良事業	6,031,411	0.01%
配水管幹線整備事業	3,483,995,449	7.58%
信濃川浄水場建設事業	10,624,854,958	23.11%
広域系統連絡管整備事業	4,705,426,467	10.24%
老朽管改良事業	3,490,030,382	7.59%
基幹管路更新事業	3,249,000,000	7.07%
配水支管更新事業	3,229,000,000	7.03%
浄水施設改良事業	180,387,708	0.39%
安全対策事業	773,108,681	1.68%
青山浄水場施設整備事業	2,798,727,274	6.09%
阿賀野川浄水場施設整備事業	2,262,000,000	4.92%
配水場施設整備事業	296,000,000	0.64%
黒埼地区上水道事業	9,649,861	0.02%
新津地区上水道事業	1,489,334,202	3.24%
白根地区上水道事業	2,177,148,022	4.74%
豊栄地区上水道事業	614,979,253	1.34%
小須戸地区上水道事業	841,137,422	1.83%
横越地区上水道事業	12,087,877	0.03%
亀田地区上水道事業	65,136,560	0.14%
岩室地区上水道事業	81,347,216	0.18%
西川地区上水道事業	322,139,409	0.70%
中之口・渦東地区上水道事業	82,679,683	0.18%
月渦地区簡易水道事業	359,298,539	0.78%
巻地区上水道事業	686,110,766	1.49%
高金利対策借換債	740,726,000	1.61%
合計	45,967,722,420	100.00%

(イ)借入先別一覧

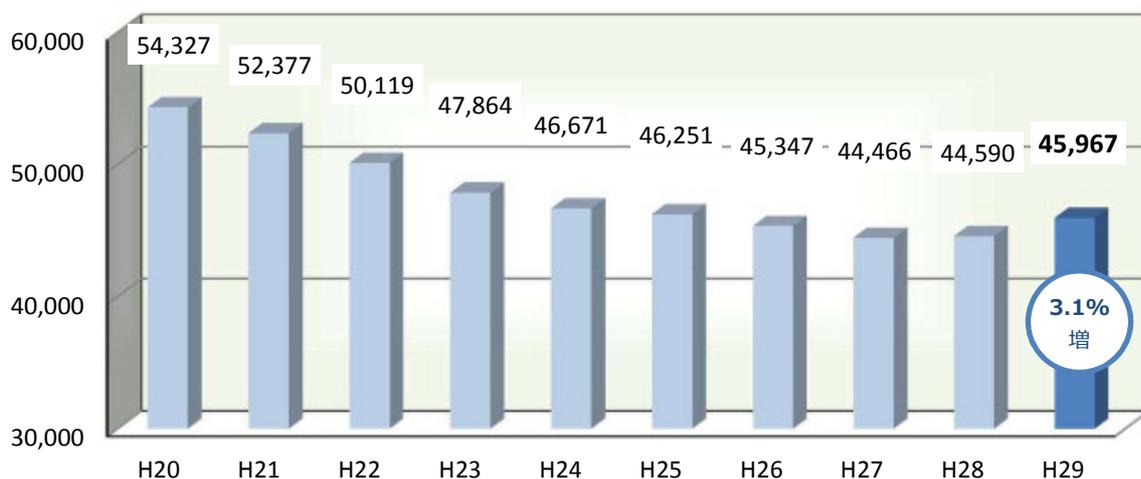
借入先	(単位 円)	
	現有高	構成比
財務省	34,076,400,701	74.13%
地方公共団体金融機構	11,150,595,719	24.26%
(株)かんぽ生命保険	103,640,000	0.23%
(株)大光銀行	1,932,000	0.00%
信金中央金庫	635,154,000	1.38%
合計	45,967,722,420	100.00%

(ウ)利率別一覧



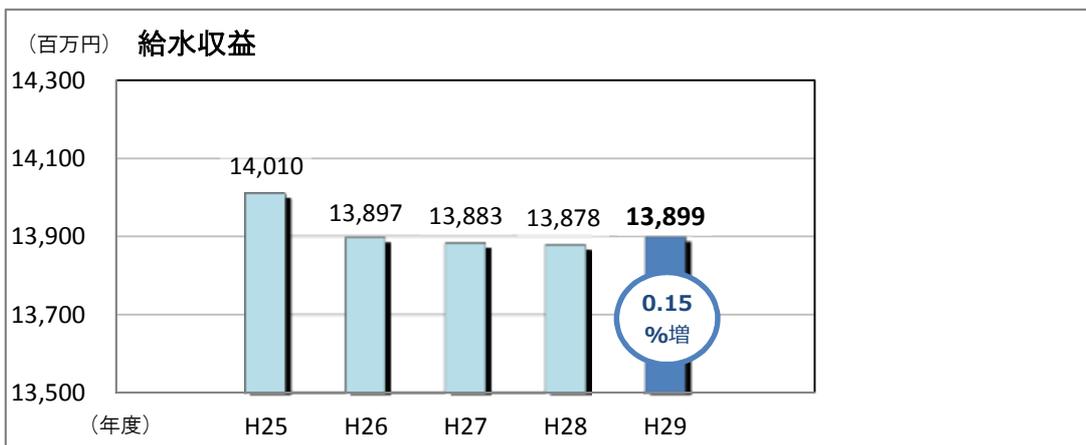
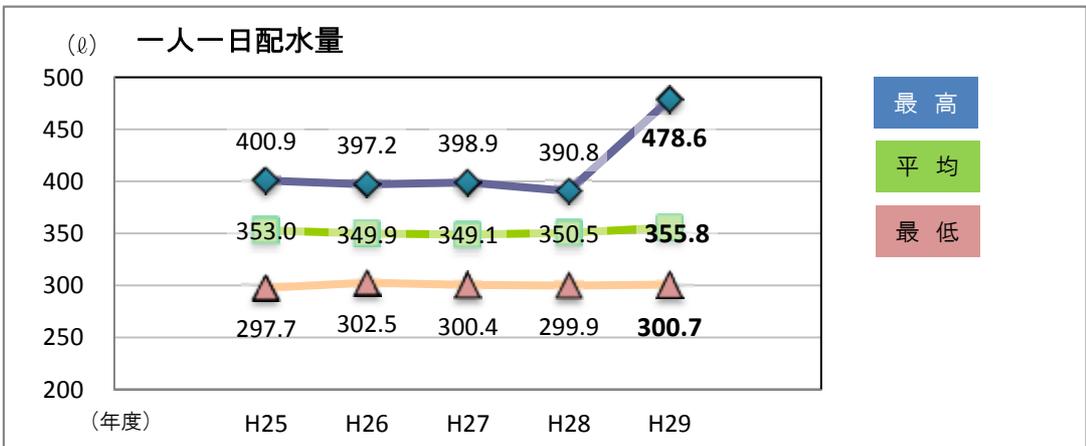
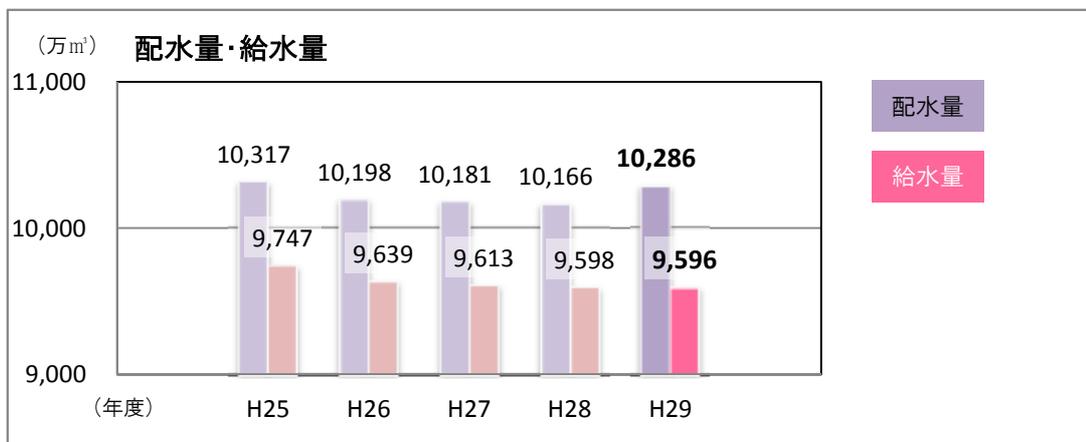
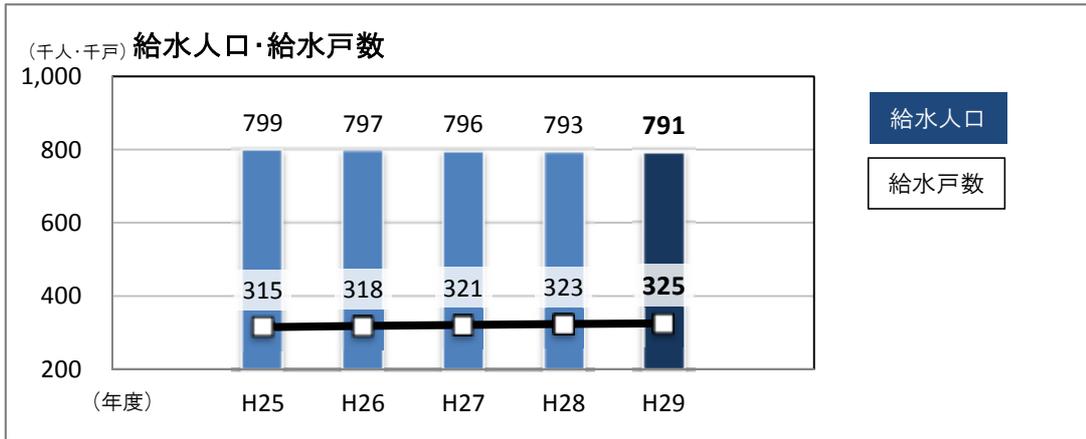
(百万円)

(エ)現有高の年度別推移



4. 事業報告書

(1) 業務



5. その他

(1) 経営分析指標

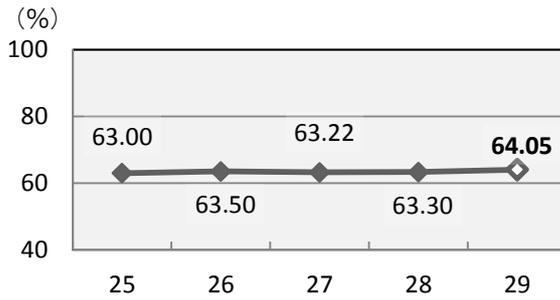
項目		年度	25	26	27	28	29	政令指定都市 の事業平均 (平成28年度) ※		
施設 及び 業務 概要	1	施設利用率	%	63.00	63.50 (62.27)	63.22	63.30	64.05	61.67	
	2	最大稼働率	%	71.72	72.30 (70.90)	72.51	70.84	86.29	68.05	
	3	負荷率	%	87.83	87.83	87.19	89.36	74.23	90.73	
	4	供給単価	円/m ³	143.74	144.18	144.43	144.60	144.84	167.13	
	5	給水原価	円/m ³	137.80	129.31 《140.56》	131.24 《142.14》	125.65 《136.47》	125.87 《136.64》	154.10 《165.64》	
	費用 構成 内訳	職員給与費		円/m ³	24.97	23.09	23.38	24.44	23.20	26.29
		企業債利息		円/m ³	11.03	10.60	9.95	9.22	8.59	9.67
		減価償却費		円/m ³	51.07	53.02	53.70	53.22	54.46	57.00
		動力費		円/m ³	5.92	6.76	6.31	5.73	6.25	4.28
		修繕費		円/m ³	13.60	14.35	14.92	13.85	14.27	10.44
		材料費		円/m ³	0.04	0.04	0.06	0.04	0.03	0.69
		薬品費		円/m ³	2.10	2.11	2.20	1.62	1.65	0.99
		委託料		円/m ³	14.23	14.21	14.33	14.70	15.39	15.44
		受水費		円/m ³	4.38	4.42	4.45	4.44	4.44	25.25
その他		円/m ³	10.46	11.96	12.84	9.21	8.36	15.59		
長期前受金戻入		円/m ³	-	△ 11.25	△ 10.90	△ 10.82	△ 10.77	△ 11.54		
6	料金回収率	%	104.31	111.49	110.05	115.08	115.07	109.05		
7	有収率	%	94.48	94.51	94.42	94.41	93.29	92.19		
8	職員一人 あたり	給水人口	人	2,806 [2,596]	2,760 [2,565]	2,774 [2,465]	2,813 [2,479]	3,008 [2,628]	3,415	
9		給水量	m ³	342,014 [316,474]	333,534 [309,940]	334,949 [297,617]	340,365 [299,947]	364,877 [318,813]	359,533	
10		営業収益	千円	51,669 [47,811]	50,458 [46,889]	50,874 [45,204]	51,779 [45,631]	55,595 [48,577]	62,807	
損益 収支 ・ 資本 収支	11	総収支比率	%	107.82	77.76	113.83	117.14	116.23	115.88	
	12	経常収支比率	%	104.63	110.86	112.92	116.92	117.19	116.52	
	13	流動比率	%	263.57	141.69	143.02	145.96	148.38	202.29	
	14	料金収入に 対する比率	企業債残高	%	330.12	326.30	320.28	321.29	330.71	292.62
	15		企業債償還元金	%	22.72	22.00	21.46	20.55	20.94	19.13
	16		企業債利息	%	7.67	7.34	6.89	6.38	5.93	5.83
	17		職員給与費	%	17.37	16.02	16.19	16.90	16.01	15.98

※「政令指定都市の事業平均」の数値は、大半が県営水道の千葉市・相模原市を除いて算出

- ・ ()内は年度途中で廃止した浄水場を含んだ数値
- ・ 局長及び再任用職員を含まない損益勘定支弁職員数により算出, []内は再任用職員数を含む
- ・ 26年度以降、減価償却見合いの長期前受金戻入額を控除し給水原価を算出, 《 》内は未控除での数値

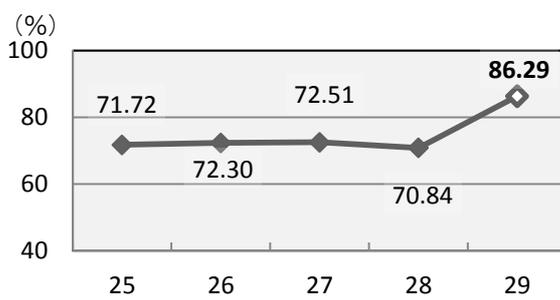
主な指標について

1. 施設利用率



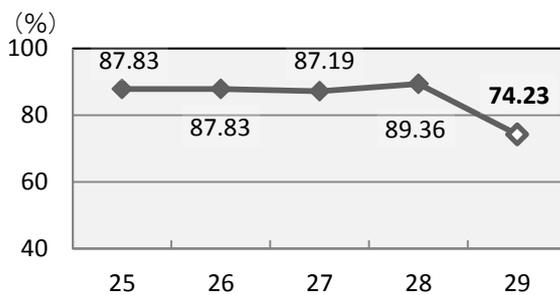
算出方法	(%)
	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$
説明	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適性規模を判断する指標です。当該指標については、明確な数値基準はありませんが、一般的には高い数値であることが望まれます。

2. 最大稼働率



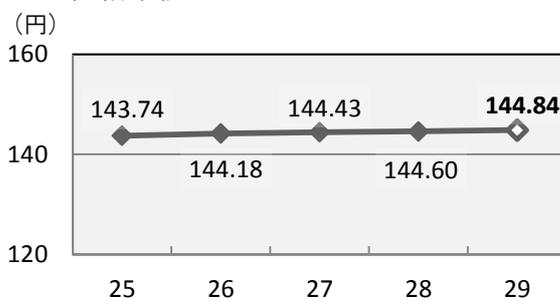
算出方法	(%)
	$\frac{\text{一日最大配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$
説明	将来の水需要に対応すべき先行投資の適正を示します。100%に近づくほど良いが、100%を超えると能力不足を意味し、大きく下回ると過大施設を有していることとなります。

3. 負荷率



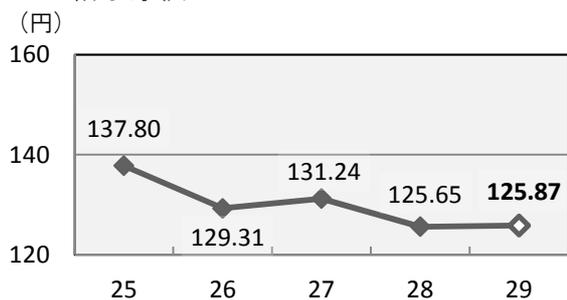
算出方法	(%)
	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日最大配水量}} \times 100$
説明	比率が高いほど施設効率が低いことを表しています。施設の効率性については、施設利用率、最大稼働率と併せて判断することとなります。

4. 供給単価



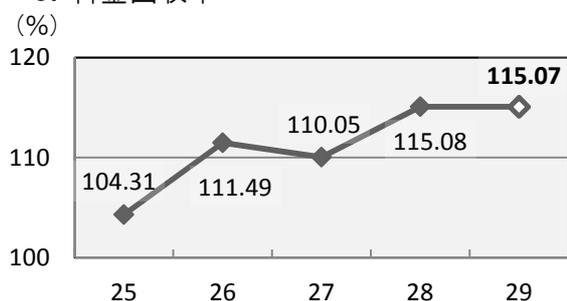
算出方法	(円/m ³)
	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$
説明	有収水量1m ³ あたりの販売価格を表す指標です。

5. 給水原価



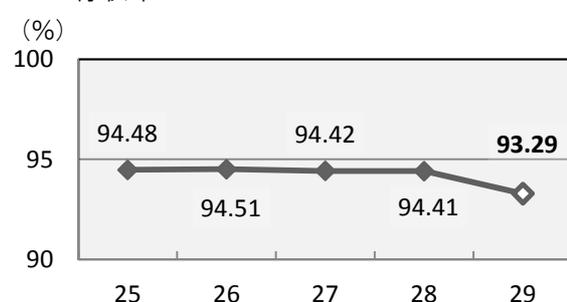
算出方法	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料} \cdot \text{不用品売却原価等}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}} \quad (\text{円}/\text{m}^3)$
説明	<p>有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。当該指標については、明確な数値基準はありませんが、必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要となります。</p>

6. 料金回収率



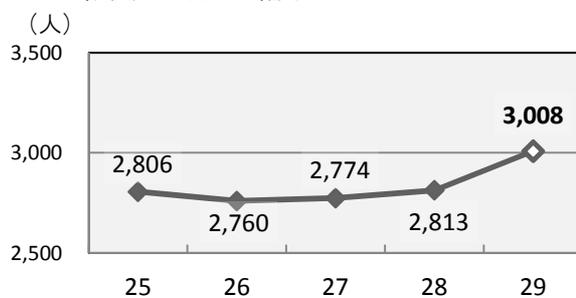
算出方法	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100 \quad (\%)$
説明	<p>給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味しています。</p>

7. 有収率



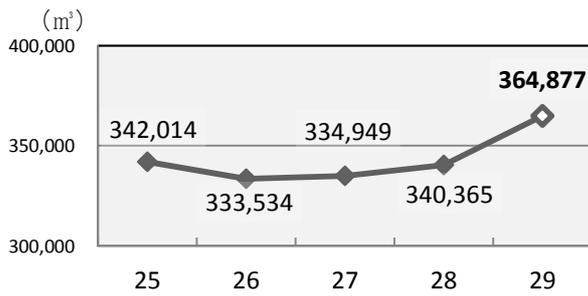
算出方法	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100 \quad (\%)$
説明	<p>施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標であり、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言えます。</p>

8. 職員1人あたり給水人口



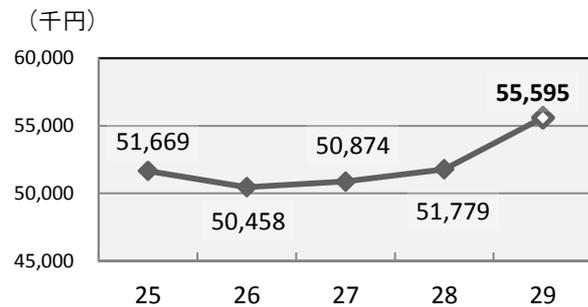
算出方法	$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{損益勘定職員数}} \quad (\text{人})$
説明	<p>損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、給水人口を基準として把握するための指標です。</p>

9. 職員1人あたり給水量



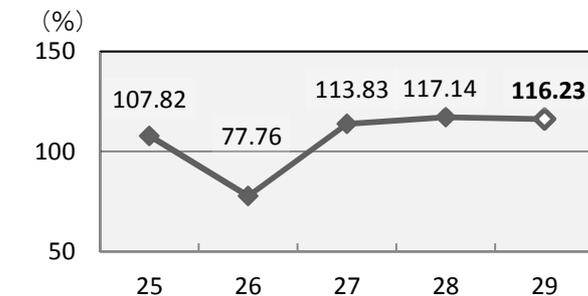
算出方法	(m³) $\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定職員数}}$
説明	損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、有収水量を基準として把握するための指標です。

10. 職員1人あたり営業収益



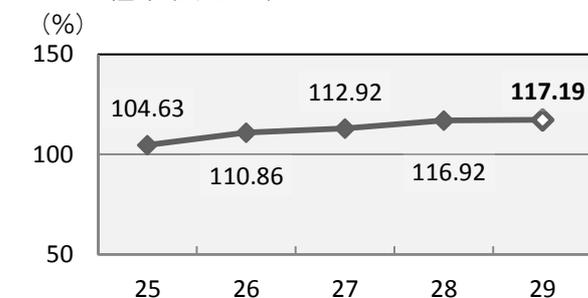
算出方法	(千円) $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定職員数}}$
説明	損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、営業収益を基準として把握するための指標です。

11. 総収支比率



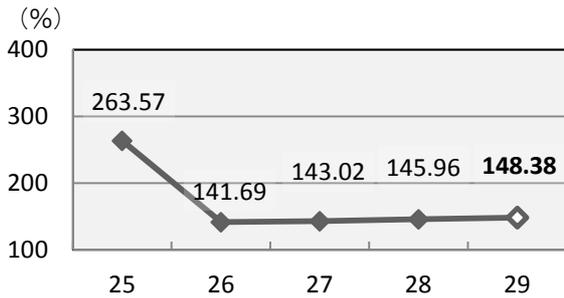
算出方法	(%) $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
説明	事業活動を伴う全ての収支のバランスから支払能力と安定性を分析する指標です。100%以上の場合は、純利益が発生します。

12. 経常収支比率



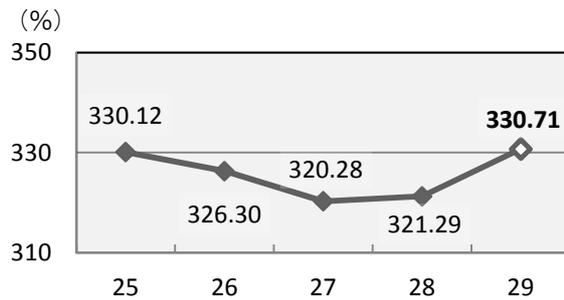
算出方法	(%) $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
説明	当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賅えているかを表す指標で、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要となります。

13. 流動比率



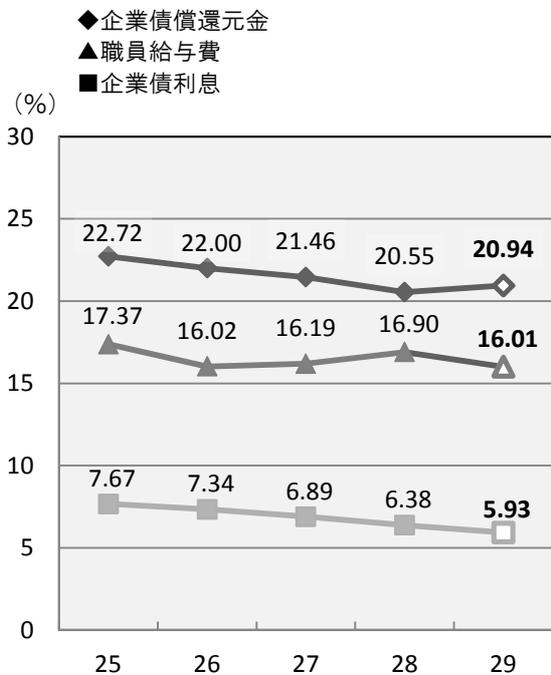
算出方法	(%)
	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
説明	1年以内に支払うべき債務に対して支払うことのできる現金等がある状況を示し、100%以上が望まれます。100%未満であっても、流動負債には将来的な給水収益等の原資となる企業債も含まれるため、多角的な分析も必要となります。

14. 企業債残高 対 給水収益比率



算出方法	(%)
	$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

15～17. 企業債償還元金, 企業債利息, 職員給与費 対 給水収益比率



算出方法	(%)
◆企業債償還元金 対 給水収益比率	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{給水収益}} \times 100$
■企業債利息 対 給水収益比率	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準で、比率は低いほど望ましいと言えます。

算出方法	(%)
▲職員給与費 対 給水収益比率	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	料金収入に対する職員給与費の割合を示す指標です。

平成29年度水道事業会計決算概要

1. 収支状況

(1) 収益的収支

()税抜額 単位:千円

区分	予 算	決 算	差 引
収入	17,199,693 (16,039,476)	17,427,318 (16,250,205)	227,625 (210,729)
支出	15,076,075 (14,635,915)	14,576,207 (13,980,920)	△ 499,868 △ (654,995)
差引	2,123,618 (1,403,561)	2,851,111 (2,269,285)	727,493 (865,724)

内繰越額 16,227

純利益 好転額

※繰越額の内訳

単位:千円

事業名	翌年度繰越額	財 源 内 訳	
		内部留保資金	
浄水場施設修理工事	6,183	6,183	
配水管撤去工事	10,044	10,044	
計	16,227	16,227	

○ 収支増減の内訳

[収入]

		執行率
① 給水収益	219,195 千円	101.5 %
② 他会計負担金	19,493 千円	115.7 %
③ その他営業収益	△ 4,617 千円	99.3 %
④ 加入金	△ 2,816 千円	98.9 %
⑤ 雑収益	14,363 千円	126.4 %
⑥ 長期前受金戻入	△ 17,669 千円	98.3 %
⑦ その他	△ 324 千円	99.9 %
	227,625 千円	101.3 %

[支出]

		執行率
① 委託料	△ 392,289 千円	85.5 %
② 減価償却費	△ 24,856 千円	99.5 %
③ 固定資産除却費	△ 22,856 千円	89.1 %
④ 修繕費	△ 6,705 千円	99.5 %
⑤ 動力費	△ 1,015 千円	99.8 %
⑥ 薬品費	0 千円	100.0 %
⑦ その他	△ 52,147 千円	98.9 %
	△ 499,868 千円	96.7 %

(2) 資本的収支

単位:千円

区分	予 算	決 算	差 引
収入	7,551,631	5,384,375	△ 2,167,256
支出	15,621,810	11,945,467	△ 3,676,343
差引	△ 8,070,179	△ 6,561,092	1,509,087

内繰越額 2,981,637

△:不用額 694,706

(収入予算額に繰越額 1,269,139千円含む)

(支出予算額に繰越額 1,915,606千円含む)

補てん必要額

圧縮額

→決算差引不足額は、減価償却費等の内部留保資金で補てんする。

※繰越額の内訳

単位:千円

事業名	翌年度繰越額	財 源 内 訳		
		企業債	他事業負担金	内部留保資金
基幹管路更新事業	937,656	468,000		469,656
基幹管路整備事業	5,130			5,130
配水支管更新事業	149,553			149,553
配水支管整備工事	156,384		99,630	56,754
浄水場施設整備工事	176,958			176,958
阿賀野川浄水場施設整備事業(継続費)	1,530,031	1,078,000		452,031
配水場施設整備事業(継続費)	25,925			25,925
計	2,981,637	1,546,000	99,630	1,336,007

○ 収支増減の内訳

[収入]

① 借入企業債	△ 1,859,000 千円
② 補償金	△ 139,853 千円
③ 国庫補助金	△ 68,347 千円
④ その他	△ 100,056 千円
	△ 2,167,256 千円

[支出]

① 建設改良費	△ 3,676,343 千円
	△ 3,676,343 千円
内繰越額	— 2,981,637 千円
(不用額)→	△ 694,706 千円

平成29年度 決算審査意見（抜粋）**（地方公営企業法第30条第2項の規定に基づく監査委員の意見）****(1) 事業の概況**

当年度は、「新・新潟市水道事業中長期経営計画（新・マスタープラン）前期実施計画」の最終年度であったが、引き続き老朽化した浄配水施設の更新と耐震化を図るため、阿賀野川浄水場施設整備事業を進めるとともに、各配水場の電気設備等の更新を行った。管路施設においては、老朽化した基幹管路や配水支管の更新を行うとともに、巻浄水場系－戸頭浄水場系間の相互連絡管の整備を継続したほか、重要施設として位置づけられている医療機関を対象とした配水管の耐震化を進めた。また、当年度より新たに水道料金収納業務の民間委託を開始した。

なお、水需要の減少に伴い、近年の配水量・給水量はともに減少傾向にある中、当年度の配水量は7期ぶりに増加したが、これは寒波の影響によるものである。

(2) 経営状況

当年度の経営状況は、営業利益が前年度に比べ1,007万円減の18億3,293万円、経常利益が前年度に比べ3,266万円増の23億4,967万円となり、ともに大きな変動はなく、近年は安定した状況にある。なお、当年度の純利益は前年度に比べ1億1,585万円減の22億6,928万円となったが、これは各浄水場で保管されている放射性物質を含む浄水汚泥の処分量が、近年は減少傾向にあったものが当年度は増加したことにより、特別損失の浄水汚泥等対策費が前年度に比べ9,342万円増加したことが主な要因であり、当該費用は前述のとおり翌年度以降に電力会社から賠償される見込みである。

(3) 財政状態

当年度末の現金預金残高は101億5,110万円となり、前年度に比べ20億2,375万円の大幅な増加となったが、これは阿賀野川浄水場施設整備事業（平成27年度～平成31年度）、基幹管路更新事業などにおける翌年度繰越額が前年度に比べ増加したことや、寒波の影響などにより当年度内に竣工した建設改良工事に係る支払いの一部が翌年度の支払いとなったことで当年度末現在での未払金が増加したことなどによる一時的なものである。

また、建設改良積立金などの内部留保資金についても、当年度は前年度に比べ5億5,291万円増の70億886万円となったが、これも前述のとおり翌年度繰越額の増加などによる一時的なものである。当年度に策定された新・マスタープラン中期実施計画（平成30年度～平成32年度）においても、平成30年度には給水量の減少に伴う給水

収益の減少や、廃止した取水施設の撤去費の増加などによる大幅な減益が見込まれることや、阿賀野川浄水場施設整備事業に係る支出がピークを迎えることなどにより資金は大幅に減少し、その後も昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて集中的に建設された浄配水施設や新潟地震後に布設された多くの管路の更新等が計画されていることから、平成 35 年度には 3 億 2,000 万円あまりの資金不足が生じると見込まれている。

(4) 今後の課題

近年の水道事業の経営は安定しており、水道料金収納業務を民間委託するなど経費削減に取り組むことで、資金不足となる見込みが当初は平成 32 年度だったものが、現在は平成 35 年度となり、現在の状況は当初の見込みに比べ若干好転している。

しかし、新・マスタープランでは、給水人口の減少などに伴い今後の給水収益は減少していく一方で、老朽化した施設の更新など安全でおいしい水道水を供給していくために必要な設備投資は今後も続き、将来的に資金不足となることが見込まれていることから、水道事業を取り巻く環境は引き続き厳しい状況であり、今後も将来の需要に見合った施設のあり方を検証し、一層の効率化を図る必要がある。

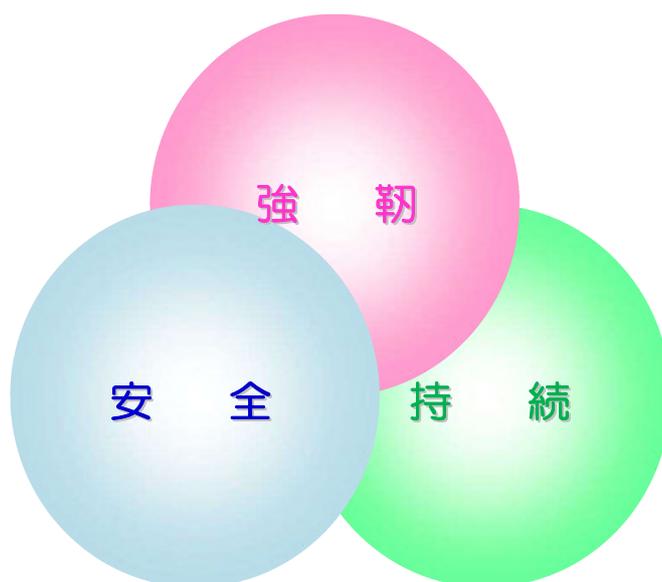
また、現在、借入割合を一定比率に抑えている企業債については、将来世代への過度な負担とならないよう配慮する必要があるものの、水道施設整備に対する企業債の借入にはそれを利用する将来世代にも費用を負担してもらうことで、現在の利用者と将来の利用者の負担を公平化する機能もある。将来的に資金不足が見込まれる状況の中で、安定した持続可能な事業運営を図るためには、現在の借入水準についてもあらためて検討し、世代間の負担のあり方を踏まえたうえで施設の更新に必要な資金を確保していく必要がある。

なお、このたびの寒波の影響で西蒲区の一部地域では断水せざるを得ない状況となり、市民生活に支障をきたす事態となった。今後は、巻浄水場系一戸頭浄水場系間の相互連絡管整備や長期不在の空き家に対する漏水対策などにより再発防止を図るとともに、断水時における周知方法についても区役所と連携することで市民への迅速な周知を図るなど、市民生活への影響を最小限に抑えられるよう努められたい。また、新潟広域都市圏ビジョンに基づく近隣市町村との災害時相互援助や緊急連絡管整備についても引き続き検討されたい。

新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～

前期実施計画（平成29年度）の取り組み状況

概要版



平成 30 年 9 月

新潟市水道局

目次

趣旨，事業評価概要・・・P2

事業・取り組み担当課1次評価結果一覧・・・P3

1次評価結果概要・・・P4～P5

2次評価結果概要・・・P6

事業・取り組みの実施状況・・・P7～P10

重点目標の推移・・・P11～13



平成29年度の評価結果，
取り組み状況を報告します。

水太郎

趣旨

本市では、平成27年3月に将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とした、「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」(平成27年度～平成36年度)を策定し、事業を推進しています。また、目指す方向性実現のため、具体的な事業・取り組みと、財政計画などを定めた「新・マスタープラン実施計画」(計画期間：前期3年、中期3年、後期4年)を策定し、毎年度行う事業評価の結果を踏まえ、今後の事業に活用していくこととしています。

事業評価の概要

「新・マスタープラン前期実施計画」は、3つの方向性「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの施策を設け、31の「事業取り組み」を行っています。評価については、1次評価は所管課で「事業取り組み」ごとに、効率性、有効性の評価をし、2次評価は外部機関の水道事業経営審議会で次年度以降の方向性を評価します。

1次評価

効率性総合評価

効率性 A	・・・ 非常に高い
効率性 B	・・・ 高い
効率性 C	・・・ 普通
効率性 D	・・・ 低い
効率性 E	・・・ 非常に低い

有効性総合評価

有効性 A	・・・ 非常に高い
有効性 B	・・・ 高い
有効性 C	・・・ 普通
有効性 D	・・・ 低い
有効性 E	・・・ 非常に低い

2次評価

方向性総合評価

拡充	・・・ 今まで以上に力を入れて事業に取り組むことが適当
維持	・・・ 今までどおり事業に取り組むことが適当
終了(完了)	・・・ 事業・取り組みは終了した
改善・見直し	・・・ 事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当
縮小	・・・ 事業の取り組み規模を縮小することが適当

事業・取り組み担当課・1次評価結果一覧

方向性	施策	事業・取り組み	担当課	効率性	有効性	
安全でおいしい水道水の供給 《安全》	Ⅰ 水質管理の充実・強化	Ⅰ-1 水源水質の監視	水質管理課	C	C	
		Ⅰ-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	C	C	
		Ⅰ-3 水質管理体制の強化	水質管理課	B	C	
		Ⅰ-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	B	C	
		Ⅰ-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	B	B	
	Ⅱ 給水装置における 水質保持	Ⅱ-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	B	B	
		Ⅱ-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	C	B	
		Ⅱ-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	B	C	
	強靱な施設・体制による給水確保 《強靱》	Ⅲ 水道施設の計画的更新	Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	C	C
Ⅲ-2 管路施設の計画的更新			計画整備課	D	D	
Ⅲ-3 給給水管の計画的更新			管路課	C	C	
Ⅳ 災害対策・体制の強化		Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	C	D	
		Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	D	C	
		Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	C	B	
		Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	C	C	
		Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	B	B	
		Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	B	C	
環境の変化に柔軟に対応した 健全な事業運営の持続 《持続》		Ⅴ 経営基盤の強化	Ⅴ-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	C	C
			Ⅴ-2 定員・給与の適正化	総務課	C	B
			Ⅴ-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課	C	C
	Ⅴ-4 遊休資産の有効活用		経営管理課	C	C	
	Ⅴ-5 時代に即した料金制度等の検討・実施		経営管理課	C	C	
	Ⅴ-6 水道事業経営審議会の効果的運用		経営管理課	C	C	
	Ⅵ 積極的な情報提供と お客さまニーズの把握	Ⅵ-1 戦略的な広報の実施	総務課	C	C	
		Ⅵ-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	B	C	
		Ⅵ-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	C	C	
		Ⅵ-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	C	C	
	Ⅶ 技術・知識を有する 人材の確保と育成	Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	総務課	B	B	
		Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	C	A	
	Ⅷ 環境に配慮した事業運営	Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	B	C	
		Ⅷ-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課	C	C	

1次評価結果の概要

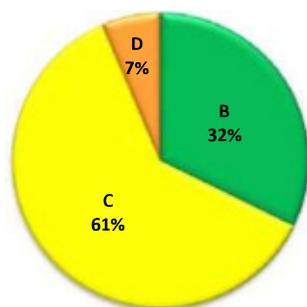
1. 1次評価結果の集計

(1) 効率性評価

評価値	事業数	備考
A	0事業	
B	10事業	I-3 水質管理体制の強化 I-5 分かりやすい水質情報の提供 I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理 II-1 学校施設の水飲み水柱の直結給水課 他6事業
C	19事業	
D	2事業	III-2 管路施設の計画的更新 IV-2 管路施設の計画的耐震化
E	0事業	
計	31事業	

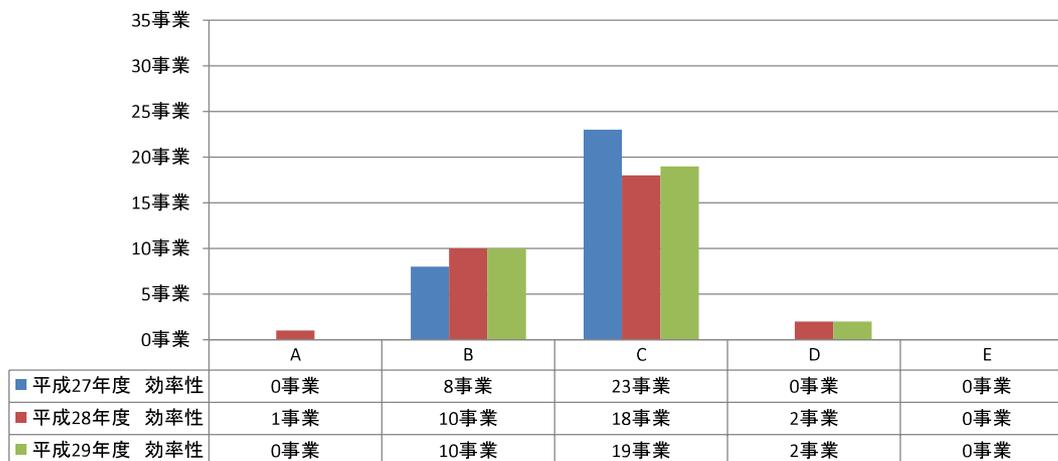
効率性評価は、当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか評価するものです。評価全体では、評価点7～8点の「B高い」評価事業は10事業、32%、評価点5～6点の「C普通」評価事業は19事業、61%、3～4点の「D低い」評価事業は2事業、7%でした。外的要因などによる「D低い」評価があるものの、31事業中29事業、93%の事業が効率性の目標を達成しました。

効率性評価結果割合
(評価対象31)



■ A ■ B ■ C ■ D ■ E

効率性評価結果の経年変化

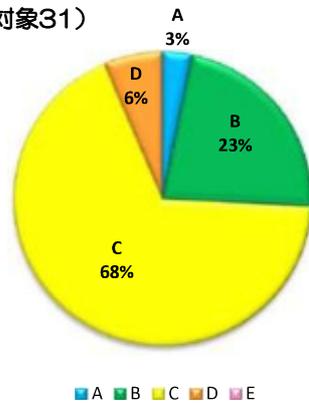


(2)有効性評価

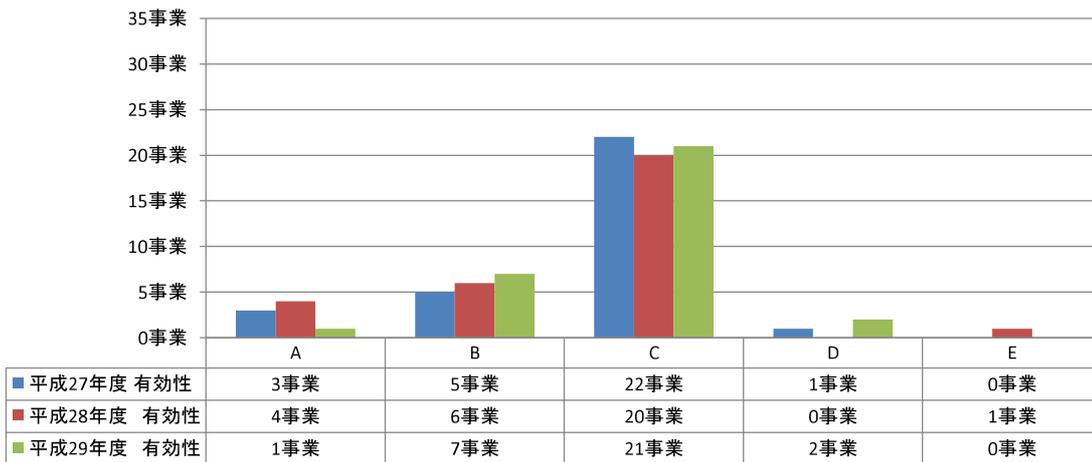
評価値	事業数	備考
A	1事業	Ⅶ－2諸外国との水道技術研究交流
B	7事業	
C	21事業	
D	2事業	Ⅲ－2管路施設の計画的更新 Ⅳ－1 浄配水施設の計画的耐震化
E	0事業	
計	31事業	

有効性評価は、重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか評価するものです。有効性総合評価の結果は、評価9～10点の「A非常に高い」評価事業は1事業、3%、7～8点の「B高い」評価事業は7事業を合わせると8事業、26%でした。5～6点の「C普通」評価事業は21事業、68%、3～4点の「D低い」評価事業は2事業、6%でした。31事業中29事業、94%の事業が有効性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合
(評価対象31)



有効性評価結果の経年変化



2次評価結果の概要

1. 2次評価結果の目的

「すべてのお客さまに信頼される水道」であるためには、お客さまの視点として、外部機関である水道事業経営審議会
で、各事業取り組みの実施状況、目標の達成度などを確認したうえで、効率性、有効性、についての評価を受け、今後
の方向性を明確にしていくことを目的としています。

2. 2次評価結果の集計

評価値	拡充	維持	終了（完了）	改善・見直し	縮小	計
事業数						〇事業

3. 改善・見直しとした事業

事業・取り組み		効率性 評価	有効性 評価	経営審議会総評	所管課

事業・取り組みの実施状況

安全でおいしい水道水の供給

すべてのお客さまに、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を供給する水道を目指します。

施策Ⅰ 水質管理の充実・強化

主な取り組み

- I-1 水源水質の監視
 - ・水源の監視及び調査の実施
- I-2 水安全計画の充実・適切な運用
 - ・水安全計画の評価・見直しの実施
- I-3 水質管理体制の強化
 - ・水道GLPの維持・更新
 - ・人材育成及び技術継承

- I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理
 - ・独自管理目標値による水質管理
- I-5 分かりやすい水質情報の提供
 - ・啓発活動の継続
 - ・分かりやすい情報提供

I-1 水源水質の監視	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
河川水質事故による水道水の影響		0%	0%
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
水道原水の水質調査		2回/6回	2回/6回
浄水施設での対応が困難な物質の監視		4回/12回	4回/12回

I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
農薬濃度管理目標達成率		100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率		100%	100%
残留塩素管理目標達成率		91%	92%
臭気強度管理目標達成率		100%	100%

I-2 水安全計画の充実・適切な運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
浄水場「水安全計画」の評価実施率		100%	100%

I-5 分かりやすい水質情報の提供	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
さわやかトーク宅配等年間実施数		12回/32回	12回/44回

I-3 水質管理体制の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
検査機器の保守点検実施率		100%	100%
教育訓練実施率		100%	100%
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
水質検査の公表回数		12回/36回	12回/36回



施策Ⅱ 給水装置における水質保持

主な取り組み

- II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化
 - ・教育委員会との協議
- II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施
 - ・貯水槽清掃強化月間の設定のための協議
 - ・民間清掃会社との協力体制構築に向けた関係機関との協議
 - ・貯水槽施設衛生管理指導業務の委託

- II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上
 - ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を要請
 - ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施
 - ・指定給水装置工事事業者の表彰実施
 - ・寒波の際の応急復旧支援に対し、特別表彰を実施

II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率		65.0%/65.0%	65.7%/65.7%

II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
給水装置に係る事故件数		0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率		78.0%	73.1%
優良指定給水装置工事事業者の表彰実施		実施	実施

II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
貯水槽清掃実施率（簡易専用水道）		93.1%	97.4%
貯水槽清掃実施率（小規模貯水槽水道）		65.8%	71.7%
貯水槽清掃実施率（全体清掃率）		76.8%	82.3%

※「指定給水装置工事事業者講習会参加率」は寒波により急遽講習会が中止となったため、新潟会場分は受講申込数にて算定。

強靱な施設・体制による給水の確保

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

施策Ⅲ 水道施設の計画的更新

主な取組み

- Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新
 - ・阿賀野川浄水場整備事業
 - ポンプ場築造工事の実施（平成29年度完了）
 - 電気設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
 - 自家発電設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
 - 監視制御設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
 - ポンプ設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
 - 粉末活性炭注入設備更新工事の実施（平成30年度完成予定）
 - ・配水場整備事業
 - 内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成29年度完了）
 - 竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
 - 南浜電気設備更新工事の実施（平成32年度完了予定）
 - ・経年劣化した設備の個別整備
- Ⅲ-2 管路施設の計画的更新
 - ・基幹管路更新
 - ・配水支管更新
- Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新
 - ・小口径老朽管更新（ガス工事競合）
 - ・小口径老朽管更新（局単独工事）
 - ・他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等）
 - ・連合鉛給水管更新
 - ・鉛給水管更新（戸別）

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
阿賀野川浄水場整備事業		実施	実施
配水場整備事業		実施	実施

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	評価結果	効率性 D	有効性 D
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
基幹管路更新延長		5,200m	2,840m
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		15,000m	11,900m
配水支管更新延長		26,500m	14,079m
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		75,700m	49,062m

Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
鉛給水管率		5.2%/5.2%	5.9%/5.9%



施策Ⅳ 災害対策・体制の強化

主な取組み

- Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化
 - ・耐震補強実施【土木構造物】
 - 阿賀野川浄水場構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（平成31年度完了予定）
 - 阿賀野川沈砂池耐震補強の実施（平成29年度完了予定）
 - 青山向け導水管サージタンク転倒対策完了
- Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化
 - ・基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せて管路施設の耐震化を実施
- Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化
 - ・計画に基づき重要施設向け配水管の耐震化を実施（行政機関：0施設 医療機関4施設）
- Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進
 - ・基幹管路整備に併せた小ブロックの構築（小ブロック構築数0ブロック）
- Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備
 - ・巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備
- Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化
 - ・各種災害マニュアル類の見直し
 - ・巻浄水場の応急給水設備は隣接する既存設備の活用で整備済
 - ・災害時の協力体制および連携体制の拡充
 - 他団体との災害時応援協定の締結（民間団体等3件）
 - 応急給水訓練実施（南区1箇所、東区1箇所）

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 D
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
【建築物】（完了数/全計画数）		2/2 / 2/2	0/2 / 0/2
【土木構造物】（完了数/全計画数）		3/13 / 3施設	3/13 / 3施設

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
小ブロック構築率		93.3%/93.3%	81.5%/81.5%

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 D	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
管路耐震適合率		68.5%	68.1%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		68.5%	68.1%（見込み）
基幹管路耐震適合率		62.1%	62.4%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		62.1%	62.4%（見込み）

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
相互連絡管整備延長		1,040m/2,600m	1,068.7m/2,673.5m

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
重要施設向け配水管の耐震化		4施設	4施設（見込み）
※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		9施設	10施設（見込み）

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
給水車用常設注水設備の整備		—	—
住民用応急給水設備の整備		1箇所（巻） 3箇所	1箇所（巻） 3箇所

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

施策Ⅴ 経営基盤の強化

主な取組み

- V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理
- ・中長期的な更新需要の見直し
 - ・施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備
- V-2 定員・給与の適正化
- ・定員の適正化・・業務の見直しや民間委託などにより、適正な人員を削減
 - ・給与の適正化・・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施
- V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施
- ・委託契約業者へ業務委託を実施

- V-4 遊休資産の有効活用
- ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の実施
- V-5 時代に即した料金制度の検討・実施
- ・料金体系の調査研究、料金制度等の現状と課題の整理
- V-6 水道事業経営審議会の効果的運用
- ・水道事業経営審議会開催（3回/年）
 - ・新・マスタープランの事務事業に対する2次評価の実施



V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
中長期的な更新需要の見直し		実施	実施
施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備		—	—

V-4 遊休資産の有効活用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
有効活用の実施・協議・調整等累計施設数		1施設 / 5施設以上	3施設 / 3施設

V-2 定員・給与の適正化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
職員数（年度末職員数≤職員定数）		330人以下	318人

V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
「水道料金算定要領」に基づく料金シミュレーション（調査研究）		実施	実施

V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道料金等収納業務委託の実施		実施	実施

V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施

施策Ⅵ 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

主な取組み

- VI-1 戦略的な広報の実施
- ・独自イベント・・・施設見学会など
 - ・お客さまに直接働きかける広報・・・災害パネル展示、出前講座など
 - ・デジタルメディアを活用する広報・・・ホームページなど
 - ・紙媒体による広報・・・広報紙、検針票裏面など
 - ・漫画を活用する広報・・・小学生向けパンフレット、工事看板など
 - ・広報紙（水先案内）の有料広告掲載による、水道料金以外の収入確保
- VI-2 お客さまの意見・要望の把握
- ・公募による23名の水道モニターで研修会や施設見学会など4回開催

- VI-3 分かりやすい経営情報の開示
- ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供・・・ホームページで公表
 - ・経営効率化に関する取り組み情報の提供・・・広報紙「水先案内」に掲載
- VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供
- ・保管管理、検査、有効利用、情報提供を継続的に実施

VI-1 戦略的な広報の実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度		-	-
「新潟市水道局広報戦略」に基づく効果的な広報の実施		実施	実施

VI-3 分かりやすい経営情報の開示	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上
経営効率化に関する取り組み情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上

VI-2 お客さまの意見・要望の把握	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケート調査の実施		実施	実施
水道モニター活動回数（モニター会議、施設見学会等開催数）		5回	4回

VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続		開示	実施
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続		開示	実施

施策Ⅶ 技術・知識を有する人材の確保と育成

主な取組み

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化
 ・技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施
 ・職員研修基本計画の見直し実施
 ・各種研修は研修計画に基づき継続的に実施
 ・水道研修センターの効果的運用
 (施設稼働率93.0%、うち研修での稼働率48.8%)

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流
 ・日米台水道地震対策ワークショップ(台南市1名)
 ・自治体水道国際展開プラットフォーム第9回(東京都1名)
 ・日本水道協会国際研修(オーストラリア1名)

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度末職員数)		15.8時間	16.0時間

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目(評価指標)		目標/目標累計	実績/実績累計
国際研修等への参加人数		2人/6人	3人/12人

施策Ⅷ 環境に配慮した事業運営

主な取組み

Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進
 ・改良土の利用促進
 建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化(再生率100%)
 建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用(再生率18.5%)

Ⅷ-2 水道局環境計画の策定と推進
 ・環境計画の運用
 ・環境会計の作成・公表
 ・省エネルギー対策の推進

Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
建設副産物のリサイクル率		37.9%	37.5%

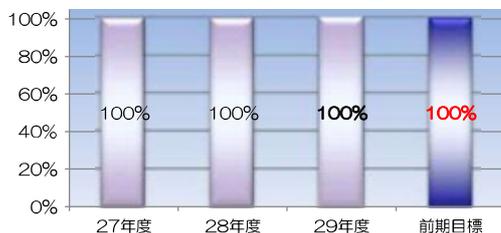
Ⅷ-2 水道局環境計画の策定と推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
水道局環境計画の策定・運用		実施	実施
環境会計の作成・公表		実施	実施



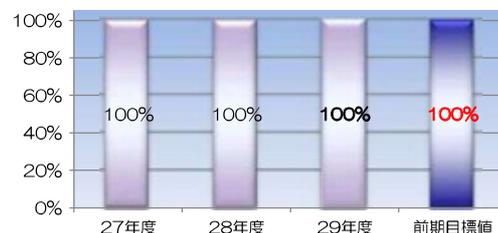
重点目標の推移

■安全でおいしい水道水の供給

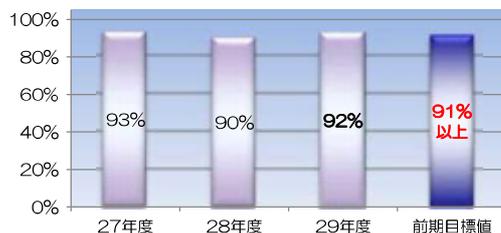
・農薬濃度管理目標達成率



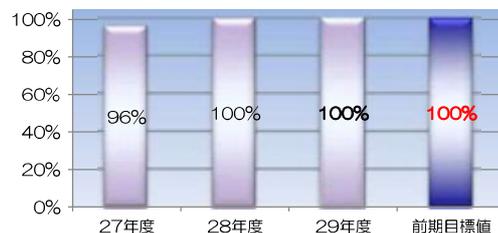
・総トリハロメタン濃度管理目標達成率



・残留塩素管理目標達成率



・臭気強度管理目標達成率



・学校施設水飲み水栓の直結給水化率

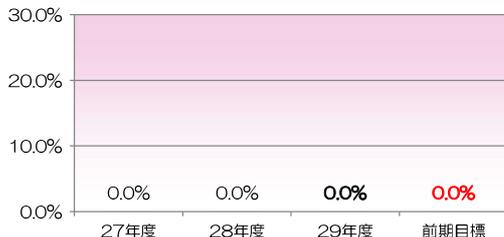


・貯水槽清掃実施率



■強靱な施設・体制による給水の確保

・老朽化浄水施設率



・老朽化設備率



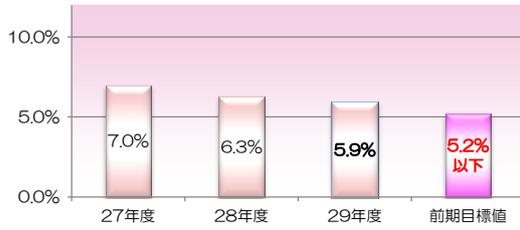
・老朽化管路率 ※1



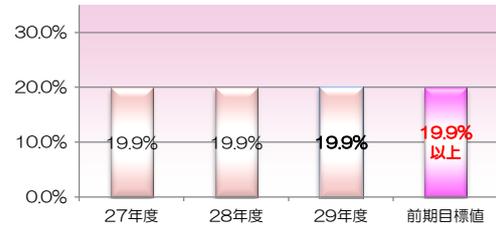
・老朽化基幹管路率 ※1



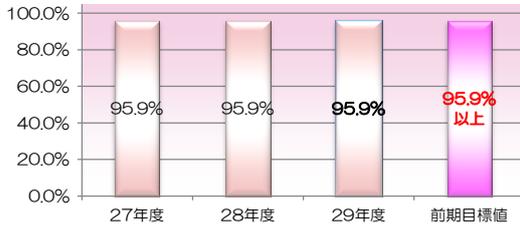
・鉛製給水管率



・浄水施設耐震率



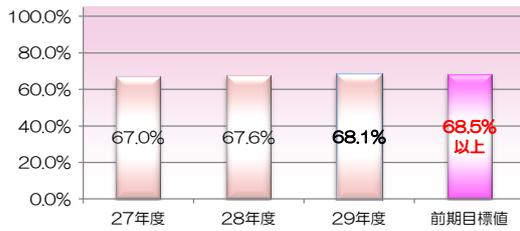
・ポンプ所耐震施設率



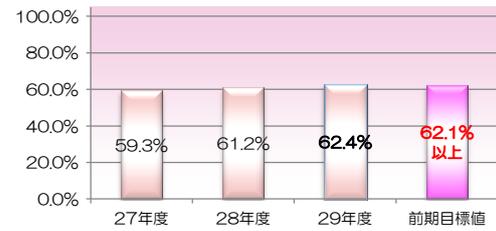
・配水池耐震施設率



・管路耐震適合率 ※1



・基幹管路耐震適合率 ※1



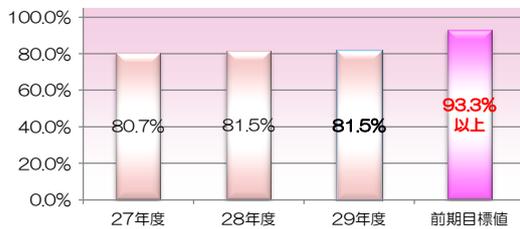
・管路更新率（期間平均） ※1



・基幹管路更新率（期間平均） ※1



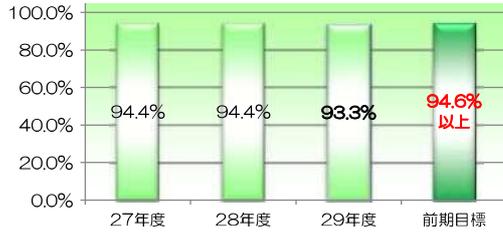
・小ブロック構築率



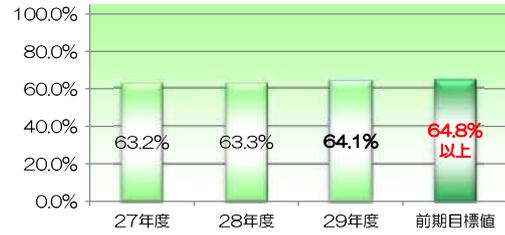
※1 算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用

■環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

・有収率



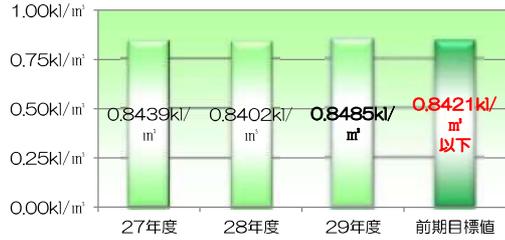
・施設利用率



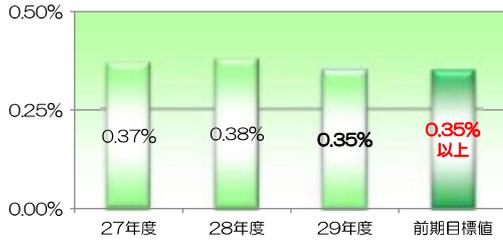
・施設最大稼働率



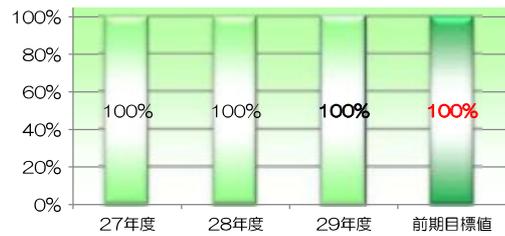
・エネルギー原単位



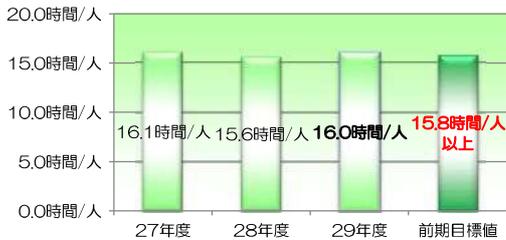
・再生可能エネルギー利用率



・浄水発生土の有効利用率



・内部研修実施時間



新・マスタープラン事業評価管理シート

平成29年度評価結果

平成30年9月

新潟市水道局

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-1	水源水質の監視	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	---------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	同一の水源を利用する水道事業体や関係機関と連携し、情報共有体制の構築や河川の水質調査を行うことにより、浄水処理への影響を未然に防ぎます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	960,000		741,100		878,000				
	執行額(b)	931,400		741,100		878,000				
	執行率(%) (b) / (a)	97%		100%		100%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	144時間		120時間	120時間		120時間	120時間	
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	120%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (月あたりの実働時間)	10時間	12時間	(イ/ア)	10時間	10時間	(イ/ア)	10時間	10時間	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・水質事故通報は例年油流出事故が多い。協議会の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・重油流出事故等の大規模な水質事故に際して適切に対応し、水道水への影響を防ぐことができました。	・県内13水道事業体を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成27年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・平成28年1月末より発生した阿賀野川水系の異常臭気の際し、両水協として河川水の臭気確認を強化しながら原因究明を進め、河川管理者等と連携し対応を進めました。本市においては、阿賀野川より取水する全ての浄水場において適切に粉末活性炭処理を行うことにより、違和感の無い水道水を供給しお客さまへの負の影響を回避しました。			・県内13水道事業体を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成28年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・両水協として平成28年11月に水質技術研修会を開催し、平成28年1月末に阿賀野川水系で発生した異常臭気に係る事業体の対応事例の紹介と水源水質事故に対する基本的な考え方に関して、協力頂いた国立保健医療科学院の先生より講演いただき、会員および関係者間で情報共有を図りました。			・県内13水道事業体を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成29年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 平成29年11月に水質技術研修会を実施し、流域連携や河川事故等の対応について情報交換を行い、水質監視体制に関する技術的知見について、会員間で共有を図りました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水源の監視及び調査	2点			水源の監視及び調査	1点			水源の監視及び調査	1点		
	平均(A)		2.0点		平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
河川水質事故による 水道水の影響	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	0	0	0	0%	100%	3点	0%	100%	3点	0%	100%	3点
水道原水の水質調査	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	2回	2回	2回	2回	100%	3点	2回	100%	3点	2回	100%	3点
浄水施設での対応が 困難な物質の監視	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4回	4回	4回	4回	100%	3点	4回	100%	3点	4回	100%	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	本事業の活動予算については、両水協負担金として運営会費等を新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会（毎年6月実施）で承認される事業であり、平成27年度予算については概ね予定通りの執行であったと評価しています。			本事業の活動予算については、両水協負担金として運営会費等を新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会（毎年6月実施）で承認される事業です。平成28年度予算の執行状況については、総会に先立ち開催される幹事会において、概ね予定通りの執行であったと評価されました。			本事業の活動予算については、両水協負担金として運営会費等を新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会（毎年6月実施）で承認される事業です。平成29年度予算の執行状況については、総会に先立ち開催される幹事会において、概ね予定通りの執行であったと評価されました。		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標を達成するために有効であったか評価する。	両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件以上発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体のお客さまへの影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、水道水に影響するおそれのある臭気物質や未規制物質の調査結果より会員事業体の共益となる情報が得られました。なお、本市に直接影響する事案としては、本市取水地点の近くで発生した油流出事故については、主体的な情報収集と関係機関への確実な周知を行い浄水処理への影響を未然に防止できました。また、阿賀野川で発生した異常臭気対応については、関係機関と密接に連携しお客さまへの影響を防止し発生原因を特定することができました。			両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件以上発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体のお客さまへの影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、水道水に影響するおそれのある臭気物質や未規制物質の調査結果より会員事業体の共益となる情報が得られました。また、幹事会や技術研修会等を通して、会員相互の連携がより強化され、本事業の目的である水源に内在するリスクの顕在化を未然に防止する取組みに対して十分な有効性があつたと評価できます。			両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件以上発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体のお客さまへの影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、水道水に影響するおそれのある臭気物質や未規制物質の調査結果より会員事業体の共益となる情報が得られました。また、幹事会や技術研修会等を通して、会員相互の連携がより強化され、本事業の目的である水源に内在するリスクの顕在化を未然に防止する取組みに対して十分な有効性があつたと評価できます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-2	水安全計画の充実・適切な運用	所管課	水質管理課
-----	---	------------	--------	-----	----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	安全で良質な水道水を継続的に供給するために、水源からじゃ口までのすべての過程における一元的な水質管理を行う「水安全計画」を評価し、必要に応じて見直すことで計画の充実を図っていきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度		28年度
	水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。		水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。
			水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	60時間	60時間	100%	60時間	60時間	100%	60時間	60時間	100%
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月		12ヶ月	12ヶ月		12ヶ月		
	単位あたり の作業量(c/d)	5時間	5時間		5時間	5時間		5時間		
	(ひと月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・平成22年に新潟市内のすべての浄水場における水安全計画を策定し運用しています。	・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況を評価する妥当性の確認を行っています。 ・平成27年度は各浄水場別の水安全計画の見直しを行い、より実効性のある計画の改定を行いました。具体的には、各浄水場における管理基準値を見直し、異常時・緊急時対応マニュアルを最新のものに改めました。			・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況を評価する妥当性の確認を行っています。平成28年度については、昨年度設定した新たな管理基準値による運用の評価を行っています。 ・昨年度発生した異常臭気等、特異的な事故事例の対応状況を計画に反映させることで、より柔軟なものに改めました。			・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況を評価する妥当性の確認を行っています。平成29年度については、H27年度に設定した新たな管理基準値による運用の評価を行っています。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水安全計画の評価・見直し		1点		水安全計画の評価・見直し		1点		水安全計画の評価・見直し		1点	
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	
浄水場「水安全計画」 の 評価実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。			水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。			水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	新潟市内すべての浄水場において改定作業を行いました。今後とも水安全計画については適宜見直しを実施し、実効性のある内容に改める必要があります。			新潟市内すべての浄水場において改定作業を行いました。水安全計画を着実に実行することによって、水源から給水栓に至るまでのリスクの顕在化を未然に防止することができ、安全な水道水の安定供給が可能となっています。今後は、水安全計画については事故対応から得られた知見等から、適宜見直しを実施し実効性のある内容に改めます。			新潟市内すべての浄水場において改定作業を行いました。水安全計画を着実に実行することによって、水源から給水栓に至るまでのリスクの顕在化を未然に防止することができ、安全な水道水の安定供給が可能となっています。今後は、より実効性の高い計画となるよう、見直しを実施しています。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-3	水質管理体制の強化	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	-----------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道GLP(水道水質検査優良試験所規範を維持し、水質検査結果の精度と信頼性を確保します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画の策定、検査計画及び検査結果の公表。 ・試験方法等の調査研究の実施。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)。	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画を策定し、検査計画及び検査結果を公表します。 ・試験方法等の調査研究を実施します。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)を行います。	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画を策定し、検査計画及び検査結果を公表します。 ・試験方法等の調査研究を実施します。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)を行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	80,858,650			71,790,840			64,140,250		
	執行額(b)	76,166,988			64,653,638			48,360,636		
	執行率(%) (b) / (a)	94%			90%			75%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間	120時間	
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間	10時間	
	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・平成26年度に2度目の認定更新を行っており平成27年度は認定維持。 ・教育訓練や水質検査機器の保守点検は毎年度当初に実施計画表を作成し、計画的に実施しています。	・平成27年度はGLPサーベイランス(GLP認定委員会による定期的な立入監査)を実施しました。サーベイランスの結果としては、良好にGLPに基づいた水質検査が実施されていると評価を受けました。なお、サーベイランスの際に指摘された軽微な改善事項については、直ちに直し改善を行いました。 ・水質管理技術の継承については、平成26年度より課内ワーキンググループにより検討を行っています。平成27年度については、水質管理技術の分類と習得に係る目標年次を明らかにしました。また、水質管理技術を計画的に習得できるよう、OJT(On the Job Training)が確実に実施される環境整備を進めています。			・教育訓練や水質検査機器の保守点検は毎年度当初に実施計画表を作成し、計画的に実施しており、平成29年度には認定更新を予定しています。 ・水質管理技術の継承については、平成26年度より実施している理想的な水質管理体制構築に向けた取組みのなかで着実に実施しています。平成28年度については、OJT(On the Job Training)の確実な実施に効果が期待される業務ローテーションなどのこれまで実施した取組みについて評価を行い、より実効性の高い取組みとなるようブラッシュアップを行いました。あわせて、平成29年度水質管理計画を検討し、今後求められる水道水質管理の考え方を取り入れた新たな管理計画を策定しました。			・平成29年度はGLP更新審査が実施されました。更新審査では、全体として信頼性向上への関心が高いと評価を受けました。 ・水質管理技術については、引き続きOJT(On the Job Training)の確実な実施に効果が期待される業務ローテーションなどのこれまで実施した取組みについて評価を行い、実態にあった体制となるよう努めました。あわせて、平成30年度水質管理計画を検討し、今後求められる水道水質管理の考え方を取り入れた新たな管理計画を策定しました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	・水道GLPの維持・更新		1点		・水道GLPの維持・更新		1点		・水道GLPの維持・更新		1点	
	・人材育成及び技術継承	2点			・人材育成及び技術継承	2点			・人材育成及び技術継承	1点		
	平均(A)	1.5点			平均(A)	1.5点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	
検査機器の 保守点検実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
教育訓練実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
水質検査の公表回数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	12	12	12	12	100%	3点	12	100%	3点	12	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 			<ul style="list-style-type: none"> GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 			<ul style="list-style-type: none"> GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 機器の状態を勘案し、修繕用備品の交換時期を見直すことで、当該費用が抑えることができたため、予算効率が向上しました。 水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査レベルが一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について必要にして十分であると、第3者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実にすることは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 水質管理技術の継承については、OJTが確実に実施される環境は徐々に整備されつつあることから、一定の評価ができます。 			<ul style="list-style-type: none"> GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査レベルが一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について必要にして十分であると、第3者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実にすることは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 水質管理技術の継承については、水質管理技術向上に寄与する取組みがブラッシュアップされ完成形に近づきつつあると評価しています。 			<ul style="list-style-type: none"> GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査レベルが一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について必要にして十分であると、第3者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実にすることは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 水質管理技術向上については、分析技術の計画的な習得を進め教育訓練を着実に実施することで、その成果を現場に反映できるよう努めています。 		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-4	新潟市独自の管理目標による水質管理	所管課	水質管理課(浄水課)
----	---	------------	--------	-----	-------------------	-----	------------

①事業概要

【事業の目的】	国が定める水質基準値等より厳しい、本市独自の「安全性とおいしさの基準」である管理目標値を設定し、より安全でおいしい水道水の供給に取り組んでいきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	55,528,200			55,728,000			29,581,200		
	執行額(b)	83,086,128			29,029,320			14,854,320		
	執行率(%) (b) / (a)	150%			52%			50%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間	120時間	
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%
	単位あたりの 作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間	10時間	
	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・独自管理目標による水質管理、見直しを行いました。	・平成27年度については、1項目が目標達成率100%に達しませんでした。概ね目標を達成できました。なお、目標達成率100%に達しなかった臭気強度については浄水場との連携を強化することにより、平成28年度における目標達成率100%を目指します。			・平成28年度については、1項目が目標達成率に達しませんでした。概ね目標を達成できました。なお、目標達成率に達しなかった残塩管理については、各浄水場の給水区域の特性を評価し、管網末端における消毒効果を確保しつつ浄水場出口の残留塩素濃度を低く抑える取組みについて、必要な施設整備を視野に入れた検討を行います。			・平成29年度については、全ての項目で目標を達成することができました。臭気強度管理においては、浄水場職員を対象とした臭気研修を行い浄水場出口での臭気確認体制の強化に努めることで、その効果を高めています。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	・独自管理目標による水質管理		1点		・独自管理目標による水質管理		1点		・独自管理目標による水質管理		1点	
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	
農薬濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
総トリハロメタン濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
残留塩素 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	91%	91%	91%	93%	102%	4点	90%	99%	3点	92%	101%	4点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
臭気強度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	100%	100%	100%	96%	96%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	4点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、当初計画した目標値を概ね達成できました。なお、粉末活性炭処理については、通常処理へのプラスアルファの処理であることから活性炭添加量については調査研究を進め、効率的な注入率となるよう注入針値を見直し、費用対効果が最大となるような水質管理に努める必要があります。</p> <p>・平成27年度の粉末活性炭の執行額については、阿賀野川異常臭気に伴い使用量が増加したものです。</p>			<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、当初計画した目標値を概ね達成できました。調査研究は特別な予算を計上しておらず、業務に関連する項目について計画的に実施しています。なお、粉末活性炭処理については、調査結果から一定の知見が得られたことから、成果を实地へ活用する取組みを進めます。今後は引き続き調査を進めると共に、費用対効果の検証も行い、より適切な水質管理ができるよう努めます。</p> <p>・平成28年度の粉末活性炭の執行額については、当初予算より使用量及び、契約単価の大幅減によるものです。</p>			<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、当初計画した目標値を概ね達成できました。調査研究は特別な予算を計上しておらず、業務に関連する項目について計画的に実施しています。なお、粉末活性炭処理については、引き続き調査を進めると共に、費用対効果の検証も行い、より適切な水質管理ができるよう努めます。</p> <p>・H29年度予算執行率については、粉末活性炭予算執行額の大幅減によるものです。</p>		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みである。ただし、活性炭の注入率と注入手法については、浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を進めます。</p>			<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。ただし、活性炭の注入率と注入手法については浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を積極的に進めます。</p>			<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。ただし、活性炭の注入率と注入手法については浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を積極的に進めます。</p>		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-5	分かりやすい水質情報の提供	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	安全でおいしい水や災害時での水の安定供給など、多様化するお客さまのニーズに対し、水道水をおいしく飲める啓発活動やニーズにあった情報提供などを行い、水道水に対する信頼性を高めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	119,448		98,280		98,280				
	執行額(b)	85,428		85,428		85,428				
	執行率(%) (b) / (a)	72%		87%		87%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間	120時間	
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (ひと月あたりの実働時間)	10時間	10時間	(イ/ア)	10時間	10時間	(イ/ア)	10時間	10時間	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・水質保全に関するパンフレットを作成し見学者に配布するなどPRに活用しました。	・市政さわやかトーク宅配便(出前授業の一つ)時に使用するパワーポイントについて、イラストや写真等の多用したビジュアル的に分かりやすい構成となるよう改めた。 ・本市ホームページにおいて、マンガやイラストを活用した水質検査結果の解説ページを加えた。 ・広報人材育成室と連携し、水質管理センターへの市民見学の機会を増加し、「簡易ろ過実験」「臭気検査」「きき水体験」など体験型広報に接する機会を増やした。			・広報人材育成室と連携し、水質管理センターへの市民見学の機会が増えるよう努め、「簡易ろ過実験」「臭気検査」「きき水体験」など体験型広報に接する機会を増加させました。 ・本市ホームページにおいて、マンガやイラストを活用した水質検査結果の解説ページを充実させました。			・広報人材育成室と連携し、水質管理センターへの市民見学の機会が増えるよう努め、「簡易ろ過実験」「臭気検査」「きき水体験」など体験型広報を実施しました。 ・本市ホームページにおいて、マンガやイラストを活用した水質検査結果の公表に努めました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	・啓発活動の継続		1点		・啓発活動の継続		1点		・啓発活動の継続		1点	
	・分かりやすい情報提供		1点		・分かりやすい情報提供		1点		・分かりやすい情報提供		1点	
平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
さわやかトーク 宅配便等年間実施数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	10回	10回	12回	18回	180%	5点	14回	140%	5点	12回	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	10回	20回	32回	18回	180%	5点	32回	160%	5点	44回	138%	5点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施していることから、当課における予算措置は計上していません。			・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施しています。			・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施しています。		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、多くのお客さまが漠然と抱えている水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができるかと評価しています。今後とも当課における広報活動は拡充させていく必要があります。			・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、多くのお客さまが漠然と抱えている水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができるかと評価しています。今後とも当課における広報活動は拡充させていく必要があります。			・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、多くのお客さまが漠然と抱えている水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができるかと評価しています。今後とも当課における広報活動は拡充させていく必要があります。		
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	5点	A	進捗度	5点	B
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。今後、どれだけ市民の皆様理解を得ることができたか、成果を期待したい。また、浸透度や理解度についての評価手法等を検討すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-1	学校施設の水飲み水栓の直結給水化	所管課	管路課
----	----	--------------	--------	------	------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	じゃ口から水を飲むという水道の文化を引き継ぎ、次世代を担う子供たちが水道水のおいしさをより実感できるよう、小中学校の水飲み水栓の直結給水化に取り組みます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>	<p>28年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>	<p>29年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (協議回数)	1回	1回	100%	1回	1回	100%	1回	1回	100%
	期間(d) (従事期間)	1年	1年		1年	1年		1年		
	単位あたりの 作業量(c/d)	1回/年	1回/年	(イ/ア)	1回/年	1回/年	(イ/ア)	1回/年	1回/年	(イ/ア)
(1年間の協議回数)	(ア)	(イ)	(ア)		(イ)	(ア)		(イ)		

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度								
	・学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 61.1%	<p>教育委員会との協議 協議実施回数 1回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか協議を行いました。財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。</p> <p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 63.7% 市立学校施設数 182校 直結化した学校数 116校</p>			<p>教育委員会との協議 協議実施回数 1回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか協議を行いました。財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。</p> <p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 63.7% 市立学校施設数 179校(閉校・統合により3校減) 直結化した学校数 114校(閉校・統合により2校減)</p>			<p>教育委員会との協議 協議実施回数 1回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか確認を行い、財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。</p> <p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 65.7% 市立学校施設数 178校(閉校・統合により1校減) 直結化した学校数 117校</p>								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~				
		教育委員会との協議実施	1点		教育委員会との協議実施	1点		教育委員会との協議実施	2点							
		平均(A)	1.0点			平均(A)			1.0点			平均(A)			2.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
学校施設の水飲み水 栓の直結給水化率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	61.1%	63.7%	65.0%	63.7%	104%	4点	63.7%	100%	3点	65.7%	101%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	61.1%	63.7%	65.7%	63.7%	104%	4点	63.7%	100%	3点	65.7%	100%	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	教育委員会との協議及び情報共有により実施予定校を確認しました。 その他施設に係る工事(水槽入替、修繕等)での、直結給水化の可否について検討を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を進めることを確認しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			教育委員会との協議及び情報共有を図り、今後の改修予定校を確認しました。また、その他施設の工事(貯水槽入替、修繕等)に合わせた、直結給水化について協議を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を優先することを確認しました。本取り組みについては、事業の性質上、予算計上及び執行はありません。			教育委員会との協議及び情報共有を図り、今後の改修予定校を確認しました。また、その他施設の工事(貯水槽入替、修繕等)に合わせた、直結給水化について協議を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を優先することを確認しました。本取り組みについては、事業の性質上、予算計上及び執行はありません。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	教育委員会との協議及び情報共有を図り、双方共通の認識で取組を進めています。学校施設の直結給水化は、大規模改修計画に基づき計画どおりに進捗しています。			平成28年度は、大規模改修計画による直結給水化はありませんでした。また、閉校・統合により3校が減少しましたが、直結給水化率に変動はありませんでした。 なお、小学校3校、中学校1校が改修工事中であり、平成29年度内に直結給水化予定であることを確認しています。			平成29年度は、閉校・統合により1校減となったものの、小学校3校、中学校1校の直結給水化が図られ、総じて3校の増加となりました。引き続き、教育委員会との協議及び情報共有を図り、双方共通の認識で取組を進めています。		
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	4点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	3点	C	進捗度	3点	B
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	水道局自体の努力だけでは難しいことは理解できるが、学校施設の直結給水化は、新潟の水を市民に届け、当たり前に使ってもらうためにも、引き続き、計画に沿った事業推進のため努力してもらいたい。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-2	貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	所管課	管路課
----	----	--------------	--------	------	---------------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	貯水槽水道利用者へ安全でおいしい水道水が供給されるよう、訪問指導等の強化により、貯水槽の清掃率向上に向けた積極的な啓発活動を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。 民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。	貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。 民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。 衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を委託化し、指導実施件数を増やします。	貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。 民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。 衛生管理訪問指導 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を実施(委託)し、清掃実施件数を増やします。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	65,830			3,844,320			4,120,800		
	執行額(b)	44,198			3,837,288			4,025,254		
	執行率(%) (b) / (a)	67%			100%			97.7%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.3人	0.3人		0.3人	0.3人		0.3人	0.3人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年	1年	100%
	単位あたりの 作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	0.3人/年 (ア)	0.3人/年 (イ)	(イ/ア)	0.3人/年 (ア)	0.3人/年 (イ)	(イ/ア)	0.3人/年 (ア)	0.3人/年 (イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	貯水槽清掃実施率 ・簡易専用水道 94.9% ・小規模貯水槽水道 67.1% ・全体清掃率 78.3%	貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議 平成27年度は強化月間の設定及び取組の具体化に向けた協議を行いました。しかし、衛生管理指導業務委託化の検討から、取組内容の調整が必要となり具体化には至りませんでした。平成28年度継続協議としています。 民間清掃業者との連携 衛生管理指導業務の取組内容を踏まえ民間清掃業者との協力体制に向けた協議を実施しました。連携の具体化については、継続協議としています。 (新規)衛生管理指導業務の委託化 新たに、(公財)新潟水道サービスへの衛生管理指導業務委託化について検討し、平成28年度予算措置を行いました。			貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議 平成27年度に引き続き、強化月間の設定に向けた協議を行いました。具体化には至りませんでした。平成29年度継続協議とします。 民間清掃業者との連携 貯水槽清掃強化月間の設定に向けて、民間清掃業者との協議を実施しましたが、連携の具体化には至りませんでした。平成29年度継続協議としています。 (新規)衛生管理指導業務の委託化 新たに、(公財)新潟水道サービスへ貯水槽施設衛生管理指導業務を委託し、過去1年以上清掃報告の無い施設300件を対象に、事前確認等の後、164件の訪問・電話指導を実施しました。			貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議 強化月間における取組案の作成に留まり、具体的な協議には至りませんでした。平成30年度は、作成した取組案を基に関係機関と協議します。 民間清掃業者との連携 貯水槽清掃強化月間の設定に向けて、民間清掃業者との協議を実施しましたが、連携の具体化には至りませんでした。平成30年度は、強化月間での取組案を基に、協議します。 (新規)衛生管理指導業務の委託化 新たに、(公財)新潟水道サービスへ貯水槽施設衛生管理指導業務を委託し、過去1年以上清掃報告の無い施設300件を対象に、訪問・電話指導を実施しました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議		1点		貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議		1点		貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議		1点	
	民間清掃業者との連携協議		1点		民間清掃業者との連携協議		1点		民間清掃業者との連携協議		1点	
	(新規)衛生管理指導業務委託化	2点			(新規)衛生管理指導業務委託化	1点			(新規)衛生管理指導業務委託化	1点		
平均(A)		1.3点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
貯水槽清掃実施率 (簡易専用水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	92.8%	92.9%	93.1%	95.1%	103%	4点	96.9%	104%	4点	97.4%	105%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
貯水槽清掃実施率 (小規模貯水槽水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	65.5%	65.6%	65.8%	65.4%	100%	3点	72.1%	110%	4点	71.7%	109%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
貯水槽清掃実施率 (全体清掃率)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	76.5%	76.6%	76.8%	77.4%	101%	4点	82.3%	107%	4点	82.3%	107%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>予算の執行額は、前年度の清掃未実施者への指導文書郵送経費であり、平成26年度は清掃実施率が高かったことから低減しました。また、所有者所在不明のため、指導が行えない施設も増加していることから、今後は、料金情報等から所有者不明を解消し、適切な指導に努めます。平成28年度は、関係機関と継続協議としています。</p>			<p>衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を新たに委託化し、限られた人員体制の中で、効率よく指導強化を進めました。関係機関との連携については、継続協議とします。</p>			<p>衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を委託化し、限られた人員体制の中で、効率よく指導強化を進めました。関係機関との連携については、継続協議とします。</p>		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>貯水槽清掃実施率全体では、目標値を0.9ポイント上回り、衛生管理の向上が図られ目標は達成されました。しかし、小規模貯水槽水道にあっては、目標値より0.1ポイント下回りました。より安心安全な水道水利用のためにも、平成28年度からは一部業務を委託化し、管理指導強化を進め、衛生管理向上を図ることとします。</p>			<p>貯水槽清掃実施率全体では、目標値を5.7ポイント上回りました。清掃実施率は、全体的に緩やかな上昇傾向にあり、新たに委託化した訪問指導強化による効果も含め、平成28年度は大きく上昇したものと考えます。しかし、これまでの清掃実施率は毎年上下を繰り返していることから、今後も慎重に推移を確認し、訪問指導強化の有効性を評価する必要があります。</p>			<p>全体の貯水槽清掃率は、平成28年度に引き続き目標値を5.7ポイント上回りました。平成28年度に前年度比で大きな清掃率上昇がみられたため、平成29年度は反動から前年度より清掃率が低下することが懸念されましたが、前年度同等の高い清掃率を達成できたことは、委託化による訪問・電話指導強化の効果が一因としてあったものと思慮します。しかし、清掃実施率は毎年上下を繰り返しており、今後も継続的に清掃実施率の推移に注視していく必要があります。</p>		
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
給水装置に係る 事故件数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	0件	0件	0件	0件	100%	3点	0件	100%	3点	0件	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
指定給水装置工事 事業者講習会参加率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	73.6%	74.2%	78.0%	74.2%	101%	4点	80.1%	108%	4点	73.1%	93.7%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
優良指定給水装置工 事事業者の表彰実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>予算の執行については、優良工事店表彰が当初予定数に対し増加したことにより執行額が4.4%上昇しました。 講習内容は、研修テキストによるマンネリ防止から、現場実務的な内容に改めました。 講習会参加率は、前年度比で0.6ポイント上昇し当初目標を達しました。</p>			<p>優良工事店表彰において、熊本地震への復旧支援に対する特別表彰がありました。経費削減に努め、当初予算内で執行しました。 講習内容は、「指定給水装置工事事業者研修テキスト」の改定に合わせて改めました。 講習会参加率は、前年度比で5.9ポイント上昇し当初目標を達しました。</p>			<p>指定給水装置工事事業者講習会の講習内容は、指定工事事業者の施工技術向上に資するべく、近々予定されている水道法改正の内容など、最近の情報を盛り込んで作成しました。 優良工事店表彰については、施行内容が優れた工事事業者17社に対し、支障なく実施しました。運営経費に契約差益が生じたため、執行率は低下しました。</p>		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これら取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。</p>			<p>講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これら取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。</p>			<p>講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これら取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。 ※「指定給水装置工事事業者講習会参加率」は寒波により急遽講習会が中止となったため、新潟会場分は受講申込数にて算定。</p>		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	表彰制度は業者の方々にとって励みになる良い制度であることから、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-1	浄水施設の計画的更新	所管課	計画整備課
----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を計画的に更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図ります。また、更新に併せて、環境負荷の低減や維持管理性の向上に配慮した整備を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	28年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【配水場整備事業】平成28～32年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	29年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【配水場整備事業】平成28～32年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	559,694,000			1,326,776,000			3,434,021,000		
	執行額(b)	516,618,000			1,417,115,000			2,177,981,000		
	執行率(%) (b) / (a)	92%			107%			63%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.5人	0.5人		3.9人	3.9人		5.0人	5.0人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年	1年	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	0.5人/年	0.5人/年	(イ/ア)	3.9人/年	3.9人/年	(イ/ア)	5.0人/年	5.0人/年	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	阿賀野川浄水場施設整備実施設計を実施	阿賀野川浄水場整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施(平成29年度完了予定) 経年劣化した設備の個別整備			阿賀野川浄水場整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施(平成29年度完了予定) ・電気設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・自家発電設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) ・監視制御設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・ポンプ設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) 配水場整備事業 ・内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成29年度完了予定) ・竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) 経年劣化した設備の個別整備			阿賀野川浄水場整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施(平成29年度完了) ・電気設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・自家発電設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) ・監視制御設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・ポンプ設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) ・粉末活性炭注入設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) 配水場整備事業 ・内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成29年度完了) ・竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) ・南浜電気設備更新工事の実施(平成32年度完了予定) 経年劣化した設備の個別整備				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	阿賀野川浄水場整備事業		1点		阿賀野川浄水場整備事業		1点		阿賀野川浄水場整備事業			0点
					配水場整備事業		1点		配水場整備事業		1点	
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)		0.5点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
阿賀野川浄水場 整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	実施	3点	実績	実施	3点	実績	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
配水場整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	実施	実施	—	—	—	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	ポンプ場築造工事において、安全性確認のため土質調査の結果、地盤支持力や土質の不均一性が判明したため、基礎杭、仮設土留め工法を変更したことにより目標出来形は達成できなかったものの、ほぼ予定通りに工事を実施しました。			阿賀野川浄水場整備事業は、ポンプ場築造工事を予定通り工事を進めるとともに、機械・電気設備更新工事などの各工事を計画通り発注して工事着手しました。また、平成28年度からは配水場整備事業に着手し、予定通り工事を実施しました。			・ポンプ場築造工事(阿賀整備)および内野配水ポンプ電気設備更新工事(配水場整備)は予定通り完了しました。 ・阿賀野川浄水場整備事業の機械・電気設備工事では機器仕様の検討に時間を要したことで目標出来形には到達できなかったものの、工程は概ね計画通りに進んでいます。 ・粉末活性炭注入設備更新工事(阿賀整備)及び南浜電気設備更新工事(配水場整備)を計画通り発注し、工事着手しました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため老朽化した設備を計画的に更新する必要があります。阿賀野川浄水場施設整備事業は、来年度以降も稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理に努めます。			水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため老朽化した設備を計画的に更新する必要があります。阿賀野川浄水場施設整備事業は、昨年度に引き続き稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理に努めます。また、配水場施設整備事業についても、計画通りに工事を進めています。			水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため老朽化した設備を計画的に更新する必要があります。阿賀野川浄水場及び配水場施設整備事業は、昨年度に引き続き稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理に努めます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ—2	管路施設の計画的更新	所管課	計画整備課
-----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れ、更新周期を設定し、老朽化した管路施設(基幹管路・配水支管)を中心に計画的に更新します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成27年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成27年度22,700m	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成28年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成28年度26,500m	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成29年度5,200m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成29年度26,500m

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	4,042,197,779			4,575,493,647			4,898,833,373		
	執行額(b)	3,965,809,835			4,431,799,960			4,527,132,109		
	執行率(%) (b) / (a)	98%			97%			92%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	30.1人	29.3人	97%	30.4人	30.8人	101%	29.8人	30.4人	102%
	期間(d) (従事期間)	1年	1年		1年	1年		1年		
	単位あたり の作業量(c/d)	30.1人/年	29.3人/年	30.4人/年	30.8人/年	29.8人/年	30.4人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度				29年度					
	・基幹管路更新延長 6,700m ・配水支管更新延長 27,500m	今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注をしました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 5,130m※ 4,870m(計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 配水支管更新事業 更新延長 18,042m ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,326m 配水支管更新事業 更新延長 19,538m (注):事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。評価については、この発注延長を基にした耐震適合率によります。			目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注しました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 4,637m 4,190m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 19,321m 16,941m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,628m 配水支管更新事業 更新延長 15,711m (注):事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。				目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注しました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,193m 2,840m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 15,617m 14,079m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,388m 配水支管更新事業 更新延長 17,090m (注):事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。					
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		上昇 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	減少 90%未満~		上昇 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	減少 90%未満~		
		基幹管路更新事業		1点		基幹管路更新事業		0点		基幹管路更新事業		0点		
		配水支管更新事業		0点		配水支管更新事業		0点		配水支管更新事業		0点		
	平均(A)	0.5点			平均(A)	0.0点				平均(A)	0.0点			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
基幹管路更新延長 <small>※評価指標の延長は発注延長(計画値)を使用</small>	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4,900m	4,900m	5,200m	4,870m	99%	3点	4,190m	86%	2点	2,840m	55%	1点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)
	4,900m	9,800m	15,000m	4,870m	99%	3点	9,060m	92%	3点	1,900m	79%	1点
配水支管更新延長 <small>※評価指標の延長は発注延長(計画値)を使用</small>	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	22,700m	26,500m	26,500m	18,042m	79%	1点	16,941m	64%	1点	14,079m	53%	1点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)
	22,700m	49,200m	75,700m	18,042m	79%	1点	34,983m	71%	1点	49,062m	65%	1点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・積算基準の変更などから工事単価が大幅に上昇したため、管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・これにより、基幹管路更新、配水支管更新それぞれ計画していた工事発注件数の調整を行ない、調整後は予定通り工事発注を行ないました。 ・基幹管路については、既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートにより更新を進めたため延長が増えました。このため、効率性評価として用いるには、馴染まないことから、当初計画延長により評価を行ないます。			・工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・この見直しに基づき、基幹管路更新、配水支管更新はほぼ予算通りの工事発注を行ないました。 ・マスタープランの更新計画延長に対しては、基幹管路はほぼ目標に達したものの、配水支管更新は事業費の一部を基幹管路更新に充当したことから29ポイント下回りました。			・積算基準の変更および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・この見直しに基づき、基幹管路更新、配水支管更新はほぼ予算通りの工事発注を行ないました。 ・マスタープランの更新計画延長に対しては、工事難易度が高まったことによる事業費の増加等により目標に達しませんでした。		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	1点	D	作業効率	1点	D
	外的要因加点	1点		5点/10点	外的要因加点		1点	4点/10点	
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	確実な管路更新により、老朽化管路率・老朽化基幹管路率は減少し、管路耐震適合率・基幹管路耐震適合率は向上しています。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。			工事単価の上昇などにより管路事業費の予算配分を見直した結果、基幹管路更新を優先したことから配水支管更新は計画通り進みませんでした。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。 また、今後も市街地域における特殊工事の追加や工事単価の上昇などによる工事費増加が予想されることから、中期実施計画策定に向けた管路更新計画の見直しを行います。			漏水事故の影響が大きい基幹管路更新を優先したことから配水支管更新が計画通り進みませんでした。 基幹管路更新では、市街地域の更新工事が多く、交通量や埋設物の影響により工事費が増加したことから更新延長が伸びませんでした。 市街地域に集中した老朽管を更新することで漏水事故の未然防止を図ります。		
評価結果	達成度	2点	総合評価	達成度	2点	総合評価	達成度	1点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	2点	C	進捗度	2点	C	進捗度	1点	D
	外的要因加点	1点		5点/10点	外的要因加点		1点	5点/10点	

④2次評価結果

【方向性】	維持	改善・見直し
	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	管路の計画的更新は、耐震化や有収率向上対策につながる事業でもある。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水支管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。
		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-3	鉛給水管の計画的更新	所管課	管路課
----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	鉛給水管を更新し給水管の耐震化および漏水の未然防止を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別) 	<p>28年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別) 	<p>29年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	770,590,192		643,403,675		661,095,864				
	執行額(b)	738,874,863		625,472,423		586,752,451				
	執行率(%) (b) / (a)	96%		97%		89%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	10.5人	10.0人	95%	10.3人	11.8人	115%	11.0人	10.9人	99%
	期間(d) (従事期間)	1年	1年		1年	1年		1年		
	単位あたり の作業量(c/d)	10.5人/年	10.0人/年	10.3人/年	11.8人/年	11.0人/年	10.9人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度																																																																																					
	鉛製給水管率 7.3%	更新件数			更新件数			更新件数																																																																																					
		<table border="1"> <tr><th>施策</th><th>当初見込</th><th>更新数</th><th>実施率</th></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(ガス競合)</td><td rowspan="3">650</td><td rowspan="3">681</td><td rowspan="3">104.8%</td></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(局単独)</td></tr> <tr><td>連合給水鉛管更新</td></tr> <tr><td>小計</td><td>650</td><td>681</td><td></td></tr> <tr><td>他工事給水鉛管更新</td><td rowspan="2">830</td><td rowspan="2">795</td><td rowspan="2">95.8%</td></tr> <tr><td>給水鉛管更新(局単独)</td></tr> <tr><td>小計</td><td>830</td><td>795</td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td>1,480</td><td>1,476</td><td>99.7%</td></tr> </table>	施策	当初見込	更新数	実施率	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	650	681	104.8%	小口径管鉛給水更新(局単独)	連合給水鉛管更新	小計	650	681		他工事給水鉛管更新	830	795	95.8%	給水鉛管更新(局単独)	小計	830	795		計	1,480	1,476	99.7%	<table border="1"> <tr><th>施策</th><th>当初見込</th><th>更新数</th><th>実施率</th></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(ガス競合)</td><td rowspan="3">460</td><td rowspan="3">482</td><td rowspan="3">104.8%</td></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(局単独)</td></tr> <tr><td>連合給水鉛管更新</td></tr> <tr><td>小計</td><td>460</td><td>482</td><td></td></tr> <tr><td>他工事給水鉛管更新</td><td rowspan="2">790</td><td rowspan="2">622</td><td rowspan="2">109.3%</td></tr> <tr><td>給水鉛管更新(局単独)</td></tr> <tr><td>給水装置工事</td><td>375</td><td>651</td><td></td></tr> <tr><td>小計</td><td>1,165</td><td>1,273</td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td>1,625</td><td>1,755</td><td>108.0%</td></tr> </table>	施策	当初見込	更新数	実施率	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	460	482	104.8%	小口径管鉛給水更新(局単独)	連合給水鉛管更新	小計	460	482		他工事給水鉛管更新	790	622	109.3%	給水鉛管更新(局単独)	給水装置工事	375	651		小計	1,165	1,273		計	1,625	1,755	108.0%	<table border="1"> <tr><th>施策</th><th>当初見込</th><th>更新数</th><th>実施率</th></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(ガス競合)</td><td rowspan="3">420</td><td rowspan="3">362</td><td rowspan="3">86.2%</td></tr> <tr><td>小口径管鉛給水更新(局単独)</td></tr> <tr><td>連合給水鉛管更新</td></tr> <tr><td>小計</td><td>420</td><td>362</td><td></td></tr> <tr><td>他工事給水鉛管更新</td><td rowspan="2">750</td><td rowspan="2">507</td><td rowspan="2">100.4%</td></tr> <tr><td>給水鉛管更新(局単独)</td></tr> <tr><td>給水装置工事</td><td>375</td><td>622</td><td></td></tr> <tr><td>小計</td><td>1,125</td><td>1,129</td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td>1,545</td><td>1,491</td><td>96.5%</td></tr> </table>	施策	当初見込	更新数	実施率	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	420	362	86.2%	小口径管鉛給水更新(局単独)	連合給水鉛管更新	小計	420	362		他工事給水鉛管更新	750	507	100.4%	給水鉛管更新(局単独)	給水装置工事	375	622		小計	1,125	1,129		計	1,545	1,491	96.5%
	施策	当初見込	更新数	実施率																																																																																									
小口径管鉛給水更新(ガス競合)	650	681	104.8%																																																																																										
小口径管鉛給水更新(局単独)																																																																																													
連合給水鉛管更新																																																																																													
小計	650	681																																																																																											
他工事給水鉛管更新	830	795	95.8%																																																																																										
給水鉛管更新(局単独)																																																																																													
小計	830	795																																																																																											
計	1,480	1,476	99.7%																																																																																										
施策	当初見込	更新数	実施率																																																																																										
小口径管鉛給水更新(ガス競合)	460	482	104.8%																																																																																										
小口径管鉛給水更新(局単独)																																																																																													
連合給水鉛管更新																																																																																													
小計	460	482																																																																																											
他工事給水鉛管更新	790	622	109.3%																																																																																										
給水鉛管更新(局単独)																																																																																													
給水装置工事	375	651																																																																																											
小計	1,165	1,273																																																																																											
計	1,625	1,755	108.0%																																																																																										
施策	当初見込	更新数	実施率																																																																																										
小口径管鉛給水更新(ガス競合)	420	362	86.2%																																																																																										
小口径管鉛給水更新(局単独)																																																																																													
連合給水鉛管更新																																																																																													
小計	420	362																																																																																											
他工事給水鉛管更新	750	507	100.4%																																																																																										
給水鉛管更新(局単独)																																																																																													
給水装置工事	375	622																																																																																											
小計	1,125	1,129																																																																																											
計	1,545	1,491	96.5%																																																																																										
		<table border="1"> <tr><th></th><th>予定を上回る101%以上</th><th>予定どおり90%~100%以下</th><th>予定を下回る90%未満~</th></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(ガス工事競合)</td><td rowspan="3">2点</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(局単独工事)</td></tr> <tr><td>連合鉛給水管更新</td></tr> <tr><td>他工事に関連する鉛給水管更新</td><td></td><td rowspan="2">1点</td><td></td></tr> <tr><td>鉛給水管更新(戸別)</td></tr> <tr><td>平均(A)</td><td></td><td>1.5点</td><td></td></tr> </table>		予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~	小口径老朽管更新(ガス工事競合)	2点			小口径老朽管更新(局単独工事)	連合鉛給水管更新	他工事に関連する鉛給水管更新		1点		鉛給水管更新(戸別)	平均(A)		1.5点		<table border="1"> <tr><th></th><th>予定を上回る101%以上</th><th>予定どおり90%~100%以下</th><th>予定を下回る90%未満~</th></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(ガス工事競合)</td><td rowspan="3">2点</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(局単独工事)</td></tr> <tr><td>連合鉛給水管更新</td></tr> <tr><td>他工事に関連する鉛給水管更新</td><td></td><td rowspan="2">2点</td><td></td></tr> <tr><td>鉛給水管更新(戸別)</td></tr> <tr><td>給水装置工事</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>平均(A)</td><td></td><td>2.0点</td><td></td></tr> </table>		予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~	小口径老朽管更新(ガス工事競合)	2点			小口径老朽管更新(局単独工事)	連合鉛給水管更新	他工事に関連する鉛給水管更新		2点		鉛給水管更新(戸別)	給水装置工事				平均(A)		2.0点		<table border="1"> <tr><th></th><th>予定を上回る101%以上</th><th>予定どおり90%~100%以下</th><th>予定を下回る90%未満~</th></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(ガス工事競合)</td><td></td><td></td><td rowspan="3">0点</td></tr> <tr><td>小口径老朽管更新(局単独工事)</td></tr> <tr><td>連合鉛給水管更新</td></tr> <tr><td>他工事に関連する鉛給水管更新</td><td></td><td rowspan="2">1点</td><td></td></tr> <tr><td>鉛給水管更新(戸別)</td></tr> <tr><td>給水装置工事</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>平均(A)</td><td></td><td>0.5点</td><td></td></tr> </table>		予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~	小口径老朽管更新(ガス工事競合)			0点	小口径老朽管更新(局単独工事)	連合鉛給水管更新	他工事に関連する鉛給水管更新		1点		鉛給水管更新(戸別)	給水装置工事				平均(A)		0.5点																									
	予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~																																																																																										
小口径老朽管更新(ガス工事競合)	2点																																																																																												
小口径老朽管更新(局単独工事)																																																																																													
連合鉛給水管更新																																																																																													
他工事に関連する鉛給水管更新		1点																																																																																											
鉛給水管更新(戸別)																																																																																													
平均(A)		1.5点																																																																																											
	予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~																																																																																										
小口径老朽管更新(ガス工事競合)	2点																																																																																												
小口径老朽管更新(局単独工事)																																																																																													
連合鉛給水管更新																																																																																													
他工事に関連する鉛給水管更新		2点																																																																																											
鉛給水管更新(戸別)																																																																																													
給水装置工事																																																																																													
平均(A)		2.0点																																																																																											
	予定を上回る101%以上	予定どおり90%~100%以下	予定を下回る90%未満~																																																																																										
小口径老朽管更新(ガス工事競合)			0点																																																																																										
小口径老朽管更新(局単独工事)																																																																																													
連合鉛給水管更新																																																																																													
他工事に関連する鉛給水管更新		1点																																																																																											
鉛給水管更新(戸別)																																																																																													
給水装置工事																																																																																													
平均(A)		0.5点																																																																																											

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(B/D)	実績(D)		達成度(B/D)	実績(D)		達成度(B/D)
鉛給水管率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	7.3%	7.0%	5.2%	7.0%	104%	4点	6.3%	111%	5点	5.9%	88%	2点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点
	7.3%	7.0%	5.2%	7.0%	104%	4点	6.3%	111%	5点	5.9%	88%	2点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	鉛製給水管の更新は、他工事と併せた工事による費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っています。今年度は予算執行・更新件数とも概ね当初目標どおりに達成することができました。			鉛給水管の更新は、他工事と併せ実施することによる費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っています。今年度も効率的な予算執行により、目標を超える更新を行うことができました。			鉛給水管の更新は、他工事と併せ実施することによる費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っていますが、鉛管更新の進捗により鉛管密度は当初見込以上に漸次低減しており、他工事の施工に併せた更新数は減少傾向にあるため、今年度は当初目標を下回る結果となりました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	2点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施する必要があります。小口径老朽管(主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新に併せて解消するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消をすすめていきます。			鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施する必要があります。小口径老朽管(主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新に併せて解消するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消を進めていきます。			鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施することから、引き続き他工事関連や、小口径老朽管(主に口径50mmのビニル管、鋼管)の解消を推進するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消を進めます。なお、前述のとおり、他工事(下水道・ガス)の減少及び鉛管密度の低減化により、当初見込以上に工事実施数が減少するなど、外的要素が主原因で有効性の低下が生じたことを踏まえ、加点を行うものです。		
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	2点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	5点	A	進捗度	2点	C
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	1点	5点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-1	浄配水施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	--------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	大規模地震が発生した場合でも、影響を最小限にとどめ、水道システムとして機能を損なうことのないよう、浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】1施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成27年度】2施設実施 ・青山浄水場(洗浄水槽)、阿賀浄水場(洗浄水槽)	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟、1系配水ポンプ場) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成28年度】2施設に着手 ・阿賀浄水場(配水池、沈砂池)耐震化工事に着手(構内水管含む)	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟、1系配水ポンプ場) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成29年度】2施設実施 ・阿賀浄水場(配水池、沈砂池)耐震化工事に着手(構内水管含む)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	100,874,000			311,148,000			427,680,000		
	執行額(b)	98,458,040			154,300,000			475,433,000		
	執行率(%) (b)/(a)	98%			50%			111%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.5人	0.5人		1.5人	1.5人		2.0人	2.0人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年	1年	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	0.5人/年	0.5人/年	(イ/ア)	1.5人/年	1.5人/年	(イ/ア)	2.0人/年	2.0人/年	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・青山浄水場1系沈砂池の耐震補強完了	・青山浄水場洗浄水槽の耐震補強完了 ・阿賀野川浄水場洗浄水槽の耐震補強完了			今年度計画していた工事は予定通り発注しましたが、構内水管耐震化工事において、既設配管の試掘調査に時間を要し配管計画の策定が遅れたことから、予定出来高が達成できずに予算執行率が低下しました。 阿賀野川浄水場 ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施(平成31年度完了予定) ・沈砂池耐震補強の実施(平成29年度完了予定)			阿賀野川浄水場 ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施(平成31年度完了予定) ・沈砂池耐震補強の実施(平成29年度完了)				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	耐震補強実施施設(土木構造物)		1点		耐震補強実施施設(土木構造物)		0点		耐震補強実施施設(土木構造物)		1点	
	平均(A)		1.0点		平均(A)		0.0点		平均(A)		1.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
【建築物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	2/2	—	—	—	—	—	—	0/2	0%	1
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	2/2	—	—	—	—	—	—	0/2	0%	1
【土木構造物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1/13	2/13	3/13	2/13	200%	5点	2/13	100%	3点	3/13	100%	3
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	1	2	3	2	200%	5点	2	100%	3点	3	100%	3
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	浄配水施設の耐震化は、予定通り2施設完了しました。			浄配水施設の耐震化は、予定していた1施設(阿賀野川洗浄水槽)は27年度に前倒して完了するとともに、阿賀野川浄水場の構内水管耐震化、配水池と沈砂池の補強工事に着手しました。ただし、阿賀野川浄水場の構内水管耐震化工事は、既設配管の試掘調査に時間を要し配管計画の策定が遅れたことから、予定出来高が達成できませんでした。			(建築物) 戸頭浄水場で計画していた平成29年度予定の1系配水ポンプ場は、耐震診断の結果により耐震補強は不要となり、脱水機等は粉末活性炭注入設備に併せ改修および耐震補強を実施するため後期に先送りしたことから、平成29年度補強実施はありません。また、沈澱池・ろ過池上屋を対象施設に追加し、後期に補強を実施します。 (土木構造物) 阿賀浄水場の沈砂池は予定通り完了しました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	2点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備に併せ効率的に耐震補強を実施します。			大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備に併せ効率的に耐震補強を実施します。			大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備に併せ効率的に耐震補強を実施します。		
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	2点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	3点	C	進捗度	2点	D
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	4点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-2	管路施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	-------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、老朽化管路を地震に強い耐震管へ入れ替え、管路施設の耐震化を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成27年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成27年度22,700m</p>	<p>28年度</p> <p>Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成28年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成28年度26,500m</p>	<p>29年度</p> <p>Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成29年度5,200m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成29年度26,500m</p>

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	4,042,197,779			4,575,493,647			4,898,833,373		
	執行額(b)	3,965,809,835			4,431,799,960			4,527,132,109		
	執行率(%) (b)/(a)	98%			97%			92%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	30.1人	29.3人		30.4人	30.8人		29.8人	30.4人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	97%	1年	1年	101%	1年	1年	102%
	単位あたり の作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	30.1人/年 (ア)	29.3人/年 (イ)	(イ/ア)	30.4人/年 (ア)	30.8人/年 (イ)	(イ/ア)	29.8人/年 (ア)	30.4人/年 (イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価
■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	<ul style="list-style-type: none"> 基幹管路更新延長 6,700m 配水支管更新延長 27,500m 	<p>今年度計画していた工事は、予定通り概ね発注をしました。</p> <p>◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 5,130m※ 4,870m(計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 配水支管更新事業 更新延長 18,042m ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,326m 配水支管更新事業 更新延長 19,538m</p> <p>(注)：事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理している。評価については、この発注延長を基にした耐震適合率による。</p>			<p>目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通り概ね発注をしました。</p> <p>◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 4,637m 4,190m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 19,321m 16,941m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,628m 配水支管更新事業 更新延長 15,711m</p> <p>(注)：事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理していることから、この発注延長を基にした耐震適合率により評価します。</p>			<p>目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注しました。</p> <p>◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,193m 2,840m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 15,617m 14,079m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,388m 配水支管更新事業 更新延長 17,090m</p> <p>(注)：事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。</p>				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		基幹管路更新事業		1点	基幹管路更新事業			0点	基幹管路更新事業			0点
		配水支管更新事業			0点	配水支管更新事業			0点	配水支管更新事業		
	平均(A)	0.5点			平均(A)	0.0点			平均(A)	0.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
管路耐震適合率 ※ 基となる延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	66.9%	67.7%	68.5%	67.0%(見込み)		100%	3点	67.6%(見込み)		100%	3点	68.1%(見込み)		99%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
基幹管路耐震適合率 ※ 基となる延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	59.4%	61.0%	62.1%	59.3%(見込み)		100%	3点	61.2%(見込み)		100%	3点	62.4%(見込み)		100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・積算基準の変更などから工事単価が大幅に上昇したため、管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・このため、基幹管路更新、配水管更新それぞれ計画していた工事発注件数の調整を行ない、調整後は予定通り工事発注を行なった結果、耐震適合率は概ね目標通りとなりました。 ・基幹管路については、既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートにより更新を進めたため延長が増えた。このため、効率性評価として用いるには、馴染まないことから、当初計画延長により評価を行ないます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、事業の優先度を考慮し、配水管更新延長は事業費の一部を基幹管路更新に充当したため、基幹管路の更新延長はほぼ目標に達したものの、配水管更新延長は、目標に達しませんでした。 			<ul style="list-style-type: none"> ・積算基準の変更および市街地工事による事業費の増加により、漏水事故で影響が大きい基幹管路更新を優先して管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・マスタープランの更新計画延長に対しては、工事難易度が高まったことによる事業費の増加等により目標に達しませんでした。 		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	1点	D	作業効率	1点	D
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点	1点	4点/10点	外的要因加点	1点	4点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	確実な管路更新により、老朽化管路率・老朽化基幹管路率は減少し、管路耐震適合率・基幹管路耐震適合率は向上しています。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。			管路施設の耐震化については、今後も効率的に進めるため老朽化管路の更新に併せて計画的に進めていきます。			管路施設の耐震化については、大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、断水時に影響の大きい老朽化基幹管路更新を優先して老朽化管路の更新に併せて計画的に進めていきます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	改善・見直し
	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評 大規模地震発生に備え、耐震化の推進に努めること。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV—3	重要施設向け配水管の耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	災害時に早急な対策・復旧計画の策定が求められる行政機関や、被災した市民の生命に係る救急医療施設などの重要施設向け配水支管の耐震化を優先的に進め、被災対応の充実を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水支管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成27年度 医療機関3施設(累計:行政機関6施設 医療機関19施設)	重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水支管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成28年度 行政機関2施設(累計:行政機関8施設 医療機関19施設)	重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水支管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成29年度 医療機関4施設(累計:行政機関8施設 医療機関23施設)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	263,015,034			415,045,240			376,432,844		
	執行額(b)	255,096,365			399,835,052			342,014,130		
	執行率(%) (b)/(a)	97%			96%			90.9%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	2.7人	2.7人		4.0人	4.0人		3.0人	3.0人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年	1年	100%
	単位あたりの 作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	2.7人/年	2.7人/年	(イ/ア)	4.0人/年	4.0人/年	(イ/ア)	3.0人/年	3.0人/年	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	耐震化完了重要施設数(累計) ・行政機関 6施設 ・医療機関 16施設	◆耐震化完了重要施設数(累計) ・行政機関 6施設 ・医療機関 18施設注 ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 0施設 ・医療機関 3施設:新潟西蒲メディカルセンター病院、 新潟脳外科病院、木戸病院 (年度内完了施設:新潟西蒲メディカルセンター病院) ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数値により行います。 注:本事業である「重要施設向け耐震化工事」以外の支管更新工事により、医療機関向け配水管の耐震化が完了した施設が今年度1施設ありました。(大森内科医院)			◆耐震化完了重要施設数(実際に工事が完了した施設数の累計) ・行政機関 8施設(H28年度 江南区役所、秋葉区役所完了) ・医療機関 20施設(H28年度 新潟脳外科病院、木戸病院完了) ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 2施設:江南区役所、秋葉区役所 ・医療機関 1施設:県立がんセンター新潟病院(H29年度完了予定) ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数値により行います。			◆耐震化完了重要施設数(実際に工事が完了した施設数の累計) ・行政機関 8施設(H29年度 完了) ・医療機関 23施設(H29年度 県立がんセンター新潟病院、 信楽園病院附属有明診療所、 聖園病院完了) ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 0施設 ・医療機関 4施設:県立がんセンター新潟病院 信楽園病院附属有明診療所 聖園病院 山東第二病院(H29年度発注:H30年度へ繰越) ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数値により行います。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		重要施設向け配水管の耐震化		1点		重要施設向け配水管の耐震化	2.0点			重要施設向け配水管の耐震化		1点
		平均(A)	1.0点			平均(A)	2.0点			平均(A)	1.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
重要施設向け 配水管の耐震化 ※評価指標の進捗は、 工事の発注により行う	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	3施設	2施設	4施設	3施設(見込み)		100%	3点	3施設(見込み)		150%	5点	4施設(見込み)		100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	3施設	5施設	9施設	3施設(見込み)		100%	3点	6施設(見込み)		120%	5点	10施設(見込み)		111%	5点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行、人員体制については概ね目標通りに事業を進めることができました。 ・今年度は入札不調などの理由により繰り越した工事があり、年度内で完了しない施設がありました。しかし予定された工事については、全て発注を行ないました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・予定された施設数以上に工事発注を行ない、目標通りに事業を進めることができました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行、人員体制については概ね目標通りに事業を進めることができました。 ・今年度は入札不調などの理由により繰り越した工事があり、年度内で完了しない施設がありました。しかし予定された工事については、全て発注を行ないました。 		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の繰越により、年度内で完了しない施設がありました。今後は、早期の工事発注に取り組み、繰越が無いように取り組む必要があります。 ・計画的な事業実施により、着実に配水管の耐震化が完了した重要施設が増えています。重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・工事の繰越により、年度内で完了しない施設がありました。今後は、早期の工事発注に取り組み、繰越が無いように取り組む必要があります。 ・重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	5点	A	進捗度	5点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	重要施設向け配水管の耐震化は、震災時のことを考えると重要な事業である。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-4	配水管網のブロック化の推進	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故、災害時の被害範囲の極小化や復旧の迅速化を図るため、配水幹線の更新や関連事業との整合を図りながら、小ブロック(135ブロック)の構築を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成27年度:10小ブロックの構築	28年度 34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成28年度:5小ブロックの構築	29年度 34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成29年度:12小ブロックの構築

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.6人	0.5人	83%	0.7人	0.1人	14%	0.3人	0人	0%
	期間(d) (従事期間)	1年	1年		1年	1年		1年		
	単位あたり の作業量(c/d)	0.6人/年	0.5人/年	0.7人/年	0.1人/年	0.3人/年	0人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績 小ブロック構築率 74.8%(101/135)	27年度 小ブロック構築数 8ブロック ・小ブロック構築率 80.7%(109/135) 平成26年度の管路整備において、平成27年度実施予定の2小ブロックを先行して構築したことから、平成27年度は8小ブロックの構築となりました。			28年度 小ブロック構築数 1ブロック ・小ブロック構築率 81.5%(110/135) 他事業工事の遅延や、予定外に発生した大口需要者の工場移転に伴う配水管布設替えを優先したことなどから、必要な管網整備を行うことができず、平成28年度は1小ブロックの構築にとどまりました。			29年度 小ブロック構築数 0ブロック ・小ブロック構築率 81.5%(110/135) 平成29年度は、小ブロック構築済みの地域に管路整備が集中したため、布設替えに伴う小ブロックの構築には至りませんでした。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	小ブロック構築数		1点		小ブロック構築数		0点		小ブロック構築数		0点	
	平均(A)		1点		平均(A)		0.0点		平均(A)		0.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
小ブロック構築率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	80.7%	84.4%	93.3%	80.7%	100%	3点	81.5%	97%	3点	81.5%	87%	2点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点
	80.7%	84.4%	93.3%	80.7%	100%	3点	81.5%	97%	3点	81.5%	87%	2点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 また平成27年度は、北営業所所管区域において、平成26年度のJO3ブロック構築作業に伴い、隣接するJO6ブロックの構築がほぼ完了したことから、管路整備を行うことなく区域設定仕切弁覆の設置により、効率的に1カ所の小ブロックを構築することができました。			小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 また平成28年度は、他事業工事の遅延や、予定外に発生した大口需要者の工場移転に対応するための配水管布設替えを優先したことなどから、必要な管網整備を行うことができず、1小ブロックの構築にとどまりました。			小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 また平成29年度は、小ブロック構築済みの地域に管路整備が集中したこともあり、布設替えに伴う小ブロックの構築には至りませんでした。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	4点	B	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	ブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 今後計画的にブロック構築を進めていきます。			配水管網のブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 平成28年度の結果を踏まえ、計画の見直しを行いながら小ブロック構築を進めていきます。			配水管網のブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 来年度以降についても、当面小ブロック構築済み地域での管路整備が集中する見込みであり、計画の見直しを含めた検討を行いながら小ブロック構築を進めていきます。 局の施策上、街中の老朽管路の布設替えが喫緊の課題であり、小ブロック構築に優先して整備事業を進める事情がある点も考慮して外的要因加点を行うものです。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	2点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	2点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	1点	5点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV—5	大ブロック間の相互連絡管の整備	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	-----------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時のバックアップを目的とし、大ブロック(各浄配水場給水区域)間に相互連絡管を整備し、安定給水の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成27年度1,110m	28年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成28年度450m	29年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成29年度1,040m

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	261,360,000			199,368,000			404,352,000		
	執行額(b)	243,752,760			135,932,040			413,549,581		
	執行率(%) (b) / (a)	93%			68%			102.3%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	1.2人	1.2人		1.2人	1.2人		1	1人	
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年	1年	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1年間の従事職員数)	1.2人/年	1.2人/年	(イ/ア)	1.2人/年	1.2人/年	(イ/ア)	1人/年	1人/年	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=761.1m	27年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=1,074.8m 目標値の1,110mは概算値であり、工事としては予定路線を全て実施 できました。 またこの他、債務負担行為として平成28年度竣工予定の1路線、約539 mの工事に着手しました。			28年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=530m 目標値の450mは概算値であり、工事としては予定路線を全て実施で きました。 またこの他、繰越工事として平成29年度竣工予定の1路線、約475mの 工事に着手しました。			29年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・市道 φ500mm L=1,068.7m 目標値の1,040mは概算値であり、工事としては予定路線を全て実施 できました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～
	連絡管整備延長		1点		連絡管整備延長	2点			連絡管整備延長	2点		
	平均(A)		1点		平均(A)	2.0点			平均(A)	2.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
相互連絡管整備延長	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	1,110m	450m	1,040m	1,074.8m		97%	3点	530m		118%	5点	1068.7m		103%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	1,110m	1,560m	2,600m	1,074.8m		97%	3点	1,604.8m		103%	4点	2673.5m		103%	4点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	現場環境が良好(地方部)で作業効率が高く、予定通りの予算執行及び作業量により事業を実施できました。			現場環境が良好(地方部)で作業効率が高く、予定通りの予算執行及び作業量により事業を実施できました。			現場環境が良好(地方部)で作業効率が高く、予定通りの予算執行及び作業量により事業を実施できました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	5点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	A	作業効率	4点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	9点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	平成20年度から36年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から32年度までの工事の約16%が終了した。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿った施工を図ります。			平成20年度から36年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から32年度までの工事の約23%が終了しました。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿って事業を実施していきます。			平成20年度から36年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から32年度までの工事の約39%が終了しました。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿って事業を実施していきます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	4点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	A	進捗度	4点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	9点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-6	事故・災害時における復旧体制の強化	所管課	経営管理課
----	----	------------	--------	------	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確に応急給水する体制や、水道施設を早期に復旧する体制の強化を図るとともに、応急給水設備の整備や、給水や復旧に係る各種災害協定や関係団体・地域住民との連携の強化などを図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・満願寺浄水場の給水車用常設注水設備、住民用応急給水設備の整備を行います。 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・お客さまコールセンターとの災害時連携体制強化のため協力体制の検討・構築をします。 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備の整備を行います。 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・巻浄水場においては、隣接する既存施設を活用することで、整備済となっています。→事業中止 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	12,560,460			3,749,571			451,006		
	執行額(b)	9,426,560			1,447,334			340,653		
	執行率(%) (b) / (a)	75%			39%			75.5%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	398.4	398.4		368.8	368.8		26.8	26.8	
	時間(h)									
	人員(d)	4人	4人	100%	4人	4人	100%	4人	4人	100%
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量(c/d)	99.6	99.6		92.2	92.2		6.7	6.7		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・各マニュアルの見直しを行いました。 ・応急給水設備の整備、更新(青山浄水場、秋葉配水場、金津配水場)を行いました。 ・岡山市水道局と災害時燃料供給の相互協力に関する覚書を締結しました。／公益財団法人新下水道サービスと災害時における応急対策委託業務に関する協定書を締結しました。	・各マニュアル等の見直しを行い充実を図りました。(危機事象対応マニュアル、地域防災計画) ・BCPIに基づく各対策部の応急対策マニュアルを作成し、災害対応の強化を図りました。 ・満願寺浄水場の給水車用常設注水設備、住民用応急給水設備が完了し体制強化が図られました。 ・お客さまコールセンターとの災害時連携体制強化のため他事業体の調査及び検討を行いました。 ・応急給水訓練実施(南区2箇所、江南区、1箇所)			・危機管理マニュアル類の見直しを行い充実を図りました。 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備が完了し、応急給水体制の強化が図られました。(なお、巻浄水場(当初、平成29年度に整備予定)においては隣接する既存施設を活用することで、整備を行わないこととしました。) ・他団体との災害時応援協定の締結(地方公共団体等1件、民間団体等2件) ・応急給水訓練実施(南区2箇所、江南区1箇所)			・危機管理マニュアル類の見直しを行い充実を図りました。 ・他団体との災害時応援協定の締結(民間団体等3件) ・巻浄水場の住民用応急給水設備は、隣接する既存施設を活用することで、整備済となりました。 ・地域住民等と連携した応急給水訓練実施(南区1箇所、東区1箇所)				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	各種災害時マニュアルの更新		1点		各種災害時マニュアルの更新		1点		各種災害時マニュアルの更新		1点	
	応急給水設備の整備		1点		応急給水設備の整備		1点		応急給水設備の整備		1点	
	災害時の協力体制および連携体制の充実		1点		災害時の協力体制および連携体制の充実		1点		災害時の協力体制および連携体制の充実		1点	
平均(A)		1点		平均(A)		1点		平均(A)		1点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	
各種マニュアルの 作成・見直し	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	実施	実施	実施	実績	実施	3点	実績	実施	3点	実績	実施	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
給水車用常設注水設備 の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	1箇所	—	—	1箇所(満願寺)	100%	3点	—	—	—	—	—	—	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		—	実績累計(E)	進捗度(E/C)
住民用応急給水設備 の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	1箇所(満願寺)	1箇所(戸頭)	1箇所(巻)	1箇所(満願寺)	100%	3点	1箇所(戸頭)	100%	3点	1箇所(巻)	100%	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		—	実績累計(E)	進捗度(E/C)		—	実績累計(E)	進捗度(E/C)
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		—	実績累計(E)	進捗度(E/C)		—	実績累計(E)	進捗度(E/C)

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応の強化のため、満願寺浄水場に常設型の給水車注水設備及び応急給水設備を整備しました。 ・事業に対する執行額は、予算額とほぼ同等程度となりました。今年度予定されていた事業は、計画通り実施され、予算に対する執行額も予定の範囲内に収まる金額となりました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応の強化のため、戸頭浄水場に住民用応急給水設備を整備しました。(なお、巻浄水場(当初、平成29年度に整備予定)においては隣接する既存施設を活用することで、整備を行わないこととしました。) ・事業に対する執行額は、戸頭浄水場の整備において地下障害物の移送により管路延長の工事費が抑えられたため、予算額の約4割程度となりました。今年度予定されていた事業は、計画通り実施され、予算に対する執行額も予定の範囲内に収まる金額となりました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応の強化のため、巻浄水場の住民用応急給水設備は、隣接する既存施設を活用することで、整備済みとなりました。 ・事業に対する執行額は、予算額とほぼ同等程度となりました。今年度予定されていた事業は、計画通り実施され、予算に対する執行額も予定の範囲内に収まる金額となりました。 		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機事象対応マニュアル及び地域防災計画の見直しを行ったことに加えて、BCPに基づく各対策班の応急対策マニュアルを作成し、災害時対応の充実化を行いました。 ・満願寺浄水場に給水車用の常設型注水設備及び住民用の応急給水設備を整備し、注水設備については今年度で完了しました。 ・災害時における電話受付体制の強化のため、お客さまコールセンターとの連携手法について、他事業体での取り組み状況の調査を行うとともに、局内における電話受付体制の検討を行いました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、南区及び江南区の自治会と応急給水訓練を実施しました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・策定済み全ての危機管理マニュアルの見直しを行い、災害時対応力の強化が図れました。 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備について、今年度で完了しました。 ・災害時における他団体との連携強化として、①名古屋市上下水道局、②教井産業株式会社・株式会社クボタ東京本社、③豊工業株式会社との各種応援協定の締結を行いました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、南区及び江南区の自治会と応急給水訓練を実施しました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画や危機管理マニュアル類の見直しを行い、災害時対応力の強化が図れました。 ・巻浄水場の住民用応急給水設備は、隣接する既存施設を活用することで、整備済みとなりました。 ・災害時における他団体との連携強化として、①株式会社荏原製作所北陸支社、②第一環境株式会社、③新潟市海洋河川文化財団との各種応援協定の締結を行いました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、①南区の自治会、②東区の住民との応急給水訓練を実施しました。 		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評
【方向性】	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	他事業体や民間企業との災害時応援協定を積極的に締結している。また、今年度も応急給水訓練を定期的に実施している。市民にとって災害に備えた水道局の姿勢が見え安心材料となる。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-1	アセットマネジメントによる適正な資産管理	所管課	計画整備課
----	---	---------	--------	-----	----------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	人口減少に伴い給水収益の大幅な減少が見込まれる中、水道事業を安定して持続していくために、中長期的な視点に立って、施設更新需要の見直しについて検討し、着実な更新投資を行う必要があります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報を電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一的管理 方針の調査・検討(平成27年度～継続的に実施) 平成27年度:各浄水場の修繕・更新台帳及び竣工図等保管状況調査	中長期的な更新需要の見直し 平成28年度:水道施設の中長期的解決課題の再整理、更新需要の見直しとア セットマネジメントによる健全度評価および財政収支見通しの再検証(平成29年度 からの継続実施計画を前倒しする) 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報を電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一的管理方針の 調査・検討(平成27年度～継続的に実施) 平成28年度 ・汎用データベースソフトの利用可能性と導入・維持管理コスト調査 ・工事竣工図面等の電子化(PDF化など)と供用サーバへの保管ルールの検討	中長期的な更新需要の見直し 更新需要の見直しと財政収支見通しの検討を継続的に行うため、アセット マネジメントワーキンググループで健全度評価の在り方を検討 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報の電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一的管理 方針の調査・検討について、アセットマネジメントワーキンググルー プで継続的に実施

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	0		0		0				
	執行額(b)	0		0		0				
	執行率(%) (b)/(a)	-		-		-				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働人数)	0.6人	0.6人		2.4人	2.4人		4.4人	4.4人	
	期間(d) (実働期間)	6カ月	6カ月	100%	8カ月	8カ月	100%	12カ月	12カ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (月あたりの作業人数)	0.1人/月	0.1人/月	(イ/ア)	0.3人/月	0.3人/月	(イ/ア)	0.4人/月	0.4人/月	(イ/ア)

③所管課分析評価
■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	-	施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設・設備の更新・修繕履歴と竣工図等の保管・利用状況 を調査しました。また、新マスタープラン整備工事竣工図等の電子化と統 一的利用化に向け、データ保管用の現有共用サーバ容量の調査、増設 もしくは専用等の必要性とその可否について調査しました。			中長期的な更新需要の見直し 中長期的な水道施設整備の課題を整理するとともに、更新需要の見直し や施設の健全度評価等に継続的に取り組んでいくため、アセットマネジ メントワーキンググループにおいて、施設評価方法の検証に着手しまし た。 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 施設修繕履歴等の整備・活用には、組織的な活動による調査・検討が必 要なことから、組織横断的なアセットマネジメントワーキンググループを 立ち上げ、施設情報や修繕履歴等の統一的管理に向けて、必要となる 情報やその管理方法についての検討を開始しました。			中長期的な更新需要の見直し 更新需要の見直しと財政収支見通しの検討を継続的に行うため、アセット マネジメントワーキンググループで健全度評価手法の検討を進めてい ます。 また、効率的・効果的な施設更新を進めるため、前期での課題を踏ま え、中期以降の整備内容及びスケジュールの見直しを実施しました。 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 今後の資産管理において必要となる情報やその管理方法について、ア セットマネジメントワーキンググループで検討を進めています。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備	1点		中長期的な更新需要の見直し	1点		中長期的な更新需要の見直し	1点	施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備	1点	
					施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備	1点		施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備	1点			
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
中長期的な更新需要の見直し	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	実施	—	—	—	一部実施	一部実施	2点	—	—	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	—	—	—	2点	—	—	3点
施設情報の電子化 施設修繕履歴の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	—	実施	実施	3点	実施	実施	3点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度	28年度	29年度
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	現況の調査にあたり必要とする人数通りで調査・検討の実施できました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。	今年度の取り組みにあたり、調査・検討を一部実施しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。	今年度の取り組みにあたり、予定通り検討を実施しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。
評価結果	予算効率 3点 作業効率 3点 外的要因加点 0点	予算効率 3点 作業効率 3点 外的要因加点 0点	予算効率 3点 作業効率 3点 外的要因加点 0点
評価の観点・結果	総合評価 C 6点/10点	総合評価 C 6点/10点	総合評価 C 6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	浄水場単位の施設・設備の更新・修繕履歴と竣工図等の保管・利用状況を調査した結果、浄水場毎に修繕履歴等の台帳が異なっていること、竣工図面等について一部紙ベースで保管・管理されている実態が把握でき、今後のアセットマネジメント(資産管理)の継続的改善に向けて統一の必要性を確認できました。また、共有サーバの容量を調査した結果、増設や専用サーバを設けることなく現状利用が適切との検討結果を得ることができ、電子データ保管の方向性を得ることができました。	アセットマネジメントによる適正な資産管理を図っていくため、計画部門・管路部門・浄水部門の担当で構成するアセットマネジメントワーキンググループを立ち上げ、アセットマネジメントの継続的改善(PDCA)を見据えた施設情報整備に関する取り組みの道筋を付けることができました。	更新計画の見直しに関し、より効率的・効果的な施設更新を進めるため、前期での課題を踏まえ、中期以降の整備内容及びスケジュールの見直しを実施しました。アセットマネジメントの継続的改善(PDCA)を見据えて、アセットマネジメントワーキンググループにおいて、健全度評価、情報管理の検討を進めています。
評価結果	達成度 3点 進捗度 3点 外的要因加点 0点	達成度 3点 進捗度 3点 外的要因加点 0点	達成度 3点 進捗度 3点 外的要因加点 0点
評価の観点・結果	総合評価 C 6点/10点	総合評価 C 6点/10点	総合評価 C 6点/10点

④2次評価結果

	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評
【方向性】	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-2	定員・給与の適正化	所管課	総務課
----	---	---------	--------	-----	-----------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	独立採算で運営する水道事業は、最小のコストで最大の効果を得るよう努める必要があります。健全な運営のために求められる人的資源の最適化を常に追求しつつ、事業運営の効率化を推進します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。	28年度 定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。	29年度 定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	480時間	480時間	100%	480時間	480時間	100%	480時間	480時間	100%
	人員(d) 作業従事職員数	2人	2人		2人	2人		2人		
	単位あたり の作業量(c/d)	240時間	240時間		240時間	240時間		240時間		
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	定員の適正化 ・再任用職員を含めた定員管理を行いました。 年度末職員数 345名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。	定員の適正化 ・平成28年度より委託する新設調査業務について業務分析を行い、適正な人員を削減しました。 ・平成29年度より委託する料金徴収部門について調整を進めるとともに、今後増える施設更新等に対応する適正定員について検討を行いました。 ・年度末職員数 342名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。	定員の適正化 ・平成29年度より委託する水道料金等収納業務について業務分析を行いました。 ・新設調査業務を委託し適正な人員を削減しました。 ・年度末職員数 337名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。	定員の適正化 ・水道料金等収納業務を委託し適正な人員を削減しました。 ・年度末職員数 318名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	定員の適正化	2点			定員の適正化	2点			定員の適正化	2点		
	給与の適正化		1点		給与の適正化		1点		給与の適正化		1点	
	平均(A)		1.5点		平均(A)		1.5点		平均(A)		1.5点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(B/D)	実績(D)		達成度(B/D)	実績(D)		達成度(B/D)
職員数(人) (年度末職員数≦職員定数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	346人	346人	330人以下	342人	101%	4点	337人	103%	4点	318人	104%	4点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	-	-	-	-	-	4点	-	-	4点	-	-	4点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・職員定数については、今後の業務見通しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、時機を逸することなく適正に行うことができました。 ・給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 (職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)			・職員定数については、今後の業務見通しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、時機を逸することなく適正に行うことができました。 ・給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 (職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)			・職員定数については、今後の業務見通しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、時機を逸することなく適正に行うことができました。 ・給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 (職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・職員定数346人のところ、年度末職員数342人であったため、定数管理は適正に行うことができました。 ・給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。			・職員定数346人のところ、新設調査業務委託の実施に伴い2人減員するなど、年度末職員数は337人となり、定数管理は適正に行うことができました。 ・給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。			・職員定数346人のところ、水道料金等収納業務委託等の実施に伴い18人減員するなど、年度末職員数は318人となり、定数管理は適正に行うことができました。 ・給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。		
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。今後も委託に伴い職員数の減少が見込まれるが、危機管理の面から適正な定数にも留意すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-3	業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	所管課	営業課
----	---	---------	--------	-----	---------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向けた検討を進め、効果が見込める業務について委託化に取り組みます。特に、水道料金等収納業務については、平成29年度からの委託化に向けた準備を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	業務委託の実施に向けた検討や準備 ・基本方針を決定します。 ・準備計画の策定をします。	業務委託の実施に向けた検討や準備 ・業者選定・契約をします。 ・業務引き継ぎ準備をします。	業務委託実施 委託後の評価と改善

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			94,100,000		
	執行額(b)	0			0			94,100,000		
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			100.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働月数)	12ヶ月	12月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%
	人員(d) 作業従事職員数	10人	10人		10人	10人		7人	7人	
	単位あたり の作業量(c/d)	1.2ヶ月/人	1.2月/人	1.2ヶ月/人	1.2月/人	1.7ヶ月/人	1.7ヶ月/人			
	(1人あたりの作業量)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・水道事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的観点から業務委託の委託範囲について、費用対効果及びお客さまサービス向上を考慮し、決定しました。	業務委託の実施に向けた検討や準備 ・基本方針を決定しました。 ・準備計画の策定をします。			業務委託の実施に向けた検討や準備 ・公募型プロポーザル方式により業者を選定し、委託契約を行いました。 ・29年度からの運用に向けて、委託契約業者との業務引き継ぎ準備を行いました。			業務委託の実施及び委託後の評価と改善 ・委託契約業者へ業務委託を実施しました。 ・委託後、業者との定例会議を毎月開催し業務評価・改善を行いました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
			1点			1点				1点		
			1点			1点				1点		
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
水道料金等収納業務 委託の実施 H27:基本方針の決定・準備 H28:準備・業者選定 H29:実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	-	-	-	-	-	3点	-	-	3点	-	-	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	基本方針の決定及び準備計画の策定に加え、課題整理等を行うため、検討委員会及び分科会を設け定期的会議を開催し、目標どおり達成しました。事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			委託化実施計画に沿って、仕様書、実施要領、業務手順書等を醸成策定し、業務移行準備を考慮して早期に公募型プロポーザル方式により業務委託業者を決定しました。事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			計画的に業務移行及び引き継ぎを行ったことで、業務委託実施を目標通り達成できました。予算に対する執行額は予定されていた金額で実施しました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	基本方針を決定し、平成29年度の委託化実施に向けた計画及び準備(料金関係職員の意見を取込んだ仕様書、実施要領、業務手順書等の策定など具体的準備を行いました。平成28年度においては、目標とする更なる委託化の準備と委託業者の決定に向けた諸種整備を行っていきます。			委託化実施に向け、受託業者を決定し契約を行い、余裕をもった業務移行準備及び引き継ぎを行いました。			経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を目的として、収納業務の民間委託を実施することができました。今後は、委託業者を含めた定例会議を継続することで、業務評価を行い、更なる業務改善を実施していきます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-4	遊休資産の有効活用	所管課	経営管理課
----	---	----------	--------	-----	-----------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	施設統廃合計画により廃止となった浄配水場等の遊休資産を有効活用することにより、財政基盤の強化を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[長戸呂浄水場跡地、魚田配水場跡地、西川浄水場跡地](平成26年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。	28年度 ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[長戸呂浄水場跡地、魚田配水場跡地、西川浄水場跡地](平成26年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。 →事業中止	29年度 ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 引き続き、情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[小須戸浄水場跡地、岩室浄水場跡地、月湯配水場跡地、旧新津浄水場跡地](平成28年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	91,692		0		0				
	執行額(b)	0		0		0				
	執行率(%) (b)/(a)	0%		-		-				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	177.6	177.6		177.6	177.6		177.6	177.6	
	時間(h)									
	人員(d)	2人	2人	100%	2人	2人	100%	2人	2人	100%
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量(c/d)	88.8	88.8		88.8	88.8		88.8	88.8		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 ・平成26年度に、当局が所有する廃止浄水場跡地について、太陽光発電の実施を土地利用の条件として有償貸付を行う「民間事業者による太陽光発電事業」を公募型プロポーザル方式で募集を行い、発電事業者を決定、基本協定を締結しました。しかし、固定価格買い取り制度の見直しに伴う事業収支計画の変更により、発電事業者側から事業性が見込めないと申し出があったことから、本事業の中止を判断しました。 ・これまでの取組み内容と課題を整理し、入札参加者確保の可能性の高い遊休資産について、適正な売却価格の算定に着手しました。 ・今後は、遊休資産の有効活用に向けた情報収集や調査・検討を継続して行うとともに、遊休資産の売却も視野に入れて検討を行います。			施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 ・施設有効活用に向けた情報収集・調査・研究に取組みました。その中で、市が推奨する再生可能エネルギー事業において、4箇所[小須戸浄水場跡地、岩室浄水場跡地、月湯配水場跡地、旧新津浄水場跡地]の遊休資産を太陽光発電用地として検討を進めています。 ・西川浄水場跡地の黒松13本の売却を行いました。 ・今後も、遊休資産の有効活用に向けた情報収集や調査・検討を継続して行うとともに、遊休資産の売却も視野に入れて検討を行います。			施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 ・施設有効活用に向けた情報収集・調査・研究に取組みました。その中で、市が推奨する再生可能エネルギー事業において、3箇所[小須戸浄水場跡地、岩室浄水場跡地、月湯配水場跡地]の遊休資産を太陽光発電用地として賃貸借契約を締結しました。 ・今後も、遊休資産の有効活用に向けた情報収集や調査・検討を継続して行うとともに、遊休資産の売却も視野に入れて検討を行います。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続	1点		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続	1点			施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続	1点		
		太陽光発電用地としての有償貸付		0点					太陽光発電用地としての有償貸付	1点		
	平均(A)	0.5点			平均(A)	1点			平均(A)	1点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
有効活用 の実施・協議・調整等 累計施設数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	3施設以上	1施設	1施設	0	0%	1点	0	0%	1点	3施設	300%	5点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	3施設以上	4施設以上	5施設以上	0	0%	1点	0	0%	1点	3施設	60%	1点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業の中止により、当初予定されていた予算の執行が不要となったため、予算の執行率は予定以下となり、計画に対する結果も予定以下となりました。 事業中止の判断は、固定価格買い取り制度の変更によるため、効率性が低下したやむ負えない理由に該当すると判断しました。 			<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、事業の性質上、予算計上・執行額はありませんでした。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。 黒松売却については、一定の評価ができるものと判断しました。 			<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、事業の性質上、予算計上・執行額はありませんでした。進捗度においては、概ね、目標を達成することができましたが、旧新津浄水場跡地においては取り組み自体を再検討したいです。 		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	1点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業の中止となったため、期待する結果は得られませんでした。今後は、売却に向けた需要を確認しながら、新たな遊休資産を有効活用する手法等を検討します。 事業中止の判断は、固定価格買い取り制度の変更によるため、有効性が低下したやむ負えない理由に該当すると判断しました。 			<ul style="list-style-type: none"> 当初予定していた物件について、入札を実施するまでには至りませんでした。市が推奨する再生可能エネルギー事業において、数カ所の遊休資産を太陽光発電用地として検討を進めています。引き続き、遊休資産活用に向けた調査・検討を行っていきます。 			<ul style="list-style-type: none"> 市が推奨する再生可能エネルギー事業において、3カ所の遊休資産を太陽光発電用地として、賃貸借契約を締結しました。引き続き、遊休資産活用に向けた調査・検討を行っていきます。 		
評価結果	達成度	1点	総合評価	達成度	1点	総合評価	達成度	5点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	1点	D	進捗度	1点	E	進捗度	1点	C
	外的要因加点	1点	3点/10点	外的要因加点	0点	2点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	改善・見直し 経営審議会総評	改善・見直し 経営審議会総評	経営審議会総評
		<p>太陽光発電事業者への有償貸付は未実施であったが、遊休資産の有効活用は、経営基盤の強化を図るために有効な事業である。</p> <p>また、遊休資産保有によりコストが発生している場合、早めの売却判断も必要であることから、売却も含め新たな有効活用について、幅広い知見、情報収集、調査・研究を進め、財政基盤の強化に努めること。</p>	<p>遊休資産の有効活用は、経営基盤の強化を図るために有効な事業である。今まで以上に売却も含めた施設の有効活用実施に向けた検討を進め、新たな収入源確保に努めること。</p>

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-5	時代に即した料金制度等の検討・実施	所管課	経営管理課
----	---	----------	--------	-----	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水需要や財政収支の状況を踏まえ、将来にわたり安全な水の安定供給の持続が可能となるよう、維持管理・更新の時代に即した料金制度の検討を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。	28年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。	29年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらいかけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)はどれくらいかけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	22.2時間	22.2時間	100%	22.2時間	37.0時間	167%	22.2時間	22.2時間	100%
	人員(d) 作業従事職員数	2人	2人		2人	2人		2人		
	単位あたりの作業量(c/d) (1人あたりの作業時間)	11.1時間	11.1時間	(イ/ア)	11.1時間	18.5時間	(イ/ア)	11.1時間	11.1時間	(イ/ア)
	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	他政令市と県内市町村の料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)を行いました。	料金水準等の調査研究のための基礎資料とするため、他政令市と県内市町村の料金体系、料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)等を行いました。			料金水準等の調査研究のための基礎資料とするため、他政令市と県内市町村の料金体系、料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)等を行いました。また、新潟市の料金制度について現状と課題の整理を行いました。			料金水準等の調査研究のための基礎資料とするため、他政令市と県内市町村の料金体系、料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)等を行いました。当初予定しておりました見直し案は、財政収支予定から考えて見送りました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		料金体系の調査研究、見直し案の検討	1点		料金体系の調査研究、見直し案の検討	1点		料金体系の調査研究、見直し案の検討	1点			
		料金改定の必要性、時期、水準の検討	1点		料金改定の必要性、時期、水準の検討	1点		料金改定の必要性、時期、水準の検討	1点			
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
「水道料金算定要領」 に基づく 料金シミュレーション	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	調査研究	調査研究	調査研究 見直し案作成	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証を行いました。また、予算効率は、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証及び、新潟市の料金制度について現状と課題の整理を行いました。また、予算効率は、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたが、料金制度の現状と課題の整理が必要であったため作業効率は下がりました。			他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証を行いました。また、予算効率は、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。また、重要な事業・取り組みであることから、持続可能な経営を構築することを目的に社会経済情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。			時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。また、重要な事業・取り組みであることから、持続可能な経営を構築することを目的に社会経済情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。			時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。また、重要な事業・取り組みであることから、持続可能な経営を構築することを目的に社会経済情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評	維持 経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-6	水道事業経営審議会の効果的運用	所管課	経営管理課
----	---	----------	--------	-----	-----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道事業経営審議会继续し、有識者や水道利用者などの第三者の意見や助言を事業運営に効果的に反映させます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。	28年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。	29年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	737,337			360,320			474,532		
	執行額(b)	539,460			342,531			436,271		
	執行率(%) (b)/(a)	73%			95%			91.9%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	99.9時間	99.9時間	100%	99.9時間	99.9時間	100%	99.9時間	99.9時間	100%
	人員(d) 作業従事職員数	3人	3人		3人	3人		3人		
	単位あたり の作業量(c/d)	33.3時間	33.3時間	(イ/ア)	33.3時間	33.3時間	(イ/ア)	33.3時間	33.3時間	(イ/ア)
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)		(ア)	(イ)		(ア)	(イ)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	審議会を11月と3月の2回開催しました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。	水道事業経営審議会(2回/年)を開催し、意見、提言、助言をいただきました。また、新しい取組みとして平成27年度の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。また平成27年10月に公募委員2名の改選があり、新たに2名就任いただきました。			水道事業経営審議会(2回/年)を開催し、意見、提言、助言をいただきました。また、新しい取組みとして平成27年度の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。また平成28年9月及び平成29年度3月に委員の退任・新任があり、新たに2名就任いただきました。			水道事業経営審議会(3回/年)を開催し、意見、提言、助言をいただきました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。また平成29年10月に委員の改選(公募委員を含む)があり新任7名、再任3名就任いただきました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		水道事業経営審議会の継続運営	1点		水道事業経営審議会の継続運営	1点		水道事業経営審議会の継続運営	1点			
	平均(A)	1点			平均(A)	1点			平均(A)	1点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
新・マスタープラン 事業実施状況に対する 意見・提言の聴取と反映	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)		0点	実績(D)		達成度(D/B)	0点		実績(D)	達成度(D/B)	0点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点		実施	実施	3点		実施	実施	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)	進捗度(E/C)			実績累計(E)		進捗度(E/C)		

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水道事業経営審議会を2回開催し、委員の改選も予定どおり実施できました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。			水道事業経営審議会を2回開催し、委員の新任依頼、欠員補充も滞りなく実施しました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。			水道事業経営審議会を3回開催し、公募委員を含む委員の改選も予定どおり実施できました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	今年度は、水道事業経営審議会を2回開催し予算・決算及び旧マスタープランへの意見・提言をいただきました。また、新・マスタープランの評価方法について、意見・提言をいただき評価表及び評価方法などへ反映しました。引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。			今年度は、水道事業経営審議会を2回開催し予算・決算及び、平成28年度「水道に関するアンケート調査」結果への意見・提言をいただきました。また、新しい取組みとして、平成27年度の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。			今年度は、水道事業経営審議会を3回開催し予算・決算及び、平成28年度分の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。また、新・マスタープラン中期実施計画(平成30年度～平成32年度)の概要説明を実施しました。引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-1	戦略的な広報の実施	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	-----------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	新潟市水道局広報戦略]~広報活動の考え方~に基づき、継続的に広報計画を策定し、効果的な広報活動を展開します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	独自イベント ・施設見学など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出前講座など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備	独自イベント ・施設見学など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出前講座など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備	独自イベント ・施設見学、各種体験など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出張授業など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	39,113,701		39,343,250		39,517,000				
	執行額(b)	39,073,959		37,898,475		39,296,555				
	執行率(%) (b) / (a)	100%		96%		99.4%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	1920時間	1920時間		1920時間	1920時間		2880時間	2880時間	
	期間(d) (実働月数)	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1月あたりの作業時間)	160時間	160時間	(イ/ア)	160時間	160時間	(イ/ア)	240時間	240時間	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度						
	・広報紙(水先案内)の紙面構成をこれまで以上に『読み手』を意識した内容に改めるとともに、配布方法を変更することにより、認知度を高めることができました。また、配布のための経費削減も図れました。	・水道週間行事を見直したり、他団体のイベントに積極的に参加し、水道水の魅力をアピールしました。また、お客さまアンケートで出された質問に対し、優先順位を付け広報紙で回答をすることで、お客さまの知りたい情報も提供しました。 施設見学者やイベントへの参加者が増加していることから、水道局の魅力を発信できていると考えられます。			・水道週間行事を見直したり、他団体のイベントに積極的に参加し、水道水の魅力をアピールしました。さらに、出張授業の回数を増やすなど幅広い層へ水道局の魅力を発信できていると考えています。また、広報紙(水先案内)へ有料広告を掲載し、水道料金以外の収入も確保できました。			・水道週間行事の見直し等を継続的に行い、他団体のイベントにも参加するなど水道水の魅力紹介を行った。また、出張事業の回数を増やすなど幅広い年齢層への情報発信も行いました。なお、広報紙(水先案内)への有料広告掲載を継続し、水道料金以外の収入の確保も行いました。						
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	
		独自イベント		1点		独自イベント		1点		独自イベント		1点		
		防災パネルの展示、出前講座		1点		防災パネルの展示、出前講座		1点		防災パネルの展示、出前講座		1点		
		ホームページ		1点		ホームページ		1点		ホームページ		1点		
		広報紙、検針票裏面広告		1点		広報紙、検針票裏面広告		1点		広報紙、検針票裏面広告		1点		
小学生向けパンフレット		1点		小学生向けパンフレット		1点		小学生向けパンフレット		1点				
平均(A)		1.0点			平均(A)		1.0点			平均(A)		1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度(%)	目標(B)	64%	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	72%	113%	5点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
「新潟市水道局広報戦略」に基づく効果的な広報の実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算や体制については、計画的に実施され、目的は達成できました。			予算や体制については、計画的に実施され、目的は達成できました。			予算や体制については、計画的に実施され、目的は概ね達成できました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	施設見学者、イベント参加者が増加し、水道水の魅力をアピールできたと考えられるため、有効でありました。			広報紙の内容を見やすくし、配布方法も検針票と同時配布にするなど、読んでいただくための創意工夫を重ねてきました。ウォーターバーの体験者数が8,000人を超えたことやお客さまアンケートでの広報紙の認知度が前回調査(26年度)よりも向上したことなどから、これまで以上に水道の魅力をアピールできたと評価しています。			イベント参加者数の増加などから、水道水の魅力をアピールできたと評価しています。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	B	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。また、有効性評価欄へ市民からの意見、モニターの意見等判断の根拠を記載すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-2	お客さまの意見・要望の把握	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	本市水道事業における基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を実現するためには、お客さまが水道事業に求めるものを的確に把握して施策に反映させるなど、お客さまの視点に立った事業運営に努める必要があります。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度		28年度		29年度	
	水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。		お客さまアンケートの実施 ・お客さまアンケートを継続実施することにより、お客さまの水道事業に対する意見、要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。		お客さまアンケートの実施 ・事業者向けアンケートを実施することにより、水道事業に対する意見、要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	468,762			1,871,725			1,086,835		
	執行額(b)	288,363			1,381,469			822,867		
	執行率(%) (b)/(a)	62%			74%			76%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		180時間	180時間	
	期間(d) (実働月数)	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1月あたりの作業時間)	10時間	10時間	(イ/ア)	10時間	10時間	(イ/ア)	15時間	15時間	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・アンケート回収率の向上を図るため、締切の1週間前に回答への御礼と再度の案内を兼ねたハガキを発送しました。 ・水道モニターについては、天候により変更を余儀なくされたプログラムもありましたが、概ね計画通り実施することができました。	公募による22名の水道モニターで研修会や施設見学など計5回開催しました。予定していたメニューはすべて消化でき、内容もグループ討議手法も取り入れるなどの工夫をしながら実施しました。			公募により24名の水道モニターでスタートしましたが、途中で辞退された方もおり最終的に23名となりました。研修会や施設見学など計4回開催しました。予定していたメニューはすべて消化でき、内容もグループ討議手法も取り入れるなどの工夫をしながら実施しました。 ・お客さまアンケートについては、2,966件送付(3,000件送付、未着が34件)し、1,503件回収することができました。(回収率50.7%)アンケート結果については、経営審議会で報告審査していただき、事業運営の参考とすることができました。			・公募による23名の水道モニター(終了時18名)による研修会や施設見学など計4回開催しました。予定したメニューは消化し、内容としては、活発な意見交換が期待できるグループ討議を行うなどしました。 ・事業者向けアンケートについては、955件送付(1,000件送付、未着が45件)し、455件(回収率46.6%)を回答を得ました。アンケート結果については、事業運営の参考としています。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水道モニター制度運用		1点		水道モニター制度運用 お客さまアンケートの実施		1点		水道モニター制度運用 お客さま(事業者向け)アンケートの実施		1点	
	平均(A)	1.0点			1.0点			1.0点				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケートの 実施(件) H28:一般家庭対象 H29:事務所対象	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	実施	実施	—	—	—	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
水道モニター活動回数 (回) (モニター会議、施設見 学会等開催数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	5回	5回	5回	5回	100%	3点	4回	80%	2点	4回	80%	2点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算より少ない執行額で予定のメニューをこなせたことで、効率的に実施できました。			予算より少ない執行額でメニューをこなせたことで、効率的に実施できました。 ・お客さまアンケートについては、郵便未着があったもののほぼ予定通りの件数にアンケートを届けることができました。 ・水道モニターについては、従来下水道事業の説明を取りやめたことで4回の開催となりました。			予算より少ない執行額で予定のメニューをこなせたことで、効率的に実施できました。		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	予定通りにプログラムを遂行できたことで、水道事業について理解を得ることができました。			予定通りにプログラムを遂行できたことで、水道事業について水道モニターから理解を得ることができました。			予定通りにプログラムを遂行できたことで、水道事業について水道モニターから理解を得ることができました。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-3	分かりやすい経営情報の開示	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	これからの水道事業に要する費用負担のあり方や経営の効率化に対する取組みなどについて、分かりやすくお客さまにお知らせし、水道事業経営の透明性の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供	28年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供	29年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	128.8時間	128.8時間		128.8時間	114.0時間		114.0時間	114.0時間	
	人員(d) 作業従事職員数	6人	6人	100%	6人	6人	88%	5人	5人	100%
	単位あたり の作業量(c/d)	21.5時間	21.5時間		21.5時間	19.0時間		22.8時間	22.8時間	
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	平成25年度分の事務事業評価を実施し、評価結果をホームページに掲載しました。 業務指標を局ホームページに公表したほか、供給単価と給水原価の政令市比較を行いました。また、決算概要などを分かりやすく広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業中長期経営計画の施策目標ごとに関連付けた業務指標の成果について、局ホームページに公表のほか、行革プラン2013の取組結果を市ホームページに掲載しました。	「水道料金について」、「他都市料金比較」及び「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成26年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成26年度水道事業会計決算の経営比較分析表を新たに、ホームページで公表しました。			「他都市料金比較」、「料金収入」及び「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成27年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成27年度水道事業会計決算の経営比較分析表を、ホームページで公表しました。			「他都市料金比較」、「料金収入」及び「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成28年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成28年度水道事業会計決算の経営比較分析表を、ホームページで公表しました。					
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供		1点		料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供		1点		料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供		1点	
		経営効率化に関する取り組み情報の提供		1点		経営効率化に関する取り組み情報の提供		1点		経営効率化に関する取り組み情報の提供		1点	
		平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)		100%	3点	1回/年以上(2回)		100%	3点	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		0点
経営効率化に関する取り組み情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)		100%	3点	1回/年以上(2回)		100%	3点	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)		進捗度(E/C)		実績累計(E)		進捗度(E/C)		

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	料金設定の仕組みおよびコスト情報、経営効率化に関する取り組み情報の提供を予定どおり行いました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			料金設定の仕組みおよびコスト情報、経営効率化に関する取り組み情報の提供を予定どおり行い、水先案内作成に係る人員が1名削減となったことから、作業効率が向上しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			料金設定の仕組みおよびコスト情報、経営効率化に関する取り組み情報の提供を予定どおり行いました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供、経営効率化に関する取り組み情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」、ホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容となるよう努めていきます。			料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供、経営効率化に関する取り組み情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」、ホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容となるよう努めていきます。			料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供、経営効率化に関する取り組み情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」、ホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容となるよう努めていきます。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-4	放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	-------------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	放射性物質を含む浄水汚泥について、厳重な保管・管理を徹底するとともに、水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度の検査結果、浄水場等における放射線量などについて、お客さまに対し情報提供を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	449,949,308			404,181,000			333,700,000		
	執行額(b)	285,179,223			232,388,941			308,595,058		
	執行率(%) (b) / (a)	63%			57%			92.5%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	753	753	100%	753	558	80%	558	627.5	92%
	時間(h)									
	人員(d)	55人	55人		55人	51人		51人	62人	
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量(c/d)	13.7	13.7		13.7	10.9		10.9	10.1		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	-	・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。			・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。 ・今年度は、8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の処理について、県外搬出処分も視野に入れた検討を行いました。			・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・継続保管している8,000Bq/kg以下の浄水汚泥の一部について、有効利用を行いました。 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		保管管理、検査、有効利用、情報提供	1点			保管管理、検査、有効利用、情報提供	1点			保管管理、検査、有効利用、情報提供	1点	
	平均(A)		1.0点		平均(A)	1点		平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 予算の執行率は、放射能検査業務の予定検体数、予定検査数が減少したことに加え、汚泥処分量が減少したことにより、予定以下となりました。 事業取組は、予定通り行われました。 			<ul style="list-style-type: none"> 放射能検査業務の予定検体数、予定検査数が減少したことに加え、汚泥処分量が減少したことにより、予算効率・作業効率は予定枠内となり目標を達成しています。 事業取組は、予定通り行われました。 			<ul style="list-style-type: none"> 放射能検査業務の予定検体数、予定検査数が減少したことに加え、汚泥処分量が減少したことにより、予算効率・作業効率は予定枠内となり目標を達成しています。 事業取組は、予定通り行われました。 		
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	4点	B	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥保管施設における放射線量測定結果及び放射性物質濃度の分析調査結果については、適切に情報開示を行いました。 			<ul style="list-style-type: none"> 汚泥保管施設における放射線量測定結果及び放射性物質濃度の分析調査結果については、適切に情報開示を行いました。 			<ul style="list-style-type: none"> 汚泥保管施設における放射線量測定結果及び放射性物質濃度の分析調査結果については、適切に情報開示を行いました。 		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	放射性物質を含む浄水汚泥の情報は、市民の関心も高いと思われる。引き続き、適正な管理と情報提供を実施すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-1	人材育成と専門性の強化	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	-------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	水道事業は専門性が高いために継承すべき技術が多く、施設整備計画の策定、設計施工管理、危機管理および現場対応力など、これらはいずれも高度な知識と経験が求められます。事業の持続のためには、専門知識と実務経験を併せ持つ職員の確保と育成が重要となります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。	技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。	技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。
	各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実に図ります。	各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実に図ります。	各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実に図ります。
	水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。	水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。	水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	3,660,160			3,403,800			3,442,800		
	執行額(b)	3,358,015			3,041,411			2,167,962		
	執行率(%) (b) / (a)	92%			89%			63.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	1900時間	1900時間		1900時間	1900時間		1900時間	1900時間	
	人員(d)	1人	1人	100%	1人	1人	100%	1人	1人	100%
	作業従事職員数									
	単位あたりの 作業量(c/d)	1900時間	1900時間		1900時間	1900時間		1900時間	1900時間	
(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。	・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。 ・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。			・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。 ・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。			・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。 ・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。				
	・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。	・水道研修センターの運用に関しては、会議での利用等、研修以外の目的でも促進を図ったことで効率的な運用が図れました。			・職員研修基本計画の見直しを行い、実態にあった計画としました。			・職員研修基本計画に乗取った研修を行いました。				
	・「技術研修計画」に基づく研修を確実に実施するとともに、研修計画を見直し、研修の充実に努めました。				・水道研修センターについては、計画的に実施する局内部研修・講師招聘研修の会場として活用したほか、積極的な実施を推奨している職場内Off-JTの会場として活用したことにより、効果的な運用をすることができました。			・水道研修センターについては、計画的に実施する局内部研修・講師招聘研修の会場として活用したほか、積極的な実施を推奨している職場内Off-JTの会場としても活用しました。				
	・職員研修はもとより、「配水管工技能講習会」や「給水装置工事主任技術者試験受験準備講習会」等、外部の技術者育成の場として活用しました。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		
	技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転	1点		技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転	1点		技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転	1点				
	各種研修の実施	1点		各種研修の実施	1点		各種研修の実施	1点				
	水道研修センターの運用	1点		水道研修センターの運用	1点		水道研修センターの運用	1点				
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)			
年間内部研修実施時間(時間) (延べ年間研修時間/年度末職員数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
	14.6時間	15.2時間	15.8時間	16.1時間	110%	4点	15.6時間	103%	4点	16.0時間	101%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	—	—	—	—	—	4点	—	—	4点	—	—	4点	—	—	4点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)				
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)				
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)				
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)				

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算より少ない執行額で予定の研修を実施できたことから、効率的に実施できました。			予算より少ない執行額で予定の研修を実施できたことから、効率的に実施できました。			予算より少ない執行額で予定の研修を実施できたことから、効率的に実施できました。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・民間経験者も含め、新規採用職員の独自採用を継続実施することにより、組織の年齢構成上、今後の技術継承に資する人員体制を確保することができました。 ・利用促進を図ったことで水道研修センターの稼働率も上がり有効でありました。(施設稼働率89.6%, うち研修での稼働率43.2%)			・研修基本計画を見直し、職場内Off-JTを積極的に行うよう各所属へことあるごとに呼びかけた結果、目標を上回る研修時間を確保できました。			・職場内Off-JTを積極的に推奨し、目標値を上回る研修時間を確保できました。		
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、技術継承にあたっては、再任用職員の活用も有効である。	水道技術の継承が問題化する中、技術職の独自採用や民間企業経験者の採用と人材確保への努力は有効である。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-2	諸外国との水道技術研究交流	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	我が国の水道事業は高度な技術のもと管理・運営されており、世界のトップランナーとして国際的にも高い評価を得ていることから、その技術・経験を国際貢献・国際協力に生かすことが期待されています。本市においても、水道技術の国際交流を通じて、国際的な視野と見識を持った人材の育成を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 日米台水道地震対策ワークショップへの参加 水道技術国際シンポジウム等への参加 自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 (水道技術国際シンポジウム:3年に1回開催、次回は30年度) (日米台水道地震対策ワークショップ:2年に1回開催、次回は29年度)	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 日米台水道地震対策ワークショップへの参加 自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 (水道技術国際シンポジウム:3年に1回開催、次回は30年度)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	373,390			45,921			263,782		
	執行額(b)	633,150			46,780			242,596		
	執行率(%) (b) / (a)	170%			102%			92.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	9時間	9時間	100%	3時間	3時間	100%	6時間	9時間	150%
	人員(d) 作業従事職員数	1人	1人		1人	1人		1人	1人	
	単位あたり の作業量(c/d)	9時間	9時間	(イ/ア)	3時間	3時間	(イ/ア)	6時間	9時間	(イ/ア)
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例等の情報収集を行いました。 東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第6回会議に2名参加(H27.1) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例等の情報収集を行いました。 仙台市で開催された日米台水道地震対策ワークショップに2名参加(H27.10) 神戸市で開催された水道技術国際シンポジウム等に3名参加(H27.7) 東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第7回会議に2名参加(H28.1) 			<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例や課題、方向性等の情報収集を行いました。 東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第8回会議に2名参加(H29.1) 			<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例や課題、方向性等の情報収集を行いました。 台南市で開催された日米台水道地震対策ワークショップに1名参加(H29.10) 東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第9回会議に1名参加(H30.1) オーストラリアで開催された日本水道協会国際研修に1名参加(H30.2~3) 				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	日米台水道地震対策ワークショップ参加		1点		自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		1点		日米台水道地震対策ワークショップ参加		1点	
	水道技術国際シンポジウム等への参加		1点						自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		1点	
	自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		1点						日本水道協会国際研修への参加		3点	
平均(A)		1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
国際研修等への 参加人数 (人)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	2人	2人	2人	7人	350%	5点	2人	100%	3点	3人	150%	5点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	2人	4人	6人	7人	350%	5点	9人	225%	5点	12人	200%	5点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・国際会議への参加を通じて、先進都市の諸外国への貢献事例等の最新情報を収集することができました。			・先進都市との情報交換の機会を得て、諸外国への貢献事例等の最新情報を収集することができました。			・国際会議への参加に加え、諸外国への派遣を行うことにより、国際的な視野を広げるとともに、当局の状況を省みる機会とすることが出来ました。 ・日水協研修(費用負担は日水協)の活用により、当局の負担を軽減することが出来ました。		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	海外へ事業展開する際の課題や方向性等について、派遣者は当然のこと、派遣者を通じて当該情報の共有化を図ることにより、国際的視野を持った人材の育成につなげていくことができました。			会議での報告内容や、参加者間での意見交換を通じて、先進都市における実例や課題や方向性等について、派遣者を通じて当該情報の共有化を図ることができたほか、諸外国への職員派遣により、国際的視野及び知識を持った人材の育成につなげていくことができました。			会議での報告内容や、参加者間での意見交換を通じて、先進都市における実例や課題や方向性等について、派遣者を通じて当該情報の共有化を図ることができたほか、諸外国への職員派遣により、国際的視野及び知識を持った人材の育成につなげていくことができました。		
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	5点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	5点	B	進捗度	5点	A
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	10点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持	維持	維持
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	大切な水環境は世界的な問題であることも認識し、情報収集に努めるとともに、新潟市水道局としての技術を生かすことを含め、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-1	建設副産物の再利用促進	所管課	技術管理室
-----	------	-------------	--------	--------	-------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	建設副産物の再利用により、CO2排出量の削減や省エネルギー化を図り、環境保全への社会的責任を果たします。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。再生土を利用した工事の発注を継続して実施する。	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋げる。	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進めます。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋がります。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間	10時間	
	期間(d) (作業従事職員数)	2人	2人	100%	2人	2人	100%	2人	2人	100%
	単位あたり の作業量(c/d) (1人あたりの年間の作業時間)	5時間	5時間	(イ/ア)	5時間	5時間	(イ/ア)	5時間	5時間	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を行いました。再生土を利用した工事の発注を行いました。(再生率19.6%)	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土は改良し、再利用を行いました。その結果、昨年度より若干再生率は低下しましたが、予想どおり推移しました。(再生率16.9%)			改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土は改良し、再利用を行いました。その結果、昨年度より若干再生率は上昇し、予想どおり推移しました。(再生率17.4%) 今後も、この数値で推移していくものと思われます。			改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土は再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用しました。その結果、昨年度より若干再生率は上昇し、予想どおり推移しました。(再生率18.5%) 今後も、この数値で推移していくものと思われます。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	改良土の利用促進		1点		改良土の利用促進		1点		改良土の利用促進	2点		
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)		2.0点	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
建設副産物の リサイクル率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	39.2%	37.7%	37.9%	37.70%	96%	3点	37.90%	101%	4点	37.50%	99%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	4点	—	—	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	設計積算の改定において、条件によっては改良土使用単価が山砂使用単価より安価のケースが発生するため、今後も再生土使用を進めます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			工事箇所の条件によっては、改良土使用単価が山砂使用単価より安価のケースが発生するため、今後も再生土使用を進めます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			建設副産物全体のリサイクル率を向上させるため、今後も改良土の利用を促進していきます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	昨年度と同じく幹線・支管更新工事エリアが、地質条件不良と地下埋設物が輻射している市内中心部にシフトしてきた事により、再生土利用する工事の発注件数が減少しています。また、再生プラントへの再生土搬入ができない夜間工事が増加傾向にあるため、再生土利用が難しい状況です。			近年、幹線・支管更新工事エリアが市内中心部にシフトしてきた事により、渋滞等の発生を抑制するため、道路管理者及び警察の指示により夜間工事が増加しています。そのため、再生プラントへの再生土搬入が出来ず、再生土を利用する工事の発注件数が減少して、再生土利用が難しい状況です。			改良土を使用する幹線更新工事が、市内中心部に集中してきた事により、渋滞等の発生を抑制するため、夜間工事が増加しています。そのため、再生プラントへの発生土搬入が出来ず、改良土を利用する工事が減少して、改良土の利用促進が進まない状況ですが、アスファルト廃材とコンクリート廃材については今後も100%の再利用を行います。		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	B	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		維持	
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-2	水道局環境計画の策定と推進	所管課	経営管理課
----	------	-------------	--------	--------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道局として環境負荷の少ない水作りを推進するため、「水道局環境計画」を策定するとともに、環境負荷低減に向けた取り組みを推進していきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 ・水道局環境計画の策定・運用 計画の策定 ・環境会計の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え	28年度 ・水道局環境計画の運用 計画の運用 ・環境会計の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え	29年度 ・水道局環境計画の運用 計画の運用 ・環境報告書の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0			0		
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			-		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	118.4	118.4	100%	29.6	29.6	100%	74	74	100%
	時間(h)									
	人員(d)	2人	2人		4人	4人		2人	2人	
	作業従事職員数									
単位あたりの 作業量(c/d)	59.2	59.2		7.4	7.4		37	37		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	環境会計について、平成27年度は、26年度決算版を作成し、ホームページ等で公表した。	・省エネルギー対策の推進として、新潟市水道局環境計画の策定を行うとともに、満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業に着手しました。 ・環境会計を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。			・省エネルギー対策の推進として、新潟市水道局環境計画に基づき、戸頭浄水場へのLED照明の導入を行い、満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業についても完了しました。 ・環境会計を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。			・環境報告書を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。 ・阿賀野川浄水場整備事業でLED照明の導入を行いました。				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・水道局環境計画の策定・運用	1点		・水道局環境計画の運用	1点		・水道局環境計画の運用	1点			
		・環境会計の作成・公表	1点		・環境会計の作成・公表	1点		・環境報告書の作成・公表	1点			
	・省エネルギー対策の推進	1点		・省エネルギー対策の推進	1点		・省エネルギー対策の推進	1点				
	平均(A)	1点			平均(A)	1点			平均(A)	0.7点		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
水道局環境計画の 策定・運用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
環境会計の 作成・公表	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は、予定通りとみなして評価しました。 ・事業取組としては、環境計画の策定や環境会計の作成・公表、省エネルギー対策を予定通り実施しました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は、予定通りとみなして評価しました。 ・事業取組としては、環境計画の運用や環境会計の作成・公表、省エネルギー対策を予定通り実施しました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は、予定通りとみなして評価しました。 ・事業取組としては、環境計画の運用や環境報告書の作成・公表を予定通り実施しました。 		
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を軽減するために、水道局環境計画を策定しました。今後、この計画に基づいて、環境配慮に関する取り組みを実施していきます。 ・環境会計の策定、公表を行い、環境施策と効果について、市民に情報提供を行いました。 また、進捗度は、事業の性質上評価ができませんでした。 			<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に水道局環境計画を策定し、平成28年度より運用を開始しています。 ・環境会計の策定、公表を行い、環境施策と効果について、市民に情報提供を行いました。 また、進捗度は、事業の性質上評価ができませんでした。 			<ul style="list-style-type: none"> ・環境報告書の策定、公表を行い、環境施策と効果について、市民に情報提供を行いました。 また、進捗度は、事業の性質上評価ができませんでした。 		
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		維持	
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	

事業・取り組み	所管課	委員質問	局回答
I-1 水源水質の監視	水質管理課	<p>①上流の河川環境については、過去において大きな変化はありませんでしたか？将来的に上流の河川環境の変化は無さそうですか？油の流出事故については、何らかの啓蒙活動に取り組まれていますか？</p>	<p>①上流の河川環境については、毎年実施している上流調査や当課が事務局を務める信濃川・阿賀野川両水系水質協議会の調査により把握に努めておりますが、過去に大きな水質の変化はありません。また、国が設置する両水系の水質汚濁連絡対策協議会の中で、河川管理者等と情報共有に努めておりますが、将来的に河川環境へ影響を及ぼす事案や水質の変化等は確認されておりません。水質事故の主要因である油流出事故については、上述の協議会の中で啓発用のポスターやちらし等を作成し、各会員に配布・周知をお願いすることで、事故防止に努めております。</p>
I-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	<p>①資料2 p.4「水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません」とあります。仮に特別の予算を計上した場合、他事業体ではどのような用途になるのでしょうか？可能であればご説明ください。</p>	<p>①水安全計画については、安全性の高い水道水を供給し続けるため当局において全浄水場を対象に計画を策定しております。また、他都市の状況については把握しておりませんが、本計画の策定を外部に委託している場合、その委託費を計上している場合があると想定されます。</p>
I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	<p>①3年間の予算執行率の変動が大きいですが、その原因が粉末活性炭の執行によるものと記載されています、予算額に占める粉末活性炭の額はどのくらいを占めているのでしょうか。</p>	<p>①粉末活性炭は、農薬対策、トリハロメタン対策、異臭味対策および油等の河川事故対策として使用しています。 使用量については、予算計上時には過去の実績を基にしていますが、河川の水質変化により変動するため、実使用量では予算執行率の変動が発生してまいります。 3年間の使用実績を比較すると、河川の高濁度による注入、異常臭気物質由来による注入、河川水質変動によるトリハロメタン対策による注入にて合容量の変動があったことと、平成28年度に納入価格の大幅な変動があったことにより、さらなる変動が発生しました。 (別紙：年度別活性炭予算決算比較)</p>
I-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	<p>①資料2 p.9「最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する」とのことですが、Webでの公開はされていますか？ ②有効性の評価Bは進捗度で5点となっていることが要因と思われるが、これは過去2年間の実績によるものと思われる、評価の方法上仕方ないかもしれないが29年度B評価として良いのか ③28年度経営審議会総評で示された「浸透度や理解度についての評価手法等の検討」についてその対応状況はどのようになっているのでしょうか。 ④さわやかトーク宅配便の実施回数が毎年減少しておりますが、なぜでしょうか。 ⑤塩素を花瓶に入れると、花が長持ちすると聞きました。『塩素が入ると、安心する』広報に取り組まれてはいかがでしょうか。</p>	<p>① 水源保全の啓発パンフレットを作成し、見学者や、出前講座（さわやかトーク等）に参加していただいた方に配布しております。 現在、Webでの公開は行っていませんが、今年度のパンフレット全面改訂に合わせ、Web掲載を予定しています。 ②ご指摘のとおり、3年間の実績累計が影響しています。来年度の評価に向けて、有効な評価が出来るよう検討します。 ③（H29 9月回答の通り）本施策については、実施後に行う報告書やアンケート結果から好評を多くいただいているため、その浸透度と理解度についても、期待通りであったと評価しています。 ④さわやかトーク宅配便等の実施回数について、平成28年度および平成27年度は当初想定していない見学や講演の依頼（自治会等）について多く受け付けているため、平成29年度に比べ実施回数が増えています。 ⑤ 塩素とお花の長持ちの因果関係については、当局での検証を行っていないため、明確な根拠は不明ですが、恐らく水中に残留する塩素により雑菌等の繁殖が抑制されることが、花の生育に良いと推測されます。塩素については、衛生上の観点から水道水にとって必要不可欠であります。近年のお客様のニーズとして、おいしい水の観点から塩素の臭いが気になる方が増えてきているため、当局としてはその低減化に努めています。</p>

事業・取り組み	所管課	委員質問	局回答
Ⅱ-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	①資料2 p.11「直結給水化 学校数 178校、直結化学校数 117校」から、未直結化校が 67校です。H29年度の直結化を図った学校数は4校（小学校 3校、中学校 1校）。毎年 4校ほど直結化を図った場合、全学校の直結化が完了するまでにおよそ 17年かかります（平成47年度頃に完了）。これは、計画通りの実施ペースなのでしょうか？	①直結給水化は、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会との連携のもと推進しており、これまでの実績として概ね年4～5校の直結化を図ってきました。なお、実施完了時期については、教育委員会実施事業であり、予算との兼ね合いもあるため、一概に定めることができませんが、現行の進捗ペースを踏襲した場合は、15年～17年後を予定しています。
Ⅱ-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	①講習会参加率が過去最低となっているが、何が原因か。	①例年、講習会については、県内4会場（佐渡・上越・長岡・新潟）で実施しており、特に最終の新潟会場の開催前には、未受講者を対象とした講習会への参加勧奨を実施し、受講者数の増につなげています。しかし、29年度は、寒波対応の影響により、講習会への参加勧奨を行うことができなかったことから、参加率が低下したものと考えています。
Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	①配水支管の漏水事故が発生した場合、緊急対応にかかる期間及び支出的な圧迫はどうかなどを教えてください。改善計画について概要を教えてください。外部要因で事業費が増加した場合、予め補正予算などを設けておくことは可能でしょうか？	①配水支管に漏水事故が発生した場合は、原則的に即日対応をしています。財政面では、過去の実績をもとに毎年度漏水修繕費として事業枠を確保し、その中で対応しています。改善計画としては「配水支管の更新」の中に老朽支管更新事業や配水支管改良事業を設け、管路の更新を行うことにより漏水事故の低減化に取り組んでいます。なお、外部要因により事業枠を超過する場合は、補正予算案を組み、議会承認などの手続きが伴います。
Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	①資料2 p.24「耐震診断の結果によって、耐震補強が不要となり」との記述があります。これは、計画時に分からなかった事でしょうか？ 仮にそうだとすると、耐震診断の結果、予定外の耐震補強が必要になる場合など、予見可能な増加工事は、ありそうですか？	①耐震補強が不要となった施設は、新・マスタープラン以前の計画において廃止を検討しておりましたが、新・マスタープラン策定時に今後も使用することとしたため、改めて耐震診断を実施したものです。そして、この診断を以って、今後も継続的に使用する建造物の耐震診断は全て完了しました。このため、現時点では、追加の耐震補強工事が発生する見込みはありません。
Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	①資料2 p.28「今年度は入札不調などの理由により…」との記載があります。入札不調の原因や来年度以降も続くことなのか、見通しが分かるようであれば教えてください。	①積算システムの一部単価に問題があり不調となりました。この問題については修正が完了しています。
Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	①事故・災害時のコンテンツンシッププランで、ユーザーに対する情報提供体制など、ユーザー目線に立った対応マニュアル等の整備状況について教示ください。 ②応急給水訓練を毎年南区で実施しているがなぜか、他の区での予定はないのか。	①水道局では、地震、濁水（塩水遡上含む）、水質事故、インフルエンザなどの各事象に対応するため、各種マニュアルを整備しているほか、BCP（業務継続計画）を策定しています。断水状況・断水範囲などのユーザーへの情報提供について、十分な内容とはなっていないことから、寒波対応の経験を活かし、ユーザー目線に立った内容を検討しながら、既存の各種マニュアルの見直しを図っています。 ②地域との防災訓練（応急給水訓練）については、水道局から積極的な対応はせず、各区役所からの依頼に基づき水道局職員が応急給水訓練に参加しています。また、今年度は水道局からの働きかけを行い、計5件（東区1件、江南区1件、秋葉区1件、南区1件、※江南区団体1件）の訓練を予定しています。今後は、各区役所担当課と連携しながら、地域連携という観点で応急給水訓練に参加していきます。 過去5ヶ年：H29年度 計1件（南区1件）※別途、水道局主催の住民参加型訓練を実施（さいたま市訓練を併用、@竹尾配水場） ：H28年度 計3件（江南区2件、南区1件） ：H27年度 計3件（江南区2件、南区1件） ：H26年度 計4件（江南区2件、南区2件） ：H25年度 計5件（江南区1件、南区4件）

事業・取り組み	所管課	委員質問	局回答
V-2 定員・給与の適正化	総務課	①業務委託により職員数が減少したが、定数の見直しは考えているのか。	①定数条例は市の所管条例であり、次の改正のタイミングで検討します。
V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課	①水道メーターのIoT化の検討は開始されていますか？IoT化によって、凍結時の給水弁閉塞など行えるようになれば、漏水量が減るような気がします。日本IBMやソフトバンクなどが同分野で研究開発を実施しているようです。	①水道のスマートメーターについては、ご指摘の遠隔制御による漏水量の抑制のほか、使用状況の見える化によるお客さまサービスの向上、管網管理の向上など、多くの効果が期待できるといわれています。ただし、国内では先進事業者がメーカーと共同で実証実験を行っている状況であり、導入事例はまだなく、本市としても情報収集を行っている段階です。
V-4 遊休資産の有効活用	経営管理課	①遊休地が太陽光発電用地として再活用されて、大変良かったです。規約等が分かりませんが、遊休地を更に民間利用に回してもよいのでしょうか？例えばですが、ドッグランや貯水池を他に利用など。	①太陽光発電用地については、遊休施設用地の一部を利用しています。また、遊休施設を他の用途に利用する場合、施設を撤去するには莫大な費用が発生するため、売却などの有効な方法が見いだせず、経営基盤の強化という観点では取組全体として停滞している状況ですが、売却及び売却以外の需要を掘り起こすための手法について、調査・検討を進めることとしています。
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	経営管理課	①資料「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～（平成27年度～平成36年度）」p.3では「4. 需要予測に基づく基本計画」として「計画給水人口」と「計画一日最大配水量（施設能力）」を基準にすえて計画を策定されています。この基準が予定する数値と現在の数値に差はありませんか？ ②新潟市のHPを拝読すると、世帯数は増加しているようです。世帯数増に伴い、水道基本料金も増加するのかなと、考えております。この点も、考慮されているのでしょうか。教えていただきたいと存じます。 ③施設更新や耐震化等目標どおり進まない事業もあるため、料金改定も視野に入れつつ慎重に検討していく必要があるのではないかと。 ④他都市との水道料金の違いを考慮する際、施設の供給量や、配管敷設代など、いろいろな項目も含んでいると思う。例えばだが、新潟の水道水がもっと美味しくなる、フィルターなどのオプションを増やして、収益を見込むのはどうだろうか？	①計画給水人口は平成37年度で76万人としておりますが、平成27年国勢調査結果を基にした最新の予測では、平成37年度で約78.9万人となっています。一方で、計画一日最大配水量の37万m ³ は、安定給水の観点から、余裕を持って設定したものであり、実際の需要が想定以上に減少しているため、余裕が若干大きくなっています。よって、給水に支障が出るような差異は生じておりませんが、人口は想定以上に減少せず、需要は想定以上に減少しているという、当初の見通しと異なる状況を踏まえ、今後の動向をさらに注視していく必要があると考えております。 ②世帯数増加に伴い、水道基本料金も増加します。しかし、現在の予測では後期実施計画期間に入ると年々減少するため、それに合わせて基本料金も減少すると試算しています。 ③後期実施計画期間にあたる平成35年度には、資金不足が試算されており、引き続き、最大限の経営努力が必要であると考えています。水道料金改定については、今年度から着手する、施設再編基本構想を踏まえた将来の投資の見通しや、中期実施計画における収支状況及び資金状況などを見極めたうえで、検討していく必要があると考えています。 ④安全でおいしい水道水を供給するための取り組みとして、重点目標の指標項目の中に、残留塩素管理目標や臭気強度管理目標などを設定しています。現時点では、フィルターなどのオプションを増やして、収益を見込むことは現実的ではないと考えています。
VI-1 戦略的な広報の実施	総務課	①今後、施設見学やイベントを通じて市民に伝える内容に「水道の魅力」に加え「多くのエネルギーとお金、労力を消費して造られた大切な水である事」も伝え、水のエコ利用・再利用法などの発信も、持続可能な社会を目指している今、必要なのではないのでしょうか。	①水のエコ利用等については、HPの「よくある質問」の中で節水について触れるにとどまっています。水道事業者の立場から、エコ利用等を含めた発信については、PR内容をしっかり検討していく必要があると考えています。
VI-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	①有効性評価のコメントが毎年同じだが、水道モニターにはどのような事を行っているのか。事業者向けアンケートでは、水道事業に対し何か要望があったのか。	①水道モニターは年4回の研修会（事業概要説明、浄水場・水質管理センターの施設見学等）を行い、最終回に提言とりまとめのワークショップを実施し、その提言をHPに公開しています。また、要望に類するものとしては、アンケート項目の「水道事業に対する不満な点」として「水道料金の設定」が最も多い結果となりました。

事業・取り組み	所管課	委員質問	局回答
VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	①将来、料金改定を実施するとき、改定の理由が分かる、納得できる内容などが情報開示されていますか？ 具体例などを教えていただきたいと思います。	①現在、ホームページなどで経営や施設の状況を表す経営指標などを開示しています。料金改定が必要となった場合は、ホームページや広報紙などを利用し、将来的な見通しなど情報提供に努めます。
VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	①汚泥の保管後、それらの汚泥はどのように処理されるのか、情報提供されていることかと想像しています（セメント原材料として有効処分）。放射性物質の有無によって保管や保管後の処理方法が異なると思います。これらの点について、新潟市のHPでは分かりづらい（掲載情報が見当たらない）がどうなっているか。	①汚泥に含まれる放射能濃度が、200 ^μ Bq/kg以下のものは、セメント原材料として利用しており、200 ^μ Bq/kg～8,000 ^μ Bq/kgのものは埋め立てによる処分を進めています。8,000 ^μ Bq/kgを超える汚泥は国の責任において処分されるものですが、現在具体的な処分方法や時期については示されておらず引き続き継続保管を行っています。放射性物質に関する検査結果（空間放射線量測定、浄水発生汚泥検査、水道水検査）については、水道局HP「東日本大震災関連情報」にて適宜情報提供を行っています。
VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	①資料2 p.58「国際会議への参加に加え、諸外国への派遣・・・」について、新潟市のHPにおいて参加報告が見当たりませんでした。これらについての広報はされていますか。 ②ワークショップや海外研修に参加しているが、その経験をどのように活かしているのか（報告会の実施等）	①②従来、派遣等にかかる広報は行っていませんでしたが、平成30年度は新潟大学の留学交流事業におけるインターンシップの受け入れやIWA世界会議参加者による局内発表会の開催などを、フェイスブックで発信しています。また、事前の局内発表会、帰庁後の復命報告や局報（社内報）のレポートなどで経験の共有化を図っています。
VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	①夜間工事で、再生土の搬入を小型化できると解決につながりますでしょうか？ 夜間の限られた時間内で、工事を終了するにはやむを得ないのですか。	①再生土プラント工場は夜間稼働していないため、搬入・搬出ができない状況です。

その他質問

	計画整備課	①外的要因（工事費用等の高騰など）、予定外の支出、マスタープランの策定時からのずれなど、水道事業経営にもたらす数々の弊害があるかと思えます。予見可能なこともありますでしょうけど、予見不可能なこともあるでしょう。また、既に計画とずれてしまった点もあるかと存じます。これらを踏まえて、中長期計画への影響がどの程度あるのか、具体的なことを教えてください。	①浄配水施設は、概ね予定通りに計画を進めていますが、管路施設では、工事費の高騰により、漏水時に影響が大きい基幹管路等の更新を優先したことで、当初計画では中期期間（平成30～32年度）で約91kmの更新見込を中期実施計画では約47kmに下方修正しました。このため新潟地震の災害復旧等で埋設した老朽化管路（平成29年度末 約159km）の解消が遅れます。また、老朽化管路の更新に合わせて耐震管への入れ替えを行っていることから管路全体の耐震化が遅れます。なお、現状では、この影響は後期間（平成33～36年度）も解消できない見通しのため、解消に向けた手法を検討しています。
--	-------	--	--

年度別活性炭予算決算比較(27～29年度)

平成27年度

平成30年9月26日

薬品名	履行浄水場		税抜単価	購入量(kg)	金額(税抜)	備考	
活性炭(その1) (340kg) コンテナパック	青山	予算	415.000	90,000	37,350,000		
		決算	(上期)	410.000	95,880	39,147,600	
			(下期)	398.000			
活性炭(その2) (300kg)	満願寺	予算	435.000	4,000	1,740,000		
		決算	(上期)	410.000	14,400	5,784,000	
			(下期)	400.000			
活性炭(その3) (10kg)	阿賀野川・戸頭・巻	予算	425.000	29,000	12,325,000		
		決算	(上期)	400.000	80,000	32,000,000	
			(下期)	400.000			
合計		予算		123,000	51,415,000		
		決算		190,280	76,931,600		
薬品費合計		予算		—	251,924,000		
		決算		—	211,403,117		

平成28年度

薬品名	履行浄水場		税抜単価	購入量(kg)	金額(税抜)	備考	
活性炭(その1) (340kg) コンテナパック	青山	予算	430.000	97,000	41,710,000		
		決算	(上期)	180.000	88,400	15,694,400	
			(下期)	148.000			
活性炭(その2) (300kg)	満願寺	予算	430.000	3,000	1,290,000		
		決算	(上期)	214.000	8,400	1,785,600	
			(下期)	204.000			
活性炭(その3) (10kg)	阿賀野川・戸頭・巻	予算	430.000	20,000	8,600,000		
		決算	(上期)	185.000	53,000	9,399,000	
			(下期)	156.000			
合計		予算		120,000	51,600,000		
		決算		149,800	26,879,000		
薬品費合計		予算		—	214,822,500		
		決算		—	155,403,178		

平成29年度

薬品名	履行浄水場		税抜単価	購入量(kg)	金額(税抜)	備考	
活性炭(その1) (340kg) コンテナパック	青山	予算	210.000	97,000	20,370,000		
		決算	(上期)	114.000	49,300	6,140,400	
			(下期)	148.000			
活性炭(その2) (300kg)	満願寺	予算	260.000	4,000	1,040,000		
		決算	(上期)	154.000	5,400	831,600	
			(下期)	不調			
活性炭(その3) (10kg)	阿賀野川・戸頭・巻	予算	260.000	23,000	5,980,000		
		決算	(上期)	154.000	41,000	6,782,000	
			(下期)	180.000			
合計		予算		610,000	27,390,000		
		決算		775,860	13,754,000		
薬品費合計		予算		—	188,322,000		
		決算		—	157,906,732		

新・マスタープラン平成29年度評価に関する経営審議会評価会長（案）

H29別紙2

事業・取り組み	所管課	委員意見	方向性(案)	経営審議会評価（会長案）
I - 1 水源水質の監視	水質管理課	・理想的な状況だと思えます。どうぞ連携が継続されることを願います。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I - 2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	・更に効果の高い、水安全計画となりますよう、期待しております。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I - 3 水質管理体制の強化	水質管理課	・今後もGLP認定の継続に期待しています。 ・大切な技術者が向学的環境で向上されるのは、とても喜ばしく感じます。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I - 4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	・取水口が下流域にある新潟市として、安全でおいしい水の供給のために今までと変わらぬ取り組みをお願いいたします。 ・全ての項目で目標値を達成されたことは大変有難いです。活性炭の活用についても、調査が進むことを祈ります。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I - 5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	・親子水道教室の開催など、積極的な取り組みを評価いたします。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。ただし、過去に指摘のあった通り、市民の皆様への情報の浸透度や理解度について、水道局自らが点検・評価する手法等を継続して検討すること。
II - 1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	・前年度からの改修が終わり、直結給水化に取り組まれている様子が伝わります。これは保育園や高校などでも、範囲が広がれば幸いです。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
II - 2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	・貯水槽清掃の清掃率が目標より高い率をキープしているのは評価できることと思います、引き続き貯水槽の清掃率の向上に努めて下さい。 ・毎年上下変動がある中で、目標達成を継続されていることは、素晴らしいと思います。 努力が継続されることを、切望します。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
II - 3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	・講習内容に工夫を凝らして取り組まれていて、感激いたしました。優良工事店が増えることに、とても頼もしく感じました。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
III - 1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	・工事資材や工事費等の高騰があると聞いています。そのような状況下でも計画通りに推進できていることに関係者の努力を感じました。今後も計画通りに進めてください。 ・機器の仕様検討に手間取られても、概ね計画通りなのは、管理が素晴らしいからだと思います。 継続されることを望みます。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

事業・取り組み	所管課	委員意見	方向性(案)	経営審議会評価(会長案)
Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行率と実績を比較すると大変厳しい状況はわかるが、管路施設の更新は先送りするとより厳しい状況となる、今後どう対応するか検討が必要。 ・28年度で改善・見直しの方向性が示されている中、よりリスクと経営資源を勘案して、実態に即し実現可能な更新計画が実施されていくことを期待します。 ・既設ルートへの更新が別ルートへ延長せざるを得ない状況、並びに市街地での工事の進捗が難しい中で、目標を見直して対処されている点は、とても感謝いたしております。 	改善 見直し	限られた財源の中、事業の計画通りの進捗が困難であることは理解するが、一方で老朽管の破損が招く被害や経済的損失が大きいことも見逃すことのできない現実である。リスクと経営資源を勘案し、実態に即し実現可能な更新計画のもと、然るべき額の事業費を確保した上で、着実な事業の推進に努めること。
Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	管路課	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度で改善・見直しの方向性が示されている中、よりリスクと経営資源を勘案して、実態に即し実現可能な更新計画が実施されていくことを期待します。 ・他工事との併用が少なくなる中、進捗が進みにくいかと思われますが、漏水を防ぐためにも、たゆまず継続されましたら幸いです。 	維持	リスクと経営資源を勘案し、実態に即し実現可能な更新計画のもと、着実な事業の推進に努めること。
Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・補強不要と、先送りで今年度の実施はなかったそうですが、来年度以降も、耐震強度補強を継続されることを望みます。 	改善 見直し	地震発生時における浄配水施設の機能の維持は、地震に対する「強靱さ」を備えた都市形成のためにも、非常に重要である。そのため、水道需要の将来予測等も考慮の上、管路施設の耐震化と合わせて、効率的かつ着実な事業の推進に努めること。
Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・効率性の総合評価は低いものの、外部要因「積算基準の変更」や「市街地工事による事業費の増加」など、マスタープランに影響のある耐震化工事の予算配分を変更されたことは、評価できることだと思います。 ・28年度で改善・見直しの方向性が示されている中、よりリスクと経営資源を勘案して、実態に即し実現可能な更新計画が実施されていくことを期待します。 ・予算の見直しを改めてくださったことで、漏水対策が見込めたのだと思います。 ・どうしても事業費の増加は否めませんので、より効率性を優先して頂ければ幸いです。 	改善 見直し	限られた財源の中、事業の計画通りの進捗が困難であることは理解するが、管路施設の耐震性の向上は市民生活の機能維持の面から極めて重要であるため、適正な範囲内において、然るべき額の事業費を確保し、着実な事業の推進に努めること。
Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震への備えは重要である、耐震化の優先順位を検討のうえ事業を進めて欲しい。 ・着実に重要施設での耐震化が進んでいることに安心しました。年度内で終わるような段取りが難しいことも、勉強になりました。 	維持	引き続き、震災発生時における被災対応拠点施設の機能向上を図るために、計画に沿って事業を推進すること。
Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	<ul style="list-style-type: none"> ・小ブロック構築と、他の管路整備との効率化が、費用も手間も省かれますので、どうぞそのまま継続されれば幸いです。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	<ul style="list-style-type: none"> ・工事全体として、昨年度より追加で15%終了されたことは、とても喜ばしいです。 	維持	平成30年1月寒波発生時における広域の漏水被害および断水発生の際に、相互連絡管の機能の重要性は改めて認識されたものと考えている。引き続き計画に沿って事業を推進すること。

事業・取り組み	所管課	委員意見	方向性(案)	経営審議会評価(会長案)
IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り、災害対策時の多団体との連携強化は、今後も充実させていければ良いと感じました。また、現状における多団体との連携についても、適宜協議会などを開催し、連携体制の強化や体制の維持確認を実施していただきたいと感じました。 各種災害時マニュアルは訓練を通じ、その有効性の検証を実施し、さらに実態に即したものに改善していくことが重要。 <p>応援協定締結や連携先の拡充を進めるなど積極的な取組を評価できます。有事でそれらの応援機能が発揮できる指揮系統構築など事前シミュレーションを十分に実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年他団体との災害時応援協定に力を入れてくださり、大変心強いです。 <p>また住民との連携に、自治会で訓練を催していることを知り、ぜひ西蒲区で行われる際は、参加したいと思っております。</p>	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、平成29年度は平成30年1月に寒波に伴う広域の漏水被害および断水が発生したこともあり、必要に応じて事故・災害時の復旧体制について継続的な自己点検、および必要に応じた改善を講じるよう努めること。
V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	<ul style="list-style-type: none"> 浄水場ごとの修繕履歴の様式を統一されたり、共有データ化されたおかげだと思えます。より建設的な見直しが行われていると感じます。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-2 定員・給与の適正化	総務課	<ul style="list-style-type: none"> とても専門性の高い職業ですのに、最小のコストでなければならない。ご苦勞を感謝いたします。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。ただし、危機管理の面から適正な定数にも留意すること。
V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者との会議などで、サービスが維持できれば幸いです。次の委託業務は、広報戦略でしょうか。どの範囲まで委託が可能なのか、今後とも期待しております。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-4 遊休資産の有効活用	経営管理課	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市の交流人口増に貢献する方法で、遊休土地の永続的な活用などができれば良いと思っています（残念ながら、具体性のある計画案は持ち合わせておりませんが）。 H・29年度に遊休資産3か所を太陽光発電用地として賃貸契約を締結されましたが、まだ、旧浄水場跡地も（7か所？）あるように伺っております。遊休施設は今後も売却あるいは太陽光発電用地として賃貸契約するなど有効活用に向けた調査・検討を進めてほしい。 	維持	新たな収入源の確保による経営基盤の強化のためにも、遊休資産の有効活用に向けた検討をすすめ、適正な事業推進に努めること。
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	経営管理課		維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	経営管理課	<ul style="list-style-type: none"> 今回の質疑に至るまでに、水道モニターとしてきめ細かくご指導いただき、更に会議や見学を重ね、水道について学ぶにはとても時間が必要だと痛感いたしました。まだ本当に未熟で、良い意見など夢のまた夢ですが、自分なりに見聞を広めたいと考えています。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI-1 戦略的な広報の実施	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 実験を体験できた、①川の水に薬剤で沈静化させたことや、②臭気を嗅ぎ比べたこと、などはとても興味深かったです。出前出張の内容に、追加して頂けたら喜ばれると思っております。 	維持	引き続き、市民の皆様に水道事業の理解を深めていただくためにも、計画に沿って事業を推進すること。

事業・取り組み	所管課	委員意見	方向性(案)	経営審議会評価(会長案)
VI-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 水道モニターによる研修会や施設見学などを予算内での執行したこと、事業者向けアンケートを実施したこと、評価できます。アンケートは、予算をかけずに別の媒体で実施（Webなど）も可能かと思えます。今後、検討していただければと存じます。 水道モニターとして、他のモニターのご意見を伺える機会を頂けて感謝いたしております。配布資料もたくさんご用意くださり、学びやすい環境を整えてくださって、ありがとうございます。水道局とお客様の、ちょうど中間の位置づけで、水道局の経営姿勢や抱える悩みを共有出来て、補佐となれればと感じました。 	維持	引き続き、幅広い意見・要望を効率的かつ的確に把握できるよう、計画に沿って事業を推進すること。
VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	<ul style="list-style-type: none"> 水道モニター参加時に、『水先案内』のわかりやすさ、掲載内容の選別（翌朝、水道を少し流す）がよいと評価していらっしゃる方がいた。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	<ul style="list-style-type: none"> 日本水道協会の新潟県支部として、画策して下さっていることに誇りを感じました。だいぶ前ですがNHKで、汚染した湖に以前のように生物が戻って来ていると、テレビで見ました。被爆はとても怖いですが、大地が再生する命に、水の貴重さを痛感します。 	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VII-1 人材育成と専門性の強化	総務課		維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、優れた人材の確保に努め、職員の能力向上のための継続的な教育を実施すること。
VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課		維持	引き続き、計画に沿って事業を進めること。なお、国内外の各種学術・技術交流活動では、できるだけ多くの職員が対象となるよう配慮すること。
VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室		維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課		維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・新潟市中長期経営計画
～ 新・マスタープラン ～

前期資料1

前期実施計画重点目標の達成状況

新・中長期経営計画 前期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【総括】

【指標項目 前期結果一覧】

		指標値の変動状況（26年度（計画前）との対比）		
		指標値が向上	指標値を維持	指標値が低下
目標達成状況	前期目標を達成	【安全】 ・残留塩素管理目標達成率 ・学校施設水飲み水栓の直結給水化率 ・貯水槽清掃実施率 【強靱】 ・ポンプ所耐震施設率 ・(基幹)管路耐震適合率 【持続】 ・施設最大稼働率 ・内部研修時間	【安全】 ・農薬濃度管理目標達成率 ・総トリハロメタン濃度管理目標達成率 ・臭気強度管理目標達成率 【強靱】 ・浄水施設耐震率 【持続】 ・浄水発生土の有効利用率	【持続】 ・再生可能エネルギー利用率
	前期目標を未達成	【強靱】 ・配水池耐震施設率 ・(全体)老朽化管路率 ・(全体)管路耐震適合率 ・(基幹)管路更新率 ・老朽化(基幹)管路率 ・鉛製給水管率 ・小ブロック構築率 【持続】 ・施設利用率 ・エネルギー原単位		【強靱】 ・老朽化設備率 ・(全体)管路更新率 【持続】 ・有収率

【経営審議会 評価（案）】

総括評価	
【安全】	<div style="border: 2px solid black; padding: 20px; font-size: 24px; font-weight: bold;">前期別紙2</div>
【強靱】	
【持続】	

新・中長期経営計画 前期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（1）（目指す方向性 安全）】

【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	計画前	前期実施計画				前期目標	前期評価		計画最終	政令市平均	状況説明等
	H26	H27	H28	H29	(H29)	対H26	対目標	目標(H36)	(28年度)		
1 農薬濃度管理目標達成率 (比の総和0.1以下の件数/年間検査件数)	100	100	100	100	100	維持	達成	100	—	浄水処理過程における粉末活性炭処理の適切な実施に努めた。	
2 総トリハロメタン濃度管理目標達成率 (総トリハロメタン濃度0.05mg/L以下の件数/年間検査件数)	100	100	100	100	100	維持	達成	100	—	//	
3 残留塩素管理目標達成率 (残留塩素濃度0.5mg/L以下の件数/年間検査件数)	90	93	90	92	91以上	向上	達成	92以上	—	浄水場での原水水温に応じた残留塩素管理と、管網末端における捨水対応により、適切な運用になるよう努めた。	
4 臭気強度管理目標達成率 (臭気強度2以下の件数/基準全項目検査数)	100	96	100	100	100	維持	達成	100	—	浄水場職員を対象とした臭気トレーニング等により、臭気確認体制を強化し、粉末活性炭処理の適切な実施に努めた。	
5 学校施設水飲み水栓の直結給水化率 (直結化した学校数/市立の学校施設数)	61.1	63.7	63.7	65.7	65.0以上	向上	達成	75.0以上	—	教育委員会との協議を通じて、建て替え及び耐震補強に併せて直結給水栓の設置が進んだ。今後、さらに大規模改修計画以外の工事（貯水槽入替等）に併せた設置について協議を行う。	
6 貯水槽清掃実施率 (貯水槽水道清掃実施件数/貯水槽水道総件数)	78.3	77.4	82.3	82.3	76.8以上	向上	達成	78.0以上	—	小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導の強化により、清掃実施率が上昇・安定した。今後、これまでの成果、課題を精査し、今後の指導方法を検討するとともに、民間清掃業者との連携による啓発活動の実施について協議する。	

【委員意見】

- ・水道水の安全に係る「1農薬濃度管理目標達成率」及び「2総トリハロメタン濃度管理目標達成率」は100%の達成率を維持した。引き続き各年度とも100%を維持すべきである。
- ・水道水のおいしさに係る「3残留塩素管理目標達成率」及び「4臭気強度管理目標達成率」は、目標を下回った年度があったが、29年度は目標を達成した。単年度において計画最終目標を維持できるよう努力すべきである。
- ・「5学校施設水飲み水栓の直結給水化率」は向上し、29年度において目標を上回った。さらに計画最終目標の達成に向けて、状況説明欄記載のとおりの方等により最終目標を目指すべきである。
- ・「6貯水槽清掃実施率」は各年度ともに29年度末の目標を上回り、28・29年度は36(2024)年度の計画最終目標値を上回った。最終目標の引き上げ等を検討し、その達成に向けて状況説明欄記載の方等により努力すべきである。
- ・「安全」に係る指標は良好な達成状況にある。投資・経費効率にも留意しつつ目標達成に向けて努力すべきである。
- 「5学校施設水飲み水栓の直結給水化率」は向上し、29年度において目標を上回った。さらに計画最終目標の達成に向けて、状況説明欄記載のとおりの方等により最終目標を目指すべきである。
- ・すべての重点目標項目において目標を達成しており、次期実施計画において最終目標に向けて安全性の向上を目指すように
- ・各重点目標項目について、計画最終目標をほぼクリアしており、限られた経営資源を有効に活用し、この水準を維持するように取組をお願いします。

新・中長期経営計画 前期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（２）（目指す方向性 強靱）】

【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	計画前	前期実施計画			前期目標	前期評価		計画最終	政令市平均	状況説明等
	H26	H27	H28	H29	(H29)	対H26	対目標	目標(H36)	(28年度)	
1 老朽化浄水施設率 (更新周期を超えた浄水施設能力/全浄水施設能力)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	—	(全ての浄水場の構造物に法定耐用年数(60年)を超えるものがない。)
2 老朽化設備率 (更新周期を超えた電気・機械設備数/電気・機械設備の総数)	16.8	17.1	17.6	20.9	20.0以下	低下	未達成	10.0以下	—	阿賀野川浄水場施設整備事業、配水場施設整備事業における一部の工程見直しにより、29年度時点では僅かに目標に達しなかった。
3 浄水施設耐震率 (コンクリート構築物が耐震化されている浄水施設能力/全浄水施設能力(構内水管除く))	19.9	19.9	19.9	19.9	19.9以上	維持	達成	100.0	32.7	浄水場内個別施設の耐震化工事を計画に従って実施しているが、未耐震化施設を有する浄水場の全ての施設で耐震化が完了するまでの間、指標値は変わらない。 なお、浄水場内全ての施設が耐震化されている浄水場は29年度末において信濃川浄水場のみである。
4 ポンプ所耐震施設率 (耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)	92.4	95.9	95.9	95.9	95.9以上	向上	達成	100.0	69.3	耐震診断により戸頭浄水場1系配水ポンプ室が耐震性能を有することを確認したため、結果として目標に達している。 なお、29年度末において未耐震化ポンプ所は青山浄水場の配水ポンプ場となっている。
5 配水池耐震施設率 (耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)	71.7	71.7	72.0	72.0	75.6以上	向上	未達成	100.0	64.1	耐震化を予定していた内島見配水場調整池の耐震化を先送りしたため目標を下回った。内島見配水場は施設再編基本構想において今後の整備方針を検討することとしている。これを除いて29年度末における未耐震化配水池は青山浄水場、満願寺浄水場系秋葉配水場、同長峰配水場、戸頭浄水場の配水池となっている。
6 (全体) 管路更新率(期間平均) (管路更新延長/管路総延長)	1.16	0.73	0.69	0.45	0.90以上	低下	未達成	0.87以上	0.97	管路の更新延長が計画を大きく下回った(計画約38km/年:実績約27km/年)ことにより、「6管路更新率」「7老朽化管路率」「8管路耐震適合率」は目標に達しなかった。
7 (全体) 老朽化管路率 (更新周期を超えた管路延長/管路総延長)	4.8	4.4	4.2	4.0	3.3以下	向上	未達成	0.9以下	—	更新延長が計画を下回った要因は、管路布設工事における人件費及び材料費の上昇並びに経費率の上昇により工事費が高騰した一方で、財政的制約(補助金の確保等)により、当該上昇分を建設改良費に上積みするなどの対応が難しかったことによる。
8 (全体) 管路耐震適合率 (耐震適合性のある管路延長/管路総延長)	66.0	67.0	67.6	68.1	68.5以上	向上	未達成	73.7以上	—	加えて、基幹管路の更新を優先するために、これに対し予定以上に財源を振り向けたことから、(更新延長に対する費用効率の高い)配水支管更新が進まなかったことも要因となっている。
9 (基幹管路) 更新率(期間平均) (基幹管路更新延長/基幹管路総延長)	1.01	1.50	1.41	1.08	1.58以上	向上	未達成	1.86以上	—	基幹管路の更新延長が計画を下回った(計画約5.0km/年:実績約4.3km/年)ことにより、「9基幹管路更新率」「10老朽化基幹管路率」が目標を下回り、「11基幹管路耐震適合率」は更新以外に耐震管の新設があったことから僅かに目標を上回った。
10 (基幹管路) 老朽化率 ※1 (更新周期を超えた基幹管路延長/基幹管路総延長)	5.6	5.4	5.1	4.0	3.3以下	向上	未達成	0.0	—	更新延長が計画を下回った要因は、上記の全体管路における状況に加えて、更新対象の老朽化基幹管路が中心市街地に集中していることにより当初想定以上に工事が困難化しているためである。
11 (基幹管路) 耐震適合率 (耐震適合性のある基幹管路延長/基幹管路総延長)	56.5	59.3	61.2	62.4	62.1以上	向上	達成	72.7以上	56.4	工事の困難化とは、建物密集や交通混雑箇所の状況に応じて施行期間、時間、施工方法が制約を受け工程調整が複雑化すること、掘削によらず推進工法の採用が必要となる場合があること、調整を要する関係者が広く調整内容も輻輳化すること、地下埋設物の確認を慎重に行う必要があることなどによる。
12 鉛製給水管率 (道路上での鉛製給水管使用件数/給水管件数)	7.4	7.0	6.3	5.9	5.2以下	向上	未達成	2.0以下	—	他事業工事による配水管の移設時及び鉛管使用密度が一定以上である地域における個別更新を行っているが、配水管移設工事の減少及び個別更新対象地域の減少により、更新効率が低下し、目標値に及ばなかった。 なお、中期以降は水道メーターの検定満期交換に合わせた鉛管取替を予定している。
13 小ブロック構築率 (小ブロック構築完了数/小ブロック構築予定数)	74.8	80.7	81.5	81.5	93.3以上	向上	未達成	100.0	—	他事業工事や管路更新工事に合わせた小ブロック構築を予定しているが、前期においては、この構築の機会が想定よりも少なかったことにより目標を下回った。 なお、今後とも投資効率の観点から小ブロック構築のみを目的とする管路整備は行なわない方針であることに変わりはない。

【委員意見】

- ・老朽化浄水場施設の更新に係る「2老朽化設備率」は低下し目標を下回った。計画最終目標の達成に向けて引き続き計画に従った施設整備が必要である。
- ・浄水場施設の耐震化に係る「3浄水施設耐震率」「4ポンプ所耐震施設率」は計画どおりであり、「5配水池耐震施設率」は目標を下回った。いずれも計画最終年度における耐震化完了(耐震化率100%)に向けて引き続き計画に従った施設整備が必要である。
- ・管路の更新及び耐震化に係る「6(全体)管路更新率」～「10老朽化基幹管路率」は「6(全体)管路更新率」が低下したほかは、いずれも向上したものの目標を下回った。計画最終目標の達成に向けて努力すべきであるが、状況説明によれば、改善に向けては財政状況が大きくかわることから、中期計画期間の状況も踏まえながら、計画最終目標の達成見通し及び現目標の妥当性、仮に達成しない場合のリスク、財政状況等を総合的に検討するとともに明らかにして、後期計画の策定に繋げていくべきである。
- ・「12鉛給水管率」は向上したものの目標を下回った。状況説明欄記載の方法等により計画最終目標の達成に向けて努力すべきである。
- ・「13小ブロック構築率」は向上したものの目標を下回った。計画最終目標の達成に向けて努力すべきであるが、状況説明欄記載のとおりの方針とする場合は、中期の実施状況を踏まえながら、改めて先の見通しを示すことや小ブロックの構築率が100%とならない場合のリスクなどを十分に検討するとともに明らかにして、後期計画の策定に繋げるべきである。
- ・26年度に対して数値的には向上しており一定の評価はできるが未達成の項目が多すぎる、工事費用の高騰等により費用不足という予想外の要因によると思われる。
- ・近年、自然災害が多発しており、市民生活を守るうえで施設の強靱化は必要不可欠、次期実施計画においては目標達成をお願いしたい。
- ・限られた経営資源の中、H26年度比、各施策の実行により各指標の改善傾向は看取できますが、前期目標比、未達成が散見されます。未達成によるリスクの増加が懸念される中、計画遅延による影響の把握、計画最終目標達成への具体的な施策の検討と、「事故や災害は必ず起こりうる」との前提の下、優先順位をつけた経営資源の配分による施策立案をお願いします。

新・中長期経営計画 前期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（3）（目指す方向性 持続）】

【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	計画前	前期実施計画			前期目標	前期評価		計画最終	政令市平均 (28年度)	状況説明等
	H26	H27	H28	H29	(H29)	対H26	対目標	目標(H36)		
1 有収率 (有収水量/年間配水量)	94.5	94.4	94.4	93.3	94.6 以上	低下	未達成	95.0以上	92.2	29年度は、30年1月末の寒波により配水量が増大したものの、増加分のうちの多くが次年度の有収水量（給水量）として計量されること、水道料金の漏水減免制度により有収水量が減免されたこと、積雪により2月の計量が前年並みに推定され、その精算が次年度となること等の理由により、有収率が大きく低下し、目標を下回った。
2 施設利用率 (一日平均配水量/全浄水施設能力)	63.5	63.2	63.3	64.1	64.8 以上	向上	未達成	73.5以上	61.7	配水量が計画値以下で推移したため目標値以下となった。なお、29年度は寒波による配水量の増大があったものの夏期の配水量が低迷し、年度合計では計画値を下回った。
3 施設最大稼働率 (一日最大配水量/全浄水施設能力)	72.3	72.5	70.8	86.3	76.6 以上	向上	達成	87.0以上	68.0	29年度の1日最大配水量が寒波により過去最大（合併後）となる379,675m ³ を記録したことから、一時的に極めて高い値となった。この要因によるほか、27・28年度は配水量が計画値以下であったことから目標を下回った。
4 エネルギー原単位 (kl/m ³) (原油換算エネルギー使用量/年間配水量(万m ³))	0.8694	0.8439	0.8402	0.8485	0.8421 以下	向上	未達成	0.8251 以下	—	浄配水場は、通常時の給水区域に適した設備や運用としているが、29年度は、寒波対応や配水幹線更新に伴う給水区域の変更を行ったため、エネルギー効率が低下し、原単位が悪化した。
5 再生可能エネルギー利用率 (再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量)	0.37	0.37	0.38	0.35	0.35 以上	低下	達成	1.36以上	2.68	青山浄水場、信濃川浄水場及び本局の太陽光発電が順調に稼働し、各年度とも目標を上回った。
6 浄水発生土の有効利用率 (有効利用土量/浄水発生土量)	100	100	100	100	100	維持	達成	100	—	発生汚泥の全量をセメント原材料として有効処分できた。なお、24年度以前に発生し収納庫内に保管していた汚泥の処分に29年度から着手し、29年度はこれについてもセメント原材料として処分した。
7 内部研修実施時間 (時間/人) (延べ年間研修時間/年度末職員数)	14.2	16.1	15.6	16.0	15.8 以上	向上	達成	21.0以上	14.3	研修計画に従って内部研修を計画的に実施したほか、各所属単位でのoff-JTに努めた結果、各年度とも目標を上回った。

【委員意見】

- ・「1有収率」は27・28年度と94.4%で推移した後、29年度は寒波の影響により大きく低下し目標を下回った。政令市との比較では既に高い水準にあるが、有収率の維持、向上は料金収入確保の根幹をなす重要な施策であり、計画最終目標の達成に向けて努力すべきである。
- ・「2施設利用率」及び「3施設最大稼働率」は、年間配水量の増減によるほか分母となる施設能力に応じて変化する指標であり、現計画においては施設能力の縮小による事業効率の向上を目指す観点から、これら値の向上を目標としており、計画最終年度の目標に向けて着実に施設規模の適正化を図る必要がある。
- ・「4エネルギー原単位」は28年度に目標を達成したが、29年度には寒波の影響で目標値を下回った。浄配水場の施設更新に合わせて省エネルギー機器への入れ替え等を図り、計画最終目標の達成に向けて努力すべきである。
- ・「5再生可能エネルギー利用率」は各年度ともに目標値を上回った。中期以降において新たな太陽光発電設備を導入し、計画最終目標を達成しようとする予定だが、投資・経費効率とのバランスにも留意することが必要である。
- ・浄水発生土の有効利用率は各年度ともに100%を維持した。今後、処分を進める予定である24年度以前に発生した収納庫内に保管する汚泥の処分に当たっても、引き続き関係法令に従った上でできる限りの有効利用を図るべきである。
- ・内部研修実施時間は27年度、29年度において目標値を上回った。水道技術の継承は重要であり、内部・外部に係わらず研修を着実に実施することは重要であり、今後とも充実を図るべきである。
- ・次期実施計画においても引き続き目標達成のため努力をお願いしたい。
- ・未達成の項目はその原因がハッキリしており問題ないと思われる。

新・中長期経営計画 前期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【参考 単年度事業評価結果一覧表（27～29年度）】

【効率性・有効性評価】 A:非常に高い, B:高い, C:普通, D:低い, E:非常に低い

【方向性】
 ・維持:今までどおり事業に取り組むことが適当
 ・改善・見直し:事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当

方向性	施策	事業・取り組み	効率性			有効性			方向性		
			27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度	27年度	28年度	29年度
安全	I 水質管理の充実・強化	1 水源水質の監視	B	C	C	C	C	C	維持	維持	
		2 水安全計画の充実・適切な運用	C	C	C	C	C	C	維持	維持	
		3 水質管理体制の強化	C	C	B	C	C	C	維持	維持	
		4 新潟市独自の管理目標による水質管理	C	B	B	C	C	C	維持	維持	
		5 分かりやすい水質情報の提供	B	B	B	A	A	B	維持	維持	
	II 給水装置における水質保持	1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	C	C	B	B	C	B	維持	維持	
		2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	B	C	C	B	B	B	維持	維持	
		3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	C	C	B	C	C	C	維持	維持	
強靱	III 水道施設の計画的更新	1 浄配水施設の計画的更新	C	C	C	C	C	C	維持	維持	
		2 管路施設の計画的更新	C	D	D	C	C	D	維持	改善・見直し	
		3 鉛給水管の計画的更新	C	B	C	B	A	C	維持	維持	
	IV 震災対策・体制の強化	1 浄配水施設の計画的耐震化	C	C	C	A	C	D	維持	維持	
		2 管路施設の計画的耐震化	C	D	D	C	C	C	維持	改善・見直し	
		3 重要施設向け配水管の耐震化	C	B	C	C	A	B	維持	維持	
	4 配水管網のブロック化の推進	B	C	C	C	C	C	維持	維持		
	5 大ブロック間の相互連絡管の整備	C	A	B	C	A	B	維持	維持		
	6 事故・災害時における復旧体制の強化	B	B	B	C	C	C	維持	維持		
持続	V 経営基盤の強化	1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	C	C	C	C	C	C	維持	維持	
		2 定員・給与の適正化	C	C	C	B	B	B	維持	維持	
		3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	C	C	C	C	C	C	維持	維持	
		4 遊休資産の有効活用	C	C	C	D	E	C	改善・見直し	改善・見直し	
		5 時代に即した料金制度等の検討・実施	C	C	C	C	C	C	維持	維持	
		6 水道事業経営審議会の効果的運用	B	C	C	C	C	C	維持	維持	
	VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	1 戦略的な広報の実施	C	C	C	C	B	C	維持	維持	
		2 お客さまの意見・要望の把握	B	B	B	C	C	C	維持	維持	
		3 分かりやすい経営情報の開示	C	B	C	C	C	C	維持	維持	
		4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	B	B	C	C	C	C	維持	維持	
	VII 技術・知識を有する人材の確保と育成	1 人材育成と専門性の強化	C	B	B	B	B	B	維持	維持	
		2 諸外国との水道技術研究交流	C	C	C	A	B	A	維持	維持	
VIII 環境に配慮した事業運営	1 建築副産物の再利用促進	C	C	B	C	B	C	維持	維持		
	2 水道局環境計画の策定と推進	C	C	C	C	C	C	維持	維持		

新・マスタープラン前期実施計画重点目標の達成状況に関する事前質問・回答

事業・取り組み	所管課	委員質問	局回答
	水質管理課	<p>①自宅の水道水（直接給水）は、コンクリート上に散水すると金魚水槽のような臭いがします（西区内野西）。ところが、土に散水すると臭いが気になりません。審議会とは関係ございませんが、臭気対策を教えてくださいませんか。</p>	<p>①水道水の臭気確認では、魚臭を含めて異常が無いことを常に確認しています。ご質問にある金魚水槽のような臭いは、水道水の臭気ではなく、散水ホース等に残った滞留水やコンクリートに付着した何らかの汚れと一緒に蒸発して発生したものと考えられます。これに対し、土に散水した場合は水分の多くは浸透しますので、蒸発しにくいため臭気が気にならなかったと考えられます。</p>
強靱	計画整備課	<p>①老朽化および耐震への更新は、長期的な視点が必要だと思う。災害ハザードマップや、地盤の強度などから地震の影響を受けにくい地域の推測を推測し、マスタープランにどのように反映しているのか？ ②中心市街地（建物密集地や交通混雑箇所）における更新工事は諸々の事情により困難化していると思われるが、そういった困難箇所での工事を避けるため、近隣から迂回させるなど、容易に工事ができる方法はないのか？ ③小ブロックをさらに細分化することにより、被災時に大きな被害が緩和され、被害を小さく留めるような見直しは出来ないか？ ④現状に困難を抱えていることは十分に理解できる。交通混雑の道路工事などは、ネットのような素材で路面を覆い（車が踏み進めて）翌夜間に工事をつなげるなど、中心市街地の施工困難箇所の施工方法をより効率的にすることは出来ないか？</p>	<p>①基幹管路において、耐震管以外の管路でも、埋設された地盤が“良い地盤”であれば耐震性能がある管路と評価し、耐震管にその延長を加えたものの全体に占める割合を「耐震適合率」としMPの指標にしています。また、更新の優先順位にも反映しています。 ②老朽化管路の計画的更新に併せて、老朽化管路が多く埋設されている中心市街地を中心に、漏水事故時の影響を考慮し基幹管路の更新を優先しながら、耐震管への入れ替えを進めています。中期実施計画では、近隣から中心市街地へのバックアップを強化するため、青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備を追加しました。施工困難箇所を考慮し水道システム全体としての耐震化を効果的に行うための管路更新や整備に努めます。 ③新潟地震の経験から、浄水場や配水場を核とする給水区域（大ブロック）間で配水幹線の相互連絡機能の強化に取り組むほか、配水ブロックシステムにより、配水幹線（φ400mm以上）と配水支管（φ400mm未満）で、水輸送と給水に管路の機能を分離するとともに、配水支管を小ブロック化することで、震災時の被害範囲を極小化しています。現在の配水ブロック進捗率は81%であり、今後もブロック構築に鋭意取り組みます。 ④交通混雑の道路工事では、掘削部を鋼製鉄板で覆う場合もあります。工事現場では、安全性を最優先に、より施工性が良い工法を関係機関と協議のうえ採用します。</p>
持続	経営管理課	<p>①配水量と給水量が漏水減免制度や次年度清算、見込み計画値の通りならず、収益を捉え難く感じました。大寒波は前年度の推測では比較にならないため、目標値を捉えにくい。前年ではなく、降水量や気温の変化が似ている年度を修正値として、目標値を再設定されてはどうか。</p>	<p>①今回の寒波は昭和59年2月以来の非常事態で、この寒波による被害が無ければ、平成29年度末における有収率は前期末の目標値に近い数値（平成27、28年度位）になったと推測されます。重点項目の目標値は前年数値で設定しておらず、標準的な気候条件で長期的な視点により目標値が設定されていることから、現在のところ、目標値の再設定を行うことは考えていません。</p>

前期実施計画重点目標の達成状況に関する経営審議会評価会長(案)

【評価】

【安全】安全に係る指標は、計画前との比較において向上、または計画前の水準を維持しており、前期目標を達成している。計画最終目標の達成に向けて、引き続き各事業・取り組みを着実に実施する必要がある。

【強靱】強靱に係る指標の多くは計画前に比較して向上したものの、前期目標に達していないものが多く、指標値が計画前より低下したものもある。これら指標は施設・管路の更新・改修事業の進捗状況が反映されたものであるが、多くは経済状況の変化や財政状況等による事業進捗の遅れが原因と考えられる。一方で、将来の水道需要を考慮した上で、水道施設に適正水準の「強靱さ」を付与することは、現在および将来の新潟市民の利益となるものである。そのため、各事業の重要度を十分に考慮し、必要に応じて必要な事業費を確保した上で、各事業の効率的かつ着実な推進に努める必要がある。また、社会・経済情勢の変化に伴う計画の最終的な各種数値目標の見直し等も必要に応じて検討したうえで、中期計画の進捗および後期計画の策定につなげる必要がある。

【持続】持続に係る指標においては、平成29年度有収率が低下し前期目標が未達となっているが、これは平成30年1月寒波の影響と考えられ、平成27・28年度は概ね目標値を達成している。有収率は他の政令市平均を上回る水準を示しているが、前期目標及び最終目標の達成のために今後も必要な対策を必要とする。一方、施設利用率および施設最大稼働率は、寒波災害の影響を除くと、主として水道需要の減少に伴う数値の低下に直面していることから、将来の水道需要を考慮した上で、計画最終目標の達成に向けて施設規模の適正化のための各種施策の計画・推進が必要である。また、浄配水施設の統廃合に伴う遊休資産の有効活用は、期待する成果が得られていないことから、取り組みの強化が必要である。